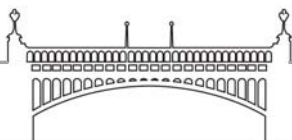

堀川まちづくり構想

～“うるおいと活気の都市軸・堀川”を再び～

堀川 ^{つながる} × ひと ^{つながる} × まち



平成24年10月
名古屋市



“市民の誇りとなる川・堀川”をめざして



名古屋城の築城とともに誕生した堀川は、尾張藩の領地だった木曾の山から伐り出した木材の運搬、貯蔵のほか、領内から運ばれてきた米、野菜、魚といった生活物資の運搬に使われるなど、人々の暮らしを支える川でした。また、豪華なまきわら船が浮かぶ船祭りが行われたり、日置橋では桜や桃の見物のためたくさんの人でにぎわうなど、名古屋の文化を育んできた川でもあります。その後も、明治、大正、昭和と時代が移るなか、名古屋の近代化を支え、発展の土台となるなど、堀川は、まちの歴史と共に歩んだ“名古屋の母なる川”であります。

そんな堀川も、産業の発展に伴う工場廃水や生活排水によって水質が大きく悪化し、臭い、汚い川として、一時は市民の皆さんからそっぽを向かれる存在になってしまいました。

これをなんとか再生させようと、これまで河川の整備や水質浄化に取り組んだ結果、堀川は以前と比べて随分きれいになり、市民の皆さんが様々な活動に取り組んでいただけるようになってきました。

しかしその一方で、名古屋市では“まだまだ、これくらいでは足りないぞ”という市民の皆さんからの熱い期待を感じており、このたび、堀川のより一層の発展と母なる川の再生に向けて「堀川まちづくり構想」を策定しました。

この構想では「堀川」と「ひと」と「まち」が“つながる”ことをテーマにしています。堀川で活動する皆さんの“つながり”によって浄化の活動が活性化され、また、周辺のまちや歴史資源と堀川の“つながり”によってにぎわいが創出されるなど、様々な“つながり”が相乗効果を生み、堀川の魅力が加速度的に広がっていくことを目指していきます。何といたっても、つながる組み合わせも可能性も無限にありますので、皆さんと一緒に、市民の誇りとなる、おもしろい堀川にしていきたいと思っています。

なお、構想の策定にあたりまして、熱心にご議論いただきました堀川まちづくり協議会の委員の皆様、同幹事会の幹事並びににぎわい部会に参加していただいた市民団体の皆様、さらに、貴重なご意見をお寄せいただいた市民の皆様に対し、心より感謝を申し上げます。

平成24年10月

名古屋市長 河村 たかし

目次

1章 はじめに

- 1. 構想策定の背景 2
- 2. 構想の位置づけ 4
- 3. 堀川まちづくり構想とは 5

2章 堀川の歴史と現状

- 1. 堀川のなりたち 8
- 2. 堀川および周辺の歴史・文化資源 12
- 3. 堀川における取り組み 16
- 4. 堀川の移り変わりと課題の整理 26

3章 構想の理念

- 1. 基本理念 30
- 2. 堀川力の向上に向けて 31

4章 堀川まちづくりの指針

- 1. 堀川まちづくりの6つのテーマ 34
- 2. 堀川まちづくりの指針 35
- 3. 拠点エリアの将来イメージ 56

5章 実現に向けて

- 1. パートナーシップによるまちづくり 78
- 2. 構想実現に向けた道すじ 79
- 3. 推進方策 81

参考資料

- 1. 策定経緯 90
- 2. にぎわいづくりのアイデアとヒント 94
- 3. ネット・モニターアンケートの概要 96
- 4. 堀川の水辺空間活用シンポジウム 98

1章 はじめに



1. 構想策定の背景

堀川は、名古屋城築城と時を同じくして開削され、以来 400 年間にわたって名古屋の歴史とともに歩み、人々の暮らしやまちづくりに密接に関わりを持ってきました。江戸から明治・大正・昭和初期にかけては物資輸送の大動脈として名古屋市民の生活を支え、また花見や水遊びなどを楽しむ憩いの場として人々の生活の一部となっていました。

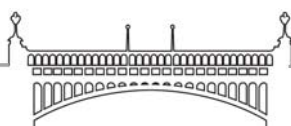
昭和初期から高度成長期にかけて、急速な都市の拡大や産業の発展による環境悪化や輸送手段の変化によって堀川のかつての活気は失われ、人々の生活が堀川から離れていきました。人々の関心が薄れるにつれてさらに環境が悪化するという悪循環を繰り返し、ついには堀川は「死せる川」と呼ばれるまでに至ってしまいました。

その後、都心の水辺空間が見直されるようになり、堀川の再生をめざして始められた護岸整備に合わせたヘドロのしゅんせつ、合流式下水道の改善、庄内川からの導水などによって水質の改善が進むとともに、堀川をとりまく環境への市民の意識も変わってきました。こうした意識の変化の表われとして、「堀川 1000 人調査隊」や「クリーン堀川」など、美しい堀川、楽しめる堀川をめざした市民団体が発足し、活動が活発に行われてきました。

昭和 63 年(1988 年)に魅力ある水辺空間の形成をめざす「マイタウン・マイリバー整備事業」が創設され、堀川はその第 1 号河川に指定されました。本市においては、“うるおいと活気の都市軸・堀川を再び”をコンセプトに、平成元年(1989 年)にまちと川が一体となった総合的な整備を図るよう「堀川総合整備構想」を策定し、平成 14 年(2002 年)3 月にはそのコンセプトを継承した「なごや・堀川プロジェクト 21」が堀川整備に関する懇談会から提言されるなど、マイタウン・マイリバー整備事業による河川整備を進めてきました。

魅力ある水辺空間整備が進むにつれ、こうした空間を利用した都市のにぎわい創出へのニーズが高まり、全国的にも河川とまちが一体となった環境づくりの取り組みが活発化しました。このような河川敷地利用に対する要請から、平成 16 年(2004 年)に国の通達により社会実験として河川敷地のイベント活用やオープンカフェ等の施設設置等が可能となる規制緩和が行われ、平成 23 年(2011 年)には「河川敷地占用許可準則」の改正によって本格的に運用されることとなりました。これを受けて、堀川では平成 17 年(2005 年)から納屋橋周辺においてオープンカフェやイベント利用が可能となり、多くの市民による河川敷地を利用したにぎわいづくりが進められてきました。

平成 12 年(2000 年)の河川法改正では、地域の特性を活かしながら、安全で魅力ある河川整備と流域の空間整備をより積極的に実施することを目的として、一級河川の指定区間を政令指定都市の長が管理することができるようになりました。堀川は、平成 19 年(2007 年)に河川管理権限が愛知県知事から名古屋市長に移譲されました。



まちづくりにおいては、これまでの行政主体から、多様な価値観を持つ地域住民や市民団体、企業などの主体が、行政との連携のもと、地域の特色を活かした魅力ある協働のまちづくりを進めていくことが一層重要になっており、平成 23 年(2011 年)に策定された名古屋市都市計画マスタープランでも戦略的まちづくりの展開として、積極的に地域まちづくりをすすめることとしています。

同年、地域の歴史資源を活かした、魅力的な都市環境の維持・形成に取り組むため「名古屋市歴史まちづくり戦略」も策定され、開削 400 年を迎えた「名古屋の母なる川・堀川」の歴史・文化を掘り起こし、これら沿川のまちの魅力と連携した新たな“都市軸”として再生する機運も高まってきています。

また、松重閘門で堀川とつながっていた中川運河でも“歴史をつなぎ、未来を創る運河 ～名古屋を支えた水辺に新たな息吹を～”をめざした中川運河再生計画が策定され、堀川と中川運河、名古屋港が連携した新たな都市魅力の向上が期待されています。

堀川では、現在も再生に向けた民・産・学・官の様々な活動が実施されており、これが堀川の持つ大きな力の一つとなっています。各団体は、それぞれのテーマを持って個別に活動し、テーマの共通する団体間の連携も見られはじめています。しかし、新たな魅力の発見につながる異なるテーマ間の連携や、堀川を軸とした一体的なまちづくりの展開には至っていません。そのため、各団体が堀川再生に向けた課題を共有し、連携によるまちづくりを進め、課題解決に向けて一体的に取り組むネットワークを形成することが望まれています。

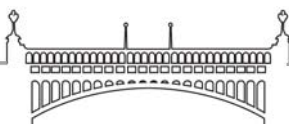
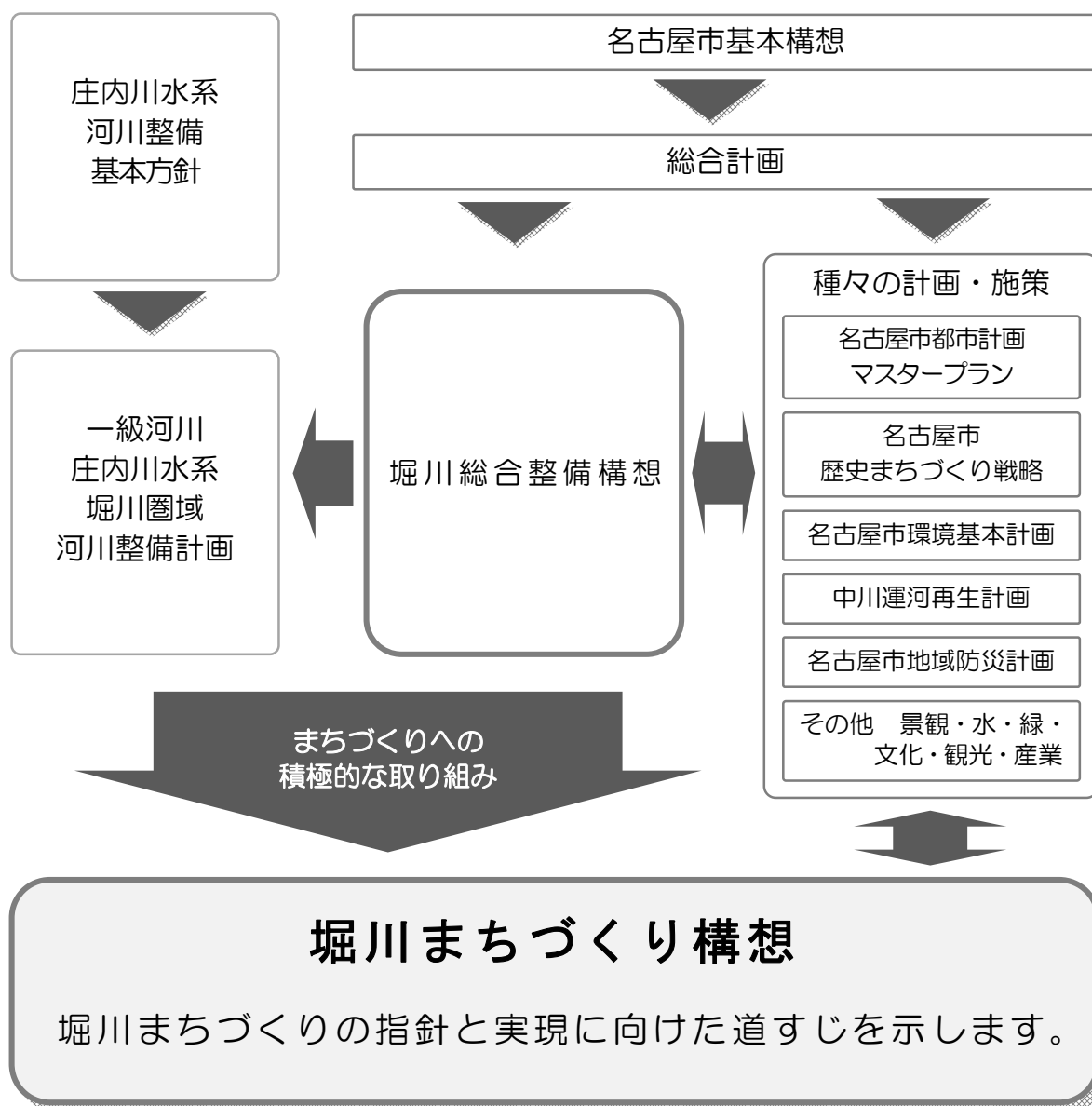
そこで、開削以来、名古屋の歴史とともに歩み、市民の暮らしやまちづくりに密接な関わりをもってきた堀川が、名古屋の母なる川として市民の誇りとなるよう、堀川開削 500 年に向けた長期的な展望を持ちつつ、ここに「堀川まちづくり構想」をとりまとめます。



2. 構想の位置づけ

これまで、堀川は、平成元年(1989年)3月に策定した「堀川総合整備構想」、平成22年に公表した「堀川圏域河川整備計画」に掲げた方針に基づき、計画的に整備を進めてきました。

「堀川まちづくり構想」では、これらの方針を踏まえつつ、「名古屋市都市計画マスタープラン」、「名古屋市歴史まちづくり戦略」、「中川運河再生計画」など関連する種々の計画・施策と整合を図りながら、堀川と周辺のまちが一体となった“堀川まちづくり”により、堀川が新たな都市軸としてさらに発展するための将来を見据えた指針とその実現に向けた道すじを示します。

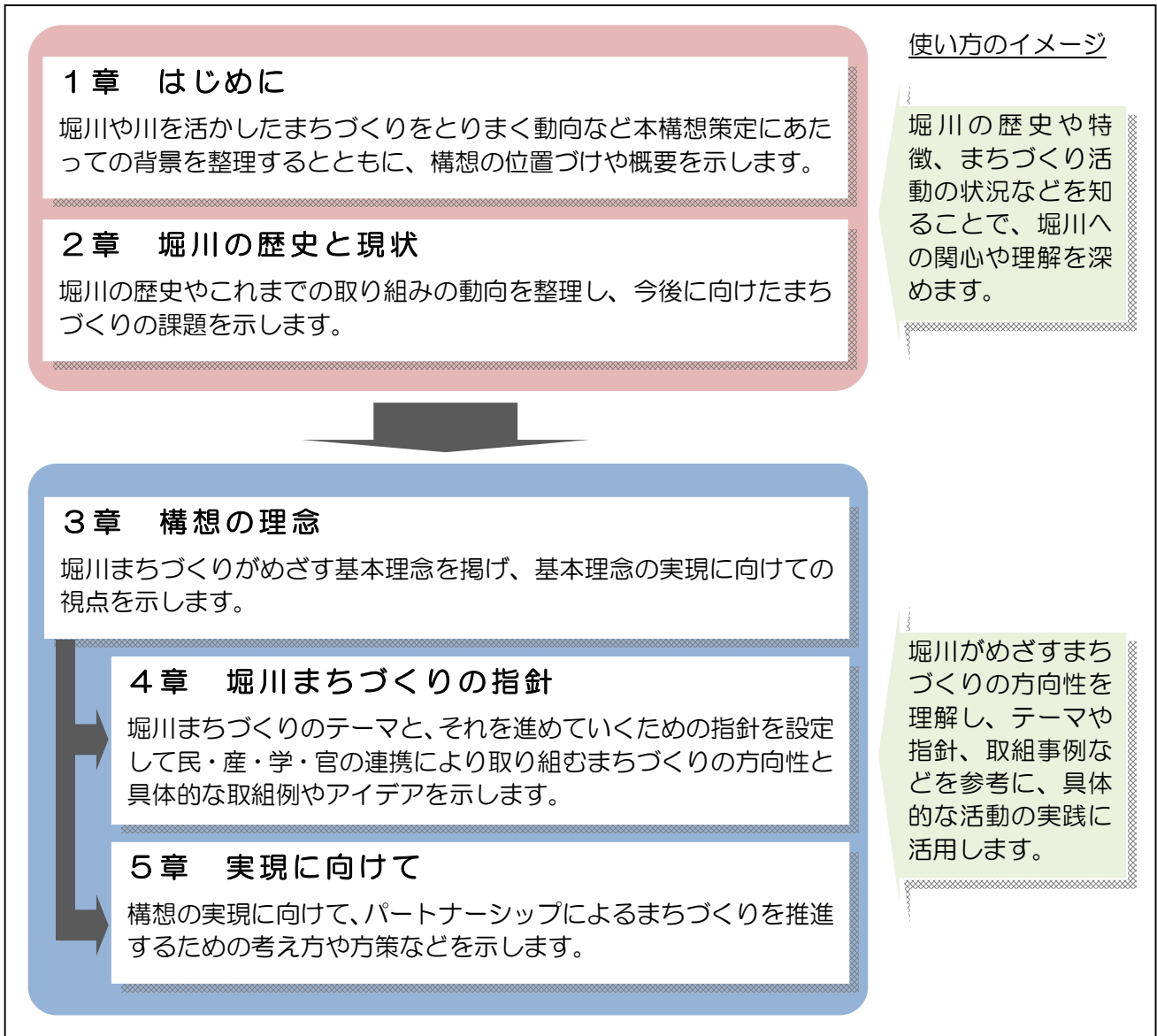


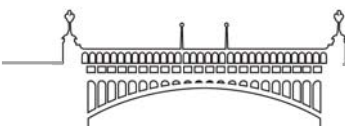
3. 堀川まちづくり構想とは

本構想は、名古屋城築城に合わせて開削され、以来 400 年間にわたり名古屋の歴史とともに歩んだ堀川と、その周辺の歴史・文化資源、まちづくり、市民団体の活動など、堀川をとりまく様々な資産を「民」「産」「学」「官」の協働によって“掛け合わせ”、“つなげる”ことで、堀川と沿川の魅力とが融合し、だれもが主役となって、“名古屋の母なる川”堀川ににぎわいを創出し、その魅力を発信するための指針となるものです。

また、本構想にもとづき堀川での先導的な取り組みの一層の推進を図ることで、今後、名古屋市における様々な“川を活かしたまちづくり”につなげていきます。

堀川まちづくり構想は、次の5章で構成します。





2章 堀川の歴史と現状



1. 堀川のなりたち

堀川は、慶長 15 年（1610 年）名古屋城の築城と時を同じくして福島正則により開削されたと伝えられています。当時は、名古屋城西の巾下と熱田宮の渡しを結ぶ延長約 6 キロの川でした。その後、上流部（黒川）の開削や下流部での新田開発などが進み、名古屋を南北に貫流する現在の堀川になりました。

年表

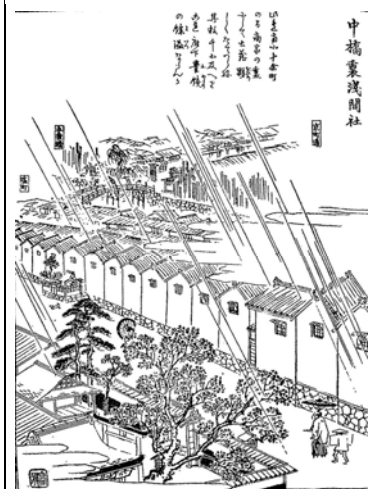
慶長 15 年(1610 年)	名古屋城築城に着手。慶長 17 年完成 福島正則、御普請惣奉行となり堀川開削に着手
16 年(1611 年)	熱田より辰之口まで舟入が可能となり、開削工事が終了
18 年(1613 年)	清須越がほぼ完了し名古屋城下町の基礎が完成
寛永 6 年(1629 年)	白鳥貯木場を整備(当時は、堀川東岸)
10 年(1633 年)	木ノ免・大瀬子(現:熱田区)に魚問屋 8 戸を置き、魚市場を開設
寛文 3 年(1663 年)	守山区竜泉寺下の庄内川から名古屋城のお堀まで御用水路を開削
天明 4 年(1784 年)	大幸川を堀川につなぐ工事を施行
文化 元年(1804 年)	御普請奉行堀弥九郎が、堀川の日置橋付近の両岸に、桃と桜の樹数百本を植樹
天保 7 年(1836 年)	住民による堀川の「冥加浚え」の実施
安政 7 年(1860 年)	長畝付近で桜の増植
明治 4 年(1871 年)	堀川に年々たい積する土砂を、愛知県が常例工事としてしゅんせつ
10 年(1877 年)	黒川の開削工事完了
19 年(1886 年)	愛船(株)の開業式開催(犬山と名古屋間の船による運送事業、大正 13 年廃止)
24 年(1891 年)	300 石以上の船舶は納屋橋上流、航行禁止
32 年(1899 年)	堀川河岸地共同荷揚場及び河岸地取締規則施行
39 年(1906 年)	堀川改修工事費を県会にて決議(工期 4 年)
43 年(1910 年)	新堀川開削工事完了
44 年(1911 年)	瀬戸電気鉄道(現:名鉄瀬戸線)の堀川と瀬戸の間が全通。堀川駅の営業開始
大正 2 年(1913 年)	納屋橋を鋼製アーチ橋へ改築
14 年(1925 年)	堀川の朝日橋から景雲橋、洲崎橋から山王橋のしゅんせつを愛知県が実施



享保 16～18 年頃の名古屋のまち
(名古屋図) 名古屋市蓬左文庫蔵



花見の名所でもあった堀川
(名古屋名所団扇絵「堀川花盛」)
名古屋市博物館蔵



堀川沿いの蔵（四間道）
(尾張名所図絵)

昭和 7年(1932年)	中川運河が全通し、松重閘門で堀川と接続
8年(1933年)	大幸川合流点から朝日橋の改修事業が完了
10年(1935年)頃	水質が悪化し、BODが35mg/L程度に
12年(1937年)	木曾川からの試験通水を実施(約1週間)
14年(1939年)	朝日橋から名古屋港の改修事業完了 木曾川からの試験通水を実施(昭和16年まで)
34年(1959年)	(社)名古屋清港会結成。堀川水面清掃開始 伊勢湾台風により大きな被害が発生
38年(1963年)	堀川浄化のため、庄内川から試験通水開始(昭和55年まで)
39年(1964年)	堀川口防潮水門完成
40年(1965年)頃	水質悪化のピーク
40年(1965年)	愛知県がしゅんせつ事業を開始(昭和48年度まで)
43年(1968年)	通行船舶の減少により中川運河の松重閘門を閉鎖
44年(1969年)	堀川を一級河川に指定
51年(1976年)	名鉄瀬戸線、堀川駅から土居下駅を廃止
58年(1983年)	流況調整河川木曾川導水事業に着手(平成12年中止)
63年(1988年)	マイタウン・マイリバー整備河川第1号の指定
平成 元年(1989年)	堀川総合整備構想を公表
6年(1994年)	ヘドロしゅんせつ工事開始
10年(1998年)	上飯田連絡線の地下鉄工事に伴う地下水の堀川への放流開始(平成13年8月まで)
13年(2001年)	庄内川から堀川へ暫定導水を開始
14年(2002年)	「なごや・堀川プロジェクト21」提言
16年(2004年)	水環境改善緊急行動計画(清流ルネッサンスⅡ)の公表
17年(2005年)	堀川ギャラリー(旧加藤商会ビル)オープン 納屋橋地区「オープンカフェ社会実験事業」実施
19年(2007年)	木曾川からの導水による社会実験を開始(平成24年3月まで。導水は平成22年3月まで) 河川管理権限が愛知県知事から名古屋市長へ移譲
21年(2009年)	納屋橋南地区市有地整備活用事業施設(ほとりす)オープン
22年(2010年)	一級河川庄内川水系堀川圏域河川整備計画を公表 開削400年記念事業を開催



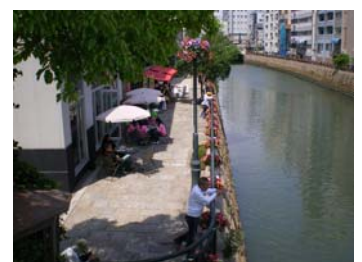
松重閘門



元杵樋門



堀川環境整備事業(ヘドロ除去)



納屋橋周辺のにぎわい



堀川の変遷

① 川の開削

- ・ 名古屋城築城と同じ慶長 15 年(1610 年)、城下への舟運による物資輸送のため、海に面していた熱田と名古屋城下を結ぶ堀川(長さ1里半余り(約 6 キロ)、幅 12~48 間(約 22~87 メートル))が開削された。

②御用水の開削と大幸川の接続

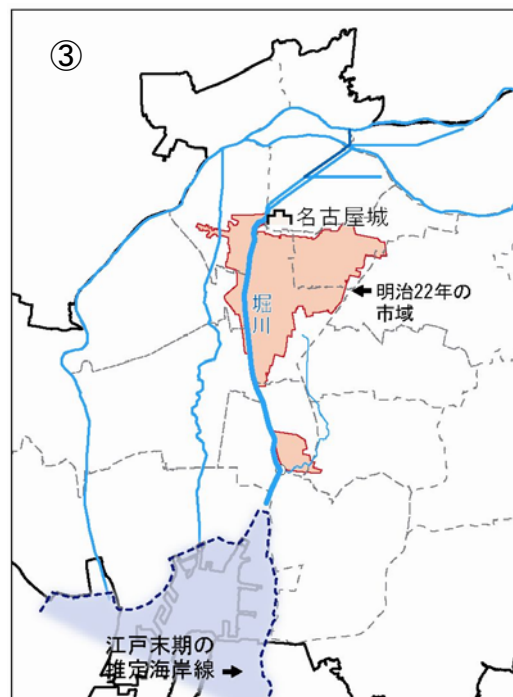
- ・ 寛文 3 年(1663 年)、名古屋城のお堀の水源として御用水が開削され、水源のなかった堀川に庄内川の水が流入するようになった。
- ・ 天明 4 年(1784 年)、浸水被害への対策として、大幸川と堀川がつながれ、堀川は北東へ延伸された。
- ・ 下流部では、埋立てによる新田開発が進められた。

③黒川の開削

- ・ 明治 9~10 年(1876~1877 年)、犬山と名古屋を結ぶ舟運と農業用水の取水を目的に、堀川にそそぐ黒川が造られた。
- ・ 明治以降、下流部での名古屋港築造や工業用地造成のための埋立に伴い、堀川も延伸され 16.2 キロの現在の姿になった。

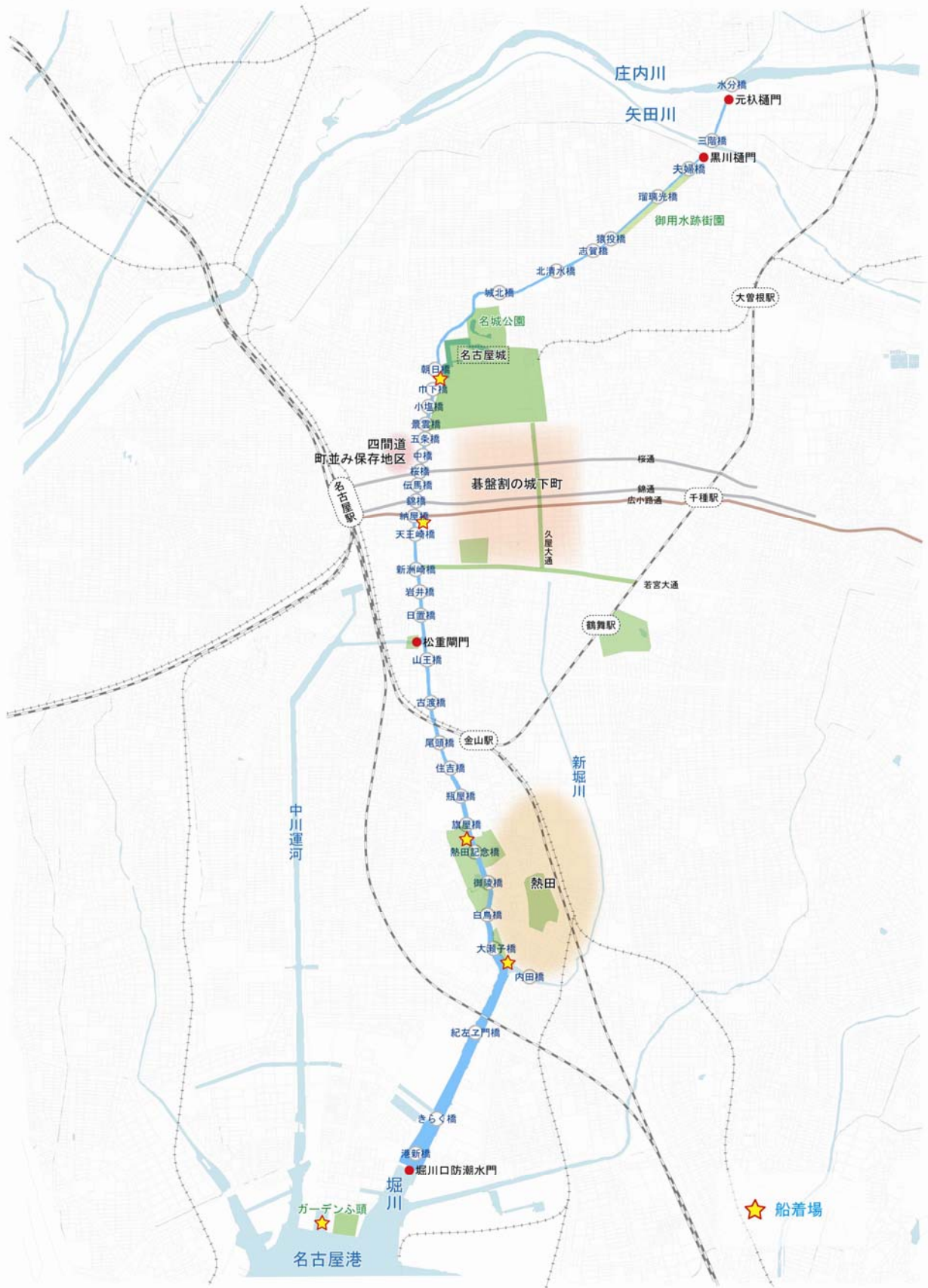


慶長 15 年(1610 年) 堀川の開削

寛文 3 年(1663 年) 御用水開削
天明 4 年(1784 年) 大幸川を接続

明治 10 年(1877 年) 黒川開削

④現在の堀川



2. 堀川および周辺の歴史・文化資源

400年間にわたって名古屋の歴史とともに歩んできた堀川とその周辺には、数多くの歴史・文化資源が点在しています。

主な歴史・文化資源

※上流から順に記載しています。

【黒川樋門】

庄内川から黒川(堀川)へ用水を引くために設けた樋門で、矢田川の地下を通り、ここから黒川へ流れ込みます。3連の樋門に2つの石段があり、巻上機の上屋は木造で復元されています。



黒川樋門

【御用水跡街園】

寛文3年(1663年)、名古屋城の堀と御深井の池に庄内川の水を引き入れるために開削されました。現在は埋め立てられ、遊歩道を主体として街園が整備されています。



御用水跡街園

【名古屋城】

慶長15年(1610年)徳川家康の命により築城開始。慶長17年(1612年)に天守、慶長20年(1615年)に本丸御殿が完成し、初代藩主徳川義直が入城。名古屋城はその壮美さから戦前には国宝に指定されていましたが、昭和20年(1945年)空襲で天守閣などが焼失しました。昭和34年(1959年)に天守が復元され、現在、本丸御殿の復元が行われています。



名古屋城

【五条橋】

名古屋城の築城に伴う「清須越」によって清須城大手口五条川にかかっていた橋を名称とともに移動させたものです。



五条橋

【那古野界隈・四間道】

堀川の水運を利用して米穀、塩、味噌、酒、薪炭などを城下町へ供給する商家が軒を連ねて繁栄してきました。現在でも下町情緒が残る貴重な地域であり「町並み保存地区」に指定されています。



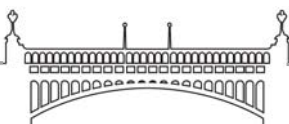
四間道

【西区ものづくり文化の道】

名古屋城の西側に広がるエリアで、名古屋扇子や名古屋友禅といった伝統工芸から菓子製造・卸などの近代産業、産業観光の拠点施設である産業技術記念館やノリタケの森、歴史的資産の四間道や美濃路、屋根神様など、名古屋が誇る様々な地域資源が集中しています。



産業技術記念館



【納屋橋周辺】

平成 17 年(2005 年)から、にぎわいの創出や魅力あるまちづくりのため河川敷地を活用したオープンカフェやイベント等が実施されています。



納屋橋周辺のにぎわい

【納屋橋（福島正則の家紋）】

慶長 15 年(1610 年)の堀川開削とともに架けられた「堀川七橋」の一つ。欄干には、堀川を開削した福島正則の家紋「中貫十文字」が鑄込まれています。



納屋橋・福島正則の家紋

【旧加藤商会ビル】

名古屋に本拠地を置き、主に外米などの輸入貿易を行っていた、加藤商会の本社として利用されていました。舟運の利用に適していたため、納屋橋のたもとに建てられており、川に面した地下階にも出入口が設けられています。大正期の建築意匠の特徴がうかがえ、国の登録文化財に指定されています。



旧加藤商会ビル

【日置橋】

日置橋周辺は桜の名所として有名であった場所で、名古屋名所団扇絵の「堀川花盛」にも描かれています。江戸時代には花見舟が出て、岸には茶屋、料理屋もあったといわれています。



日置橋周辺の桜
(名古屋名所団扇絵「堀川花盛」)

【松重閘門】

昭和初期の中川運河の開通とともに築造された西洋風の閘門で、現在は閉鎖されています。市の指定文化財にも指定されています。



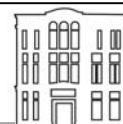
松重閘門

【白鳥貯木場跡】

木曽の山で切られた木が木曽川を下り筏に組まれて熱田に運ばれてきました。当時は堀川の河口であった白鳥に貯木場が設けられ、材木奉行が置かれました。現在は太夫堀の一部を残して埋め立てられ、公園等として整備されています。



白鳥貯木場の水門



【断夫山古墳・白鳥古墳】

ともに6世紀初頭に築造されたと考えられる前方後円墳で、熱田台地の西端に位置しています。断夫山古墳は全長151m、最大巾112mと東海地方最大の古墳で国の史跡に指定されており、白鳥古墳は古くから日本武尊やまとたけるのみことの墓であると伝えられています。



白鳥古墳

【熱田神宮】

三種の神器のひとつで日本武尊の神話に由来するといわれる草薙御剣が祀られています。神殿は伊勢神宮と同様の造りで、天照大神あまてらすおおみかみをはじめとする神々が祀られています。



熱田神宮

【宮の渡し】

宮～桑名間は東海道の中で唯一の海上路で、宮の渡しは尾張藩の海の玄関として栄えました。寛永2年(1625年)に常夜灯が建てられ船の出入りの目印となりました。(現在のものは昭和30年(1955年)に復元されたものです。)



宮の渡し

【名古屋港跳上橋】

臨港線のために1・2号地間運河に架けられた鉄道可動橋で、現在は上げたまま固定され国の登録文化財として保存されています。



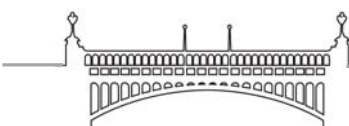
名古屋港跳上橋

【名古屋港ガーデンふ頭】

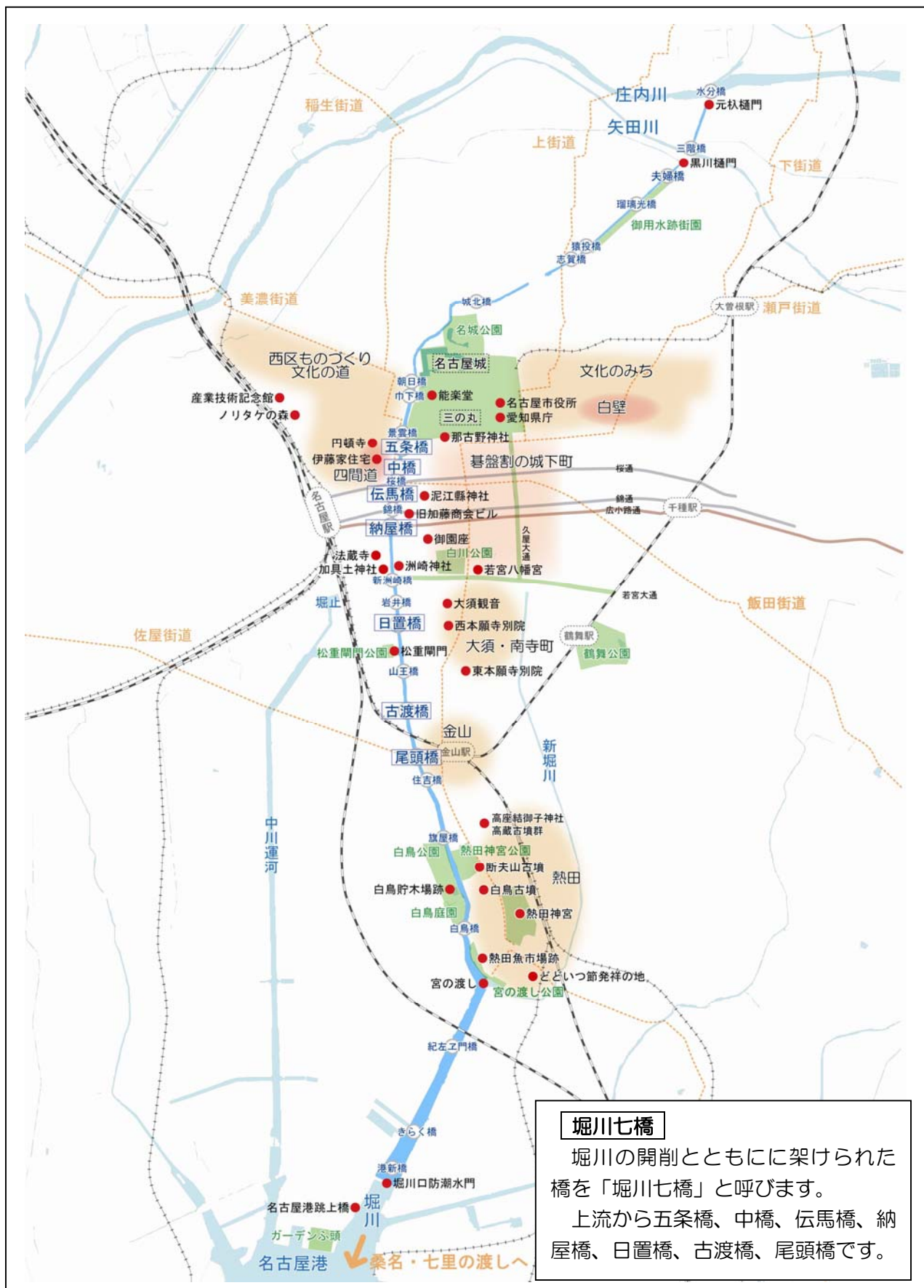
施設の老朽化や港湾機能の沖合展開に伴い、物流の中核的機能を果たしてきた旧2号地ふ頭を市民に親しまれる公園等として再開発を進めています。



名古屋港ガーデンふ頭



堀川および周辺の歴史・文化資源



3. 堀川における取り組み

堀川では、河川整備や浄化の様々な施策が取り組まれています。また、市民活動や市民との協働によるまちづくり活動が行われています。

(1) 河川整備

名古屋市では、「うるおいと活気の都市軸・堀川」を再びよみがえらせることを目標とする「堀川総合整備構想」を平成元年(1989年)3月に策定し、堀川の総合的な整備の理念と実現への基本的な考え方を示しました。これに基づき、白鳥、納屋橋、黒川の3地区において先行的に整備に着手しました。また、平成14年(2002年)には、着手から10年が経過して3地区の整備に目途が付き、「なごや・堀川プロジェクト21」の提言を受けて、新たに松重、名城地区の整備に着手しました。

現在は、平成22年(2010年)10月に公表した「堀川圏域河川整備計画」に基づいて整備を進めています。

1) 整備地区

①白鳥地区

史跡や公園が点在しており、また、名古屋国際会議場を核とした「国際交流」の一面も兼ね備えている地域の特色を活かしつつ、公園整備など他の事業と連携しながら水辺空間の整備を進めています。河川沿いには連続した遊歩道が整備され、散策ができるようになっています。

②納屋橋地区

活気とにぎわいのある都心の水辺空間として回遊性を持たせるため、錦橋から天王崎橋まで川沿いに遊歩道を整備しました。また、船着き場の整備の他、旧加藤商会ビルを堀川に関する情報等の集積や展示を行うためのギャラリーとして整備し活用しています。

③黒川地区

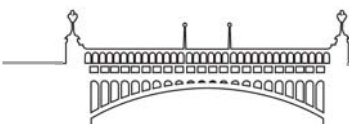
左岸側(川の南側)は、水辺近くに遊歩道を設置し、かつて船溜まりであったところを、その地形を活かして水辺まで降りられるようにするとともに、水に親しみながら憩うことのできる広場(北清水親水広場)としています。

④松重地区

松重閘門と広い水面を活かし、人々が集うにぎわいのある水辺空間づくりをめざしています。また、水辺の緑化による緑陰の創出に配慮した整備を進めています。

⑤名城地区

名城公園と接する区間では、公園との一体的な整備による水面への接近性を重視した親水広場と、水生生物や魚類の生息に配慮した護岸の整備を行っています。また、名古屋城周辺にある史跡を案内する施設を設置するなど、堀川の歴史と触れあえるような整備を進めています。





黒川地区（北清水親水広場）



名城地区（名城公園親水護岸）



納屋橋地区



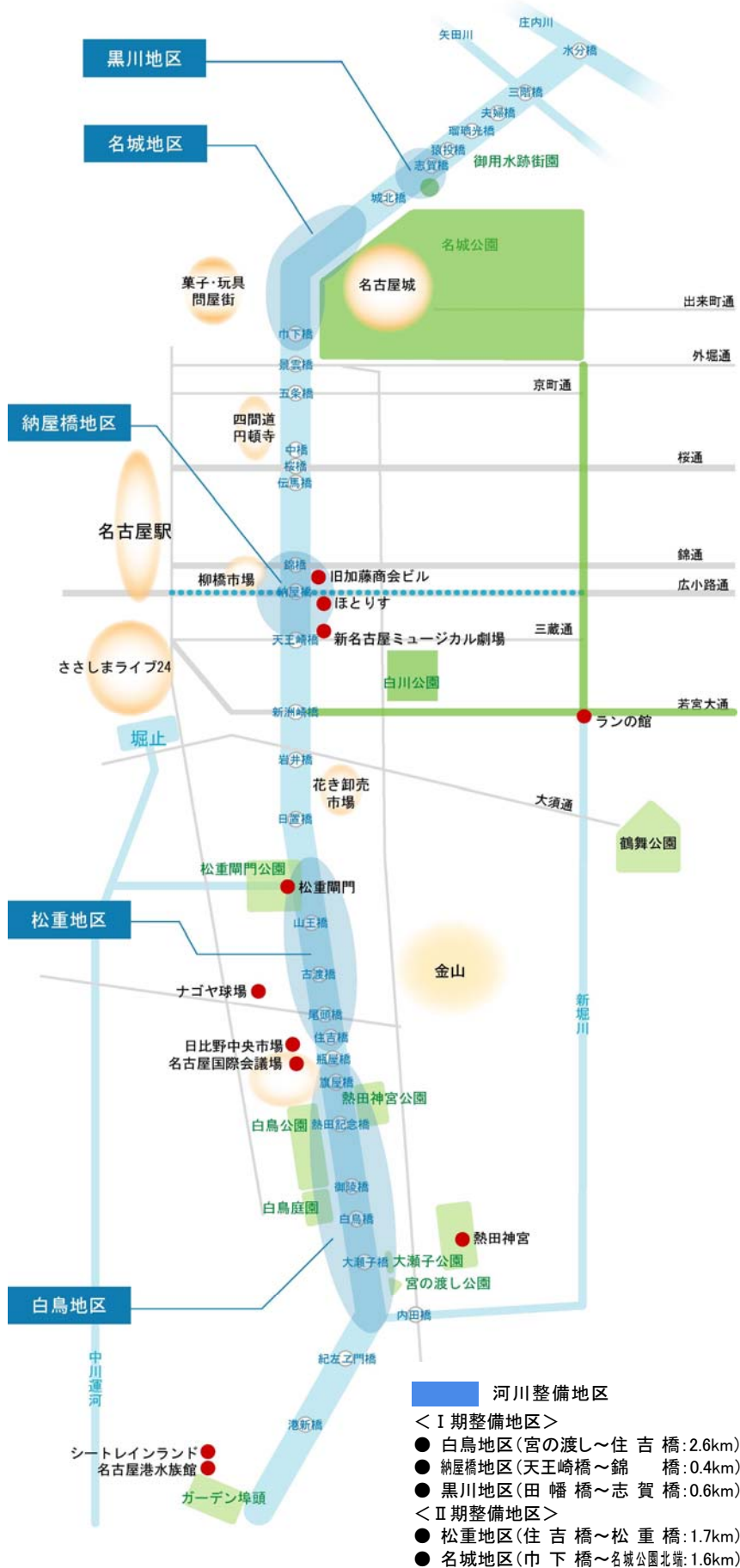
白鳥地区（堀川端プロムナード）



白鳥地区（白鳥プロムナード）



白鳥地区（千年プロムナード）



2) 堀川圏域河川整備計画

名古屋市では今後概ね 30 年間の具体的な河川整備の内容を示す「堀川圏域河川整備計画」を策定し、平成 22 年(2010 年)10 月に公表しました。堀川圏域(堀川流域と新堀川流域)では、関係機関や地域住民のみなさまと連携して、治水、利水、環境に関わる施策を総合的に展開していきます。

①基本理念

- 水害から市民を守る安全な川づくり
- 多様な魚や水生生物が生息し、都心の中で癒しの空間となる川づくり
- 周辺環境と一体で、都心軸を形成する川づくり

を市民とともにめざします。

②河川整備計画の目標

○洪水による災害の発生の防止・軽減に関する目標

- ・概ね 10 年に 1 回程度発生することが予想される降雨(1 時間雨量 63 ミリ)による洪水を安全に流下させます。

○流水の正常な機能の維持に関する目標(平常時の流量に関する目標)

- ・猿投橋より上流においては、維持流量の確保に努めます。(概ね毎秒 0.3 立方メートル)
- ・猿投橋より下流においては、可能な限り流量の確保に努めます。

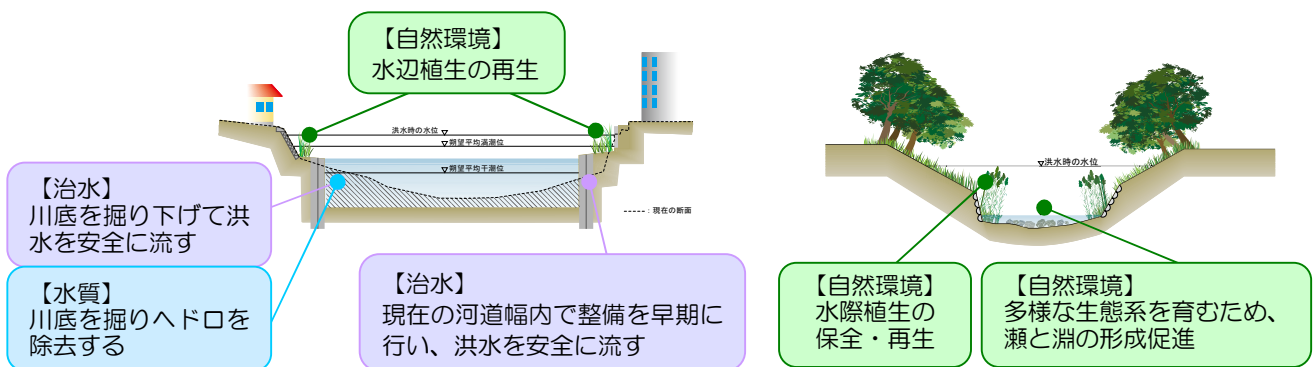
○河川環境の整備と保全に関する目標

- ・人と水生生物が共生できる望ましい河川環境の創出を図り、関係機関や地域住民と連携し、さらなる河川空間の利用促進に努めます。

【標準整備イメージ】

(堀川口防潮水門～猿投橋)

(猿投橋～元杵樋門)



3) 浄化・美化の取り組み

堀川における人と水生生物等が共生できる望ましい河川環境の創出を図るため、平成 16 年(2004 年)度に水環境の改善に取り組む名古屋市と河川管理者、下水道管理者及び関係者が一体となり、堀川水環境改善緊急行動計画(清流ルネッサンスⅡ)として平成 22 年(2010 年)度における目標を定め、これを達成するための施策が計画・実施されました。

水質の浄化・美化への取り組みには、「川をきれいにする」、「汚れた水を流さない」、「新たな水源を確保する」といった3つの要素があり、様々な施策に取り組んできました。

①川をきれいにする

堀川の汚れや悪臭の原因であるヘドロのしゅんせつを、可能な範囲で実施しており、引き続き河川改修に合わせて実施します。この他に、水中の酸素不足を補うための納屋橋下流での酸素供給装置の設置や、植生の創出として、河道内に葦などを植えることによる自浄機能の回復など水質改善を図っています。

美化活動として、水面の浮遊物を除去するため、城北橋下流に浮遊ゴミ除去施設を設置し、ゴミを回収しています。また、多くの市民団体や企業等による堀川周辺の清掃活動が定期的に行われています。



ヘドロのしゅんせつ

②汚れた水を流さない

堀川流域は、そのほぼ全域が汚水と雨水を同じ管で運ぶ合流式下水道で整備されているため、雨量が増加して一定量を超えると、路面など街の汚れや家庭からの汚水を含んだ雨水が堀川に直接放流されます。これに対処するために、一時的に雨水を貯留する雨水滞水池の建設や下水管内のごみ除去装置の設置などを行っています。

また、水処理センターでの下水処理の高度化などにより、川に排出される下水処理水の水質向上を進めています。



下水高度処理施設
(名城水処理センター)

③新たな水源を確保する

水源を持たない堀川の水質浄化を図る上で、水源の確保が重要で、これまで庄内川からの導水や、地下鉄の湧水、揚水井戸による地下水の活用などを実施していますが、今後更なる安定的な水源確保が必要です。

平成 19~22 年(2007~2010 年)の3年間、木曽川の清浄な水を長期間安定的に導水し、これによる浄化効果の確認を社会実験として行いました。行政と市民が協働して調査検証を行い、一定の浄化の効果が確認されました。こうした取り組みから、より多くの市民の水環境改善意識が高まり、上流の水源林や木曽川の保全、下流の伊勢湾の水質改善にも取り組むための活動が進められています。



庄内川からの暫定導水



4) 水質の現況

①水質の経年変化

堀川（小塩橋）における昭和38～平成22年(1963～2010年)までのBOD値と下水道普及率の経年変化を示します。(図 水質の経年変化)

水質悪化は昭和40年代前半がピークで、その後の下水道の整備進捗に伴って大幅に改善され、近年では、ほぼ横ばいとなっています。

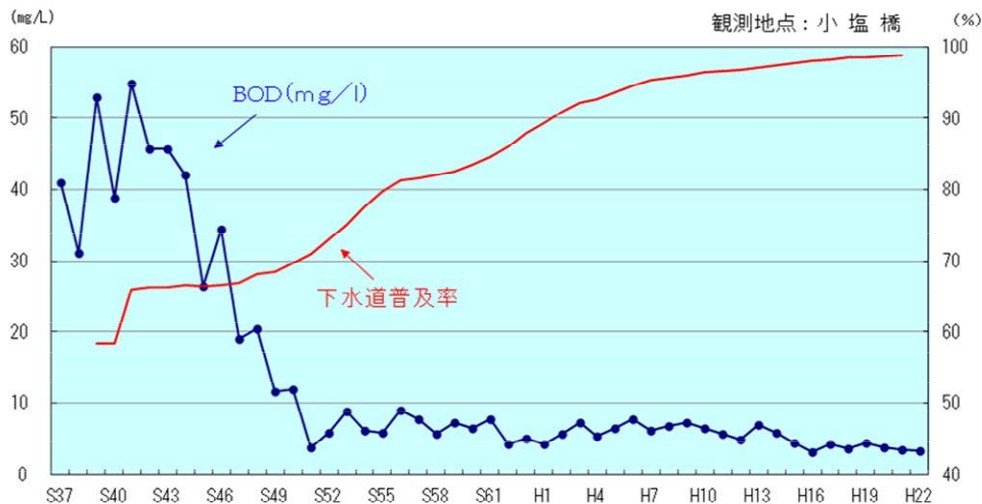


図 水質の経年変化

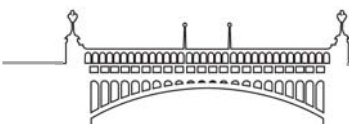
※ BOD（生物化学的酸素要求量）

河川の汚濁を表す代表的な指標で、値が大きいほど汚濁が著しいことを表します。

②水質基準と目標値

堀川は、環境省告示に基づいて設定された「水質汚濁にかかる環境基準」では、BODの基準値は8mg/L以下とされており、名古屋市告示に基づいた「水質汚濁にかかる環境目標値」では、元杵樋門から猿投橋までが3mg/L以下、猿投橋から松重橋までが5mg/L以下、松重橋から河口までが8mg/L以下と設定されています。また、堀川圏域河川整備計画では、元杵樋門から松重橋までが3mg/L以下、松重橋から河口までが5mg/L以下と更に高い目標を設定しています。

近年の様々な浄化の取り組みにより水質は少しずつ改善してきており、環境目標値を概ね達成してきていますが、場所や季節によって変動があり、一年を通して全体で目標を達成している状態までには至っていません。また、市民の皆さまからの堀川浄化への期待は大きく、今後も浄化施策の一層の推進が求められています。



(2) 堀川周辺のまちづくりへの取り組み

1) 名古屋市都市計画マスタープラン

長期的な視点に立って、将来の都市像やまちづくりの方向性を示し、地域住民・企業・行政などの協働によるまちづくりを進めるガイドラインとして、都市計画マスタープランが策定されました。この中で、堀川は「環境軸（緑と水の回廊ゾーン）」の一つに位置づけられており、身近な親水空間としての整備をすすめるとされています。また、まちづくりの重点的な取り組みを推進すべき地域に、堀川沿川のいくつかの地域が位置づけられています。

● 世界に誇る都心づくり

名古屋大都市圏の成長を牽引するため、都心域において、開発誘導・回遊性向上・にぎわい創出の相乗効果により、中枢機能の集積と広域交流機能の充実や風格と魅力ある都市空間の形成を図り、都心を再生します。

地域名：ささしま・名駅南、納屋橋・四間道

● また来たくなる名所づくり

人・歴史・文化の交流を促進するために、観光資源を有する地域において、観光資源と一体的なまちづくりを進めることにより、ホスピタリティの強化と市民の誇りとなる名古屋の魅力の醸成を図り、名所をつくります。

地域名：名城・白壁、熱田、築地

● 広域後背圏を有する既存拠点の再生

都市力・都市魅力を強化するために、広域後背圏を有する都心域周辺の交通結節点において、回遊性向上・にぎわい創出を図り既存拠点を再生することにより、後背圏との一体性と市街地のメリハリを確保します。

地域名：金山



2) 名古屋市歴史まちづくり戦略

開府 400 年(2010 年)を契機に、これまでの名古屋の歴史の積み重ねを振り返るとともに、開府 500 年を見据えながら、地域住民・行政をはじめとする様々な主体が協働して、身近に歴史が感じられるまちづくりに積極的・戦略的に取り組むために、歴史分野におけるまちづくりの基本方針として、歴史まちづくり戦略が策定されました。

この中で、「水の歴史を活かしたまちづくり」として堀川の再生が位置づけられており、黒川樋門、松重閘門などの歴史的建造物の保存・活用、歴史が感じられる水辺景観の形成や沿岸のにぎわい創出などが掲げられています。

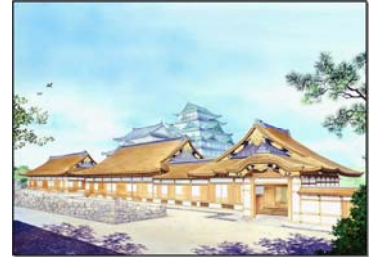


3) にぎわいづくりに向けた取り組み

堀川やその周辺では、歴史や文化を活かしたまちづくりやにぎわいづくりに向けた様々な取り組みが行われています。

①名古屋城 本丸御殿の復元

昭和20年(1945年)の空襲で焼失し、近世城郭御殿の最高傑作と言われ国宝にも指定されていた本丸御殿を忠実に再現し、広く市民が活用でき、世界的な市民の財産となるように、平成21年(2009年)より復元工事を進めています。



②四間道・円頓寺のまちづくり

清須越とともに堀川端に商人町として形成され、現在でも江戸期の土蔵群と町屋が残る四間道地区周辺においては、歴史的資源を活かしたまちづくりが行われています。商店街と地域住民の手作りによる円頓寺七夕まつりも開催されています。



③さしまライブ24地区における市街地整備

名古屋駅の南に広がる大規模再開発エリア「さしまライブ24」。旧国鉄笹島貨物駅跡地の約12.4ヘクタールと中川運河堀止船だまり周辺を含むこの地区で、名古屋大都市圏の玄関口にふさわしい魅力と活気に満ちたまちをめざした取り組みが行われています。



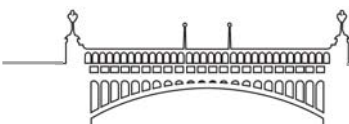
④ガーデンふ頭のまちづくり

名古屋港のシンボルゾーンとして整備され、臨港緑園、ポートビル、南極観測船「ふじ」、名古屋港水族館があり、市民の憩いの場となっています。



⑤沿川の親水空間整備

御用水跡街園遊歩道や白鳥地区のプロムナード、納屋橋地区のリバーウォークなどの散策路や北清水親水広場などの広場整備により親水空間の創出を図り、水に親しむ機会づくりを進めています。



4) 市民活動、市民との協働によるイベント等の取り組み

堀川を中心として、市民活動やイベントの開催など市民との協働による様々なまちづくり活動が取り組まれています。

①黒川友禅流し・黒川生物観察会

「黒川に清流を」の願いを込めて、桜の季節に黒川上流で市民とともに、地域に息づく伝統工芸「名古屋友禅」の糊落としを再現する催し「友禅流し」が平成 11 年(1999 年)より実施されています。

また、黒川ドリーム会が主催する生物観察会が 5~7 月に行われています。



②堀川フラワーフェスティバル

納屋橋付近の両岸を、市民の手づくりによる 400 基のフラワーハンギングバスケットで彩り、ゴンドラや花見船の運航、ミニコンサートやイルミネーションなど様々なイベントが平成 19 年(2007 年)より実施されています。華やいだ姿を復活させ、堀川再生への気運を高めています。



③堀川ウォーターマジックフェスティバル

堀川の持つ魅力を発見し、未来に向けた夢や可能性を市民に実験的に体験していただくことによって、堀川の浄化や堀川を活かしたまちづくりに対する市民の意識の高揚を図ることを目的に平成 15 年(2003 年)より開催されています。



④堀川まつり

NPO法人「堀川まちネット」と地域住民が協力して平成 2 年(1990 年)から継続的に実施しています。かつてこの地域で行われていた「熱田天王祭」を復活させようと、まきわら船や大山(山車)を手作りで再現しています。



⑤堀川 1000 人調査隊

堀川の問題点を、市民自らが見出し、考え、提案することによって堀川再生の足がかりとすることを目的として発足しました。活動を通じ、改めて堀川に対する市民の関心の深さを示し、堀川の問題点を広く市民に理解してもらおうきっかけとなっています。



(3) 堀川に関わる主なまちづくり活動団体

堀川及び周辺では、清掃活動やイベントの実施、調査・研究など、多くの団体が個性や特徴を活かしながら様々な活動を実践しており、団体間の連携もはじまりつつあります。

(掲載は50音順)

●愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター (活動範囲：全域／活動内容：イベント)

愛知淑徳大学の学生が学外の様々な地域のコミュニティに能動的に参加交流し、地域の皆さまとともに活動しながら、実践的な生きた知識や技術を学ぶことを支援する教育組織です。堀川フラワーフェスティバルや堀川ウォーターマジックフェスティバルでイベントブースなどを出店しています。

●クリーン堀川 (活動範囲：全域／活動内容：清掃、イベント、機関紙発行)

平成12年(2000年)3月に発足。市民グループ等からなる連合組織。美しい堀川、楽しめる堀川の実現や、堀川が身近に感じられるまちづくりをめざして、会員相互の情報交流や市民への広報活動を行っています。

●黒川ドリーム会 (活動範囲：堀川上流、三階橋～城北橋／活動内容：清掃、イベント)

北区を流れる黒川を拠点に、多くの鳥や魚が生息し、子どもたちの歓声が聞こえたかつての黒川に再生するため、清掃活動、イベント、小学生を対象とした黒川観察会などの活動を行っています。

●鯨城・堀川と生活を考える会 (活動範囲：全域／活動内容：調査、研究、イベント)

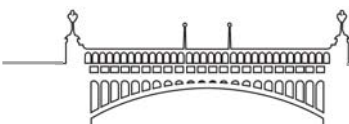
名古屋市の設置した高年大学「鯨城学園」環境学科の卒業生でつくる団体。堀川の浄化をめざして、水質調査(COD、アンモニア、PH、透視度、溶存酸素等)を定期的・継続的に調査して、市民への啓蒙活動を行っています。

●NPO法人 ゴンドラと堀川水辺を守る会 (活動範囲：全域／活動内容：イベント)

心ある市民の参加を呼びかけて平成元年に名古屋市が寄贈を受けたゴンドラの保存と水辺風景の美化緑化を目的に発足。堀川を中心に名古屋都市河川の環境再生活動を実施しています。

●名古屋堀川ライオンズクラブ (活動範囲：全域／活動内容：イベント、調査)

活動の主たる目的を「堀川の浄化、美化」に特化して結成されたボランティア団体であり、「名古屋の堀川を清流に」を合言葉に、堀川の美化、浄化に取り組むほか、堀川エコロボットコンテスト等のイベントを主催しています。



●**なやばし夜イチ実行委員会**（活動範囲：錦橋～納屋橋／活動内容：イベント）

錦橋たもとの「みのりの広場」を中心に、毎月第4金曜日にナイトマーケットを開催しています。物販やフードの他、いろいろなワークショップや写真、作品の展示、ライブなどを行っており、活気溢れる名古屋の魅力づくりをめざしています。

●**日本ハンギングバスケット協会愛知県支部**（活動範囲：錦橋～天王崎橋／活動内容：イベント）

ハンギングバスケットやコンテナ園芸などに関する知識、技術、海外情報などあらゆる情報を提供し、その普及と花の街づくりの推進に努めています。堀川フラワーフェスティバルでハンギングバスケットの製作指導、設置を行っています。

●**広小路セントラルエリア活性化協議会**（活動範囲：錦橋～新洲崎橋／活動内容：計画、整備、調査、研究）

「行ってみたい街、歩いてみたい街、住んでみたい街」を街づくり憲章と定め、国際性豊かなインターナショナル・アミューズメントタウンをめざして、計画策定、地区整備、調査研究に関する事業に取り組んでいます。

●**堀川再生フォーラム**（活動範囲：全域／活動内容：調査、研究）

堀川再生に係る諸課題の具体的解決をめざして各方面から調査・分析・考察を行い、年数回の研究会にて成果を公表し、皆様からご意見・ご指摘を受けることで研究成果を提言へとステップアップさせたいと考えております。

●**堀川1000人調査隊2010実行委員会**（活動範囲：全域／活動内容：調査、研究、イベント）

名古屋市の堀川浄化施策・社会実験の効果を市民の視線で検証するため、地道な調査活動を続けています。堀川を愛する人の輪を広げ、堀川の浄化・再生の早期実現をめざしています。

●**堀川文化探索隊**（活動範囲：全域／活動内容：調査、イベント）

名古屋の堀川文化をていねいに発掘して歩く会で、忘れられたもの、消えゆく文化を発掘することを目的として自由に参加できる会です。

●**堀川文化を伝える会**（活動範囲：中区／活動内容：イベント、調査）

名古屋独自の魅力ある歴史や伝統文化を、広く後世に伝えることを目的として、講演会・歩こう会・展示会・冊子の出版などの活動を行っています。

●**NPO法人堀川まちネット**（活動範囲：全域／活動内容：清掃、イベント、青少年育成）

歴史、伝承文化、環境保全を踏まえたまちづくりの推進を図り、広く市民や各分野の専門家及び海外との交流を深め、青少年の育成事業を推進しています。

（出典：各団体及び名古屋都市センター他のHP）



4. 堀川の移り変わりと課題の整理

1) 堀川の移り変わり

開削から現在に至るまでの堀川の移り変わりについて、以下に整理します。

江戸



<誕生～成長：開削、そして物流軸へ>

- 堀川の開削
- 熱田と城下町を結ぶ物流軸
- 米、塩、木材、海産物問屋の集積
- 日置橋周辺のにぎわい

明治
～
昭和初期



<発展：舟運とにぎわい>

- 舟運の発展、木材運搬軸
- 中川、新堀川の整備
- 黒川開削と分水池の天然プール

高度経済
成長期



<衰退：経済成長の陰、水質悪化>

- 舟運から陸運への転換
- 水質汚濁・都市排水
- 松重閘門の閉鎖

現在

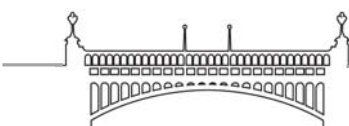


<再生：まちづくりの活発化>

- 市制100周年事業「堀川大改修」
- マイタウン・マイリバー整備事業
- 市民団体等によるにぎわいづくり

将来

<パートナーシップによる堀川まちづくり>

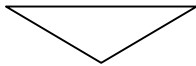


2) 堀川が抱える課題

これまでの移り変わりを踏まえ、堀川が抱える課題を整理します。

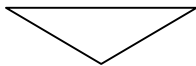
堀川まちづくりの背景と現状

- 堀川は名古屋の歴史を伝える貴重な資源であり、その沿川には堀川開削からの歴史・文化を伝える資源が多く点在します。
- 堀川総合整備構想などに基づく河川整備が実施され、護岸やプロムナードなど沿川空間の整備が進められています。
- 都市計画マスタープラン等の既定計画に基づいた取り組みが進められるなど、沿川の各地区でそれぞれの特徴を活かしたまちづくりが実践または計画されています。
- 現在、多くの市民団体等が個別に堀川を中心に活動しており、団体間の連携による取り組みもはじまりつつあります。



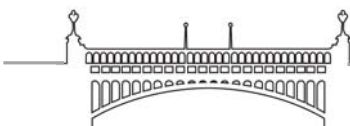
課題の整理

- 堀川周辺に残る多くの歴史・文化資源を掘り起こし、それらを活かしたまちづくりを進めることが求められます。
- これまでの河川整備の蓄積を活かし、河川及び沿川空間の有効活用を図っていくことが求められます。
- 堀川周辺のまちづくりと一体となった取り組みの展開による、堀川を軸としたにぎわいの創出が求められます。
- 持続可能なまちづくりを推進するため、堀川を中心に活動する市民団体間の連携を深めるとともに、民・産・学・官の多様な主体との連携によるまちづくりが求められます。



うるおいと活気の都市軸・堀川を再び





3章 構想の理念



1. 基本理念

堀川まちづくり構想は、これまでの「うるおいと活気の都市軸・堀川を再び」を理念に掲げた「堀川総合整備構想」などの理念を継承し、人々の暮らしやまちづくりと密接に関わり、うるおいや活気をもたらしていた堀川を再び実現することをめざしています。そして、名古屋城築城からまちの歴史と共に重ねてきた堀川の歴史、周辺の歴史・文化資源、水や緑の自然を感じられる空間、堀川に関わる人々の活動など、堀川の持つ魅力やポテンシャルである『堀川力』の一層の向上を図っていくものです。これまで引き出し・活用しきれていなかった「堀川力」に「ひと（多様な主体）」と「まち（地域、都市）」を“掛け合わせる”ことによってそれらが“つながり”、相乗効果となって新たな魅力が生み出されます。周囲のまちを合わせた堀川のあちらこちらで、様々な主体による堀川力向上の取り組みがなされて魅力が生み出され続けることで、堀川の発信力や人々を惹きつける求心力が高まり、堀川が活気とにぎわいに溢れた都市軸として輝き、市民の誇りとなることをめざしていきます。

“うるおいと活気の都市軸・堀川”を再び

堀川 × ひと × まち

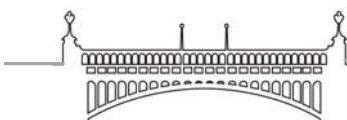
つながる

つながる

ほりかわりよく

★堀川力とは

堀川が、名古屋のまちの発展に大きく寄与し、市民生活を支えてきた歴史ある大切な川であることを再認識し、開削からの400年で培われてきた長い歴史や豊富な文化資源、また、水や緑の自然資源といった堀川がもつ魅力やポテンシャルを「堀川力」と定義します。



2. 堀川力の向上に向けて

以下の3つの視点に基づいて「堀川」と「ひと」と「まち」とのつながりを深め、「堀川力」を一層向上させることで、基本理念の実現をめざします。

① 利活用：川の効果的な利活用

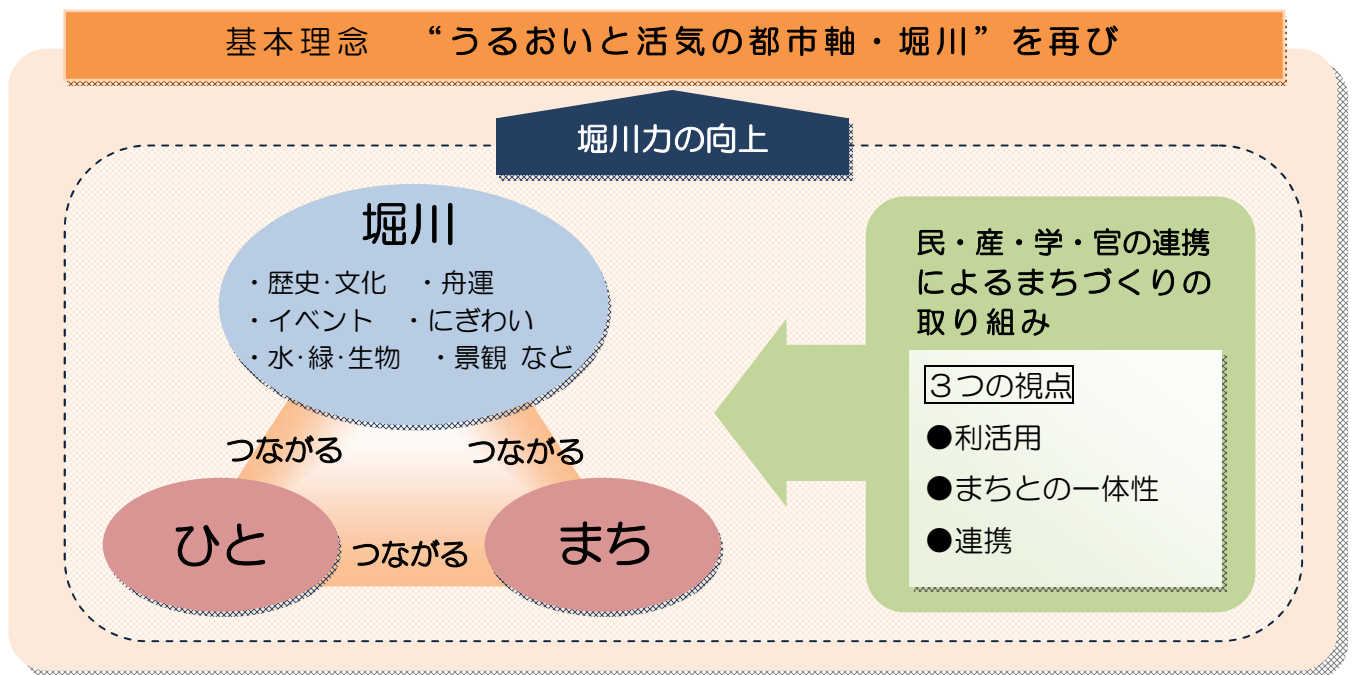
「堀川総合整備構想」などに基づく、これまでの堀川整備の蓄積を活かし、堀川における様々な活動が一層活発に行われるよう、河川の空間利用の障壁となる法規制への対応や人材面、資金面などの活動上の課題への対応を図り、河川及び沿川空間の一層の効果的な利活用を促していきます。

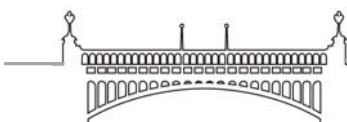
②まちとの一体性：まちづくりと一体となった取り組み

これまで川に関するものが中心だった堀川での活動と他分野や周辺のまちとの関わりを強化することにより、周辺のまちづくりと一体となった取り組みを推進するとともに、環境美化、歴史・文化、緑化、交通・舟運、観光、市街地整備など堀川を舞台とした多様な分野との連携を促進し、総合的なまちづくりの観点から取り組みを展開していきます。

③連携：連携による推進体制の構築

堀川では、一部では既に、市民と行政がうまく連携しながら活動している例も見られます。このような取り組みをさらに広げるとともに、多くの市民、団体などが連携することによって、それぞれの得意分野を活かしながら不得意分野を補完しあい、効果的に取り組みを実践していけるように、堀川に関わる各主体がつながる推進体制を構築し、連携を強化していきます。





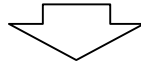
4章 堀川まちづくりの指針



1. 堀川まちづくりの6つのテーマ

市民の誇りとなる堀川の実現に向けた基本理念を踏まえ、「堀川力」をさらに高めていくための“6つのテーマ”を設定しました。それぞれのテーマが関連しあうことで堀川の魅力が向上することから、テーマ間の横のつながりを意識しながら、まちづくりを推進していきます。

基本理念 “うるおいと活気の都市軸・堀川” を再び



“堀川力” をさらに高めるために



堀川まちづくりの“6つのテーマ”

祭と交流の舞台をつくる

多くの市民や観光客が集い、ふれあい、活動し、にぎわいを生み出すまちづくりを進めます。

歴史・文化を活かす

堀川周辺に残る多くの歴史・文化資源を掘り起こし、効果的に活かしたまちづくりを進めます。

船を活用する

航路の確立と船を利用しやすい環境整備により、船を積極的に活用したまちづくりを進めます。

堀川を活かした景観をつくる

堀川の歴史・文化や自然環境を活かした魅力ある景観づくりを進めます。

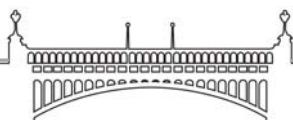
堀川力の向上

水・緑・生物を育む

水辺と花や樹木、生物が共生し、うるおいややすらぎを感じる、環境にやさしいまちづくりを進めます。

堀川を楽しむ場をつくる

親水性の高い空間整備を行うなど、堀川を見て、感じて、楽しむことができる場づくりを進めます。



2. 堀川まちづくりの指針

堀川まちづくりを進めていくため、堀川力向上の具体的な取り組みの方向性と、民・産・学・官の共通目標を示すまちづくりの指針を設定しました。

この指針は、民・産・学・官の各主体がそれぞれの長所や得意分野を活かして連携・協力しながらテーマの実現に取り組んでいくためのよりどころとなるもので、市民団体等との協働により、6つのテーマに対し16の指針を設定しました。さらに、この指針の実現のために取り組むアイデアとして、他都市での事例や堀川に関わる市民団体から提案された事例等をまとめました。

■6つのテーマと堀川まちづくりの指針

テーマ	堀川まちづくりの指針
テーマ1 歴史・文化を活かす	1. 堀川の歴史を伝える
	2. 堀川と周辺のまちの歴史をつなぐ
	3. 歴史的な名所や祭を再生・活用する
テーマ2 堀川を楽しむ場をつくる	4. 水に親しむ場や機会をつくる
	5. 沿川の土地・建物を川面に向ける
テーマ3 祭と交流の舞台をつくる	6. 堀川を軸とした交流拠点を形成する
	7. 堀川の歴史や特色を活かしたイベントを開催する
テーマ4 船を活用する	8. 舟運による交通軸を形成する
	9. 舟運のための環境を整える
	10. 船の利用機会をふやす
テーマ5 堀川を活かした景観をつくる	11. 川沿いの風景を演出する
	12. 景観形成のルールをつくる
テーマ6 水・緑・生物を育む	13. 水と緑のネットワークをつくる
	14. 水と水辺をきれいにする
	15. 多様な生物をはぐくむ
	16. 環境学習を実践する



テーマ1

歴史・文化を活かす

堀川周辺に残る多くの歴史資源や長きにわたって蓄積・継承されてきた文化を掘り起こし、それらを効果的に活かしたまちづくりを進めます。

指針1 堀川の歴史を伝える

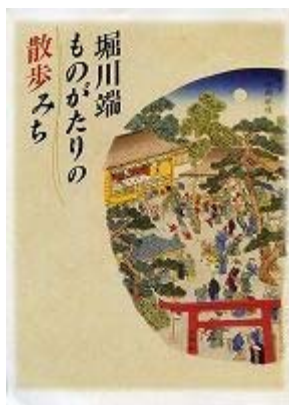
開削400年を迎えた堀川の歴史・文化を掘り起こし、その魅力や価値を幅広く伝えていきます。

1) 歴史・文化資源の整理・情報発信

遺跡、社寺、町並み、近代建築、祭、木材業、海産物商など、堀川周辺に残る多くの歴史・文化資源を掘り起こして整理し、様々な媒体を活用して効果的に情報発信します。

<取組事例・アイデア>

- 市民の堀川に対する認識や愛着を醸成するため、堀川の歴史的な重要性や名古屋都心に残された貴重な水辺空間としての意義について、冊子などを発行して情報発信する。
- 新たな視点で堀川にまつわる歴史、文化資源を掘り起こすため、市民参加による堀川まち歩きやマップ作りに取り組む。取り組みを通じて、市民が堀川の歴史を知り、考えるきっかけとなる機会を創出する。
- (財)名古屋観光コンベンションビューローとの連携を図り、映画・ドラマなどの撮影の誘致を行い、映像作品を通して歴史・文化をはじめとする堀川の魅力を広く情報発信する。



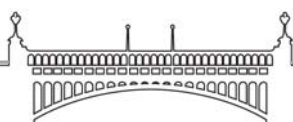
堀川沿川などの社寺や史跡等にもつわるものがたりを集めた冊子

発行：堀川文化を伝える会
名古屋市



熱田ぐるりんマップ

発行：熱田ぐるりんマップ制作委員会



2) 歴史・文化資源の活用

堀川周辺にある、遺跡や社寺、町並み、近代建築、祭、木材業、海産物商など、多くの歴史・文化資源を有効に活用し、堀川の利活用と一体となったまちづくりを進めます。

<取組事例・アイデア>

- ・ 宮の渡しや太夫堀、堀川七橋、名古屋城、辰之口水道大樋跡、黒川樋門などを、堀川の歴史・文化を伝える貴重な資源として保全するとともに、施設整備や修景などの環境整備を行う。
- ・ 黒川樋門、四間道地区の古い商家、旧加藤商会ビル（納屋橋）、松重閘門、宮の渡し周辺の古い建物などの歴史的建造物等は、沿川の地域住民や市民が集い、ふれあうことのできる交流拠点として活用・再生する。
- ・ 本丸御殿の復元など名古屋城の歴史を活かしたプロジェクトの推進にあわせて、舟運利用やイベント開催などにより、堀川と名古屋城との結びつきの強化、名古屋城を拠点とした沿川観光の振興を図る。
- ・ 四間道地区では、舟運にゆかりのある歴史的施設を活用し、堀川と歴史的な町並みとの関わりを強化する。
- ・ 木材産業で使っていた荷揚げ場やクレーンなどを災害時の活用も想定して保存する。



旧加藤商会ビル

3) 生涯学習や学校教育における歴史教育・環境教育の推進

市民が日頃から堀川の歴史や文化にふれ、学ぶことができるよう、生涯学習や学校教育における歴史教育・環境教育を推進します。

<取組事例・アイデア>

- ・ 沿川の施設や学校等で堀川に関連する講座を開講する。
- ・ 講座の実施にあたっては、堀川で活動する市民団体などが講師を派遣する。
- ・ 受講修了生の登録制度（堀川マイスター制度、ボランティアガイドなど）の創設やOB会の組織化などにより、受講生が継続的に堀川と関わりを持ち、活動を続けられる仕組みづくりを行う。
- ・ 学校教育との連携を図り、小中学校の総合的な学習の時間などを活用した、堀川に関する歴史教育・環境教育を実践する。



堀川に関する講座



指針2 堀川と周辺のまちの歴史をつなぐ

熱田や四間道などをはじめ、堀川沿川には古くからの歴史を有するまちが点在しています。こうしたまちの歴史と堀川の水辺空間をつなぎ、一体となった魅力あるまちづくりを進めます。

1) 歴史的界隈を巡る散策路の整備

堀川の水辺空間と沿川地区の歴史的な界隈をつなぐ散策路の整備などにより、市民や観光客が、堀川の水辺とまちの歴史を感じられるまちづくりを進めます。

<取組事例・アイデア>

- ・ 市民や観光客などだれもが気軽に歴史を学びながら散策を楽しむことができるように、界隈ごとに歴史散策マップを作成する。
- ・ 川沿いの遊歩道や船着き場、沿川市街地の主要施設や散策路など主要なポイントには、歴史や特徴などをわかりやすく解説した統一的なデザインによる案内板や標識を設置する。
- ・ 沿川の界隈を巡る散策ルートを設定し、来訪者が安全に快適に楽しむことができる散策路として整備・充実を図る。
- ・ 尾頭橋、日置橋、洲崎橋、納屋橋、五条橋、朝日橋など、堀川沿川の歴史的な界隈への起点となる橋は、界隈の特徴を反映し、歴史を感じられる環境整備を行うなど、観光資源としての魅力向上を図る。



五条橋



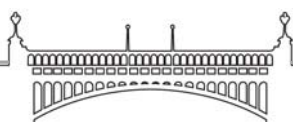
案内板（納屋橋）

2) 歴史・文化を体感できるイベントの開催

堀川と周辺の歴史的な界隈を舞台としたイベントを開催し、市民や観光客が堀川や沿川地域の歴史や文化に気軽にふれられる機会を創出します。

<取組事例・アイデア>

- ・ 堀川を起点に歴史的な界隈を巡る散策イベントなどを開催する。
- ・ 名古屋まつりやにっぽんど真ん中祭りなど市内で開催されている主な歴史的・文化的イベントとも積極的な連携を図り、堀川と一体となったイベント開催を誘導する。



指針3 歴史的な名所や祭を再生・活用する

開削 400 年の歴史を振り返り、かつての堀川で行われてきた数々の伝統行事で現在では行われなくなっているものを発掘し復活させることにより、堀川の新たな魅力として再生します。

1) 船を使った伝統行事の復活・活用

かつてのにぎわいを見せていた頃の堀川で行われていた、堀川の水面や船を使った歴史的・伝統的な行事を復活し、堀川の歴史を伝える新たな魅力として再生し活用します。

<取組事例・アイデア>

- ・ 月見船や花見船など御座船等の舟遊び、まきわら船、施餓鬼供養などの歴史的・伝統的な行事を復活させて、堀川の新たな魅力として再生する。
- ・ 歌舞伎役者の顔見せや船乗り込みを継続的に開催し、堀川の恒例行事として定着化を図る。
- ・ 堀川の水運を活かした伝統産業である木材産業の象徴として、筏の輸送や木挽きの実演などを体験できる筏を利用したイベントを開催する。
- ・ 東海道宿場町である宮の宿と桑名宿を結んでいた七里の渡しを再現した観光船を復活させる。



御座船の活用

2) 名所の再生

堀川開削 400 年の歴史の中でにぎわいを創り出してきたかつての名所を、堀川の新たな名所・魅力として再生します。

<取組事例・アイデア>

- ・ 日置橋周辺の桜並木を復活させて、かつての桜の名所としての魅力を再生する。
- ・ 市指定文化財の松重閘門周辺は、水面と公園が一体となった空間整備を進めるとともに、中川運河と一体となった水上交通の充実を図り、堀川の新たな名所として再生する。



黒川地区の桜並木



テーマ2

堀川を楽しむ場をつくる

広場やプロムナードなど親水性の高い空間整備を行うとともに、沿川建物の堀川との関係性を強化することにより、堀川を見て、感じて、楽しむことができる場づくりを進めます。

指針4 水に親しむ場や機会をつくる

親水広場や連続するプロムナードなど親水性の高い空間整備を行うことにより、水に親しみ、水にふれられる場とします。

1) プロムナードの連続化

沿川の地形や土地利用、建物などの条件を踏まえた多様な整備方法を組み合わせて、連続するプロムナードの形成を図ります。

<取組事例・アイデア>

- ・ 公共空間を活かした遊歩道を整備する。
- ・ 建物1階部分のセットバックにより遊歩空間を確保する。
- ・ 堀川への張り出しを設置する。
- ・ 名古屋城周辺では、本丸御殿の復元整備とともに沿岸の散策路を整備する。
- ・ 橋で分断されている遊歩道をアンダーパスでつなぎ、連続性を確保する。



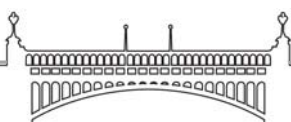
公共空間を活かした遊歩道の連続化の例（東京・天王洲運河）



セットバックによる遊歩空間の例（東京・朝潮運河）



張り出しの設置の例（カナダ・トロント）



2) 堀川を眺める親水広場の確保

堀川の水辺を感じながら憩い、ふれあうことができる親水性の高い広場を確保します。

<取組事例・アイデア>

- ・ 橋詰め緑地・公園を整備する。
- ・ 橋詰めカフェを新設する。
- ・ 松重閘門周辺では、船着き場の新設とともに水面と公園が一体となった憩いの場を整備する。



堀川・シャムズガーデン



水辺と一体となった憩いの場の例
(シンガポール・クラークキー)

3) 水面利用によるスポーツ・レジャー機会の創出

堀川の水面を利用して、様々なスポーツやレジャーを楽しむことができる機会を創出します。

<取組事例・アイデア>

- ・ 堀川口周辺や白鳥地区では、広い川幅を活用したレガッタやカヌーなど水上スポーツを楽しめるようにする。
- ・ 手こぎ・足こぎ船、カヤック・カヌーなどの乗船体験機会を創出する。



堀川ボートフェスティバル



指針5 沿川の土地・建物を川面に向ける

沿川の土地・建物は堀川に背を向けるのではなく、できる限り堀川に顔に向けたものとし、水辺とのつながりを強めて親水性を高めます。

1) 川面に顔を向けた土地・建物利用

川に面した部分を公共的な空間として活用を図るほか、建物部分についても水辺とのつながりを意識できる建物利用を進めます。

<取組事例・アイデア>

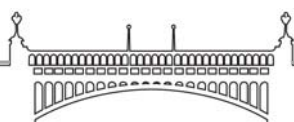
- ・ 沿川の公共的な活用が図れる空間を有効に活用し、オープンカフェを設置する。
- ・ 沿川建物の1階店舗をピロティ化したり、通り抜けを確保する。
- ・ 沿川の建物や敷地からそのまま乗船できるように、船着き場や駐艇スペースを確保する。
- ・ 水辺の活用事例を集め、沿川地権者らに情報発信する。



1階店舗のピロティ化の例
(京都・高瀬川)



川沿いのレストランの例
(シンガポール・クラークキー)



テーマ3

祭と交流の舞台をつくる

堀川やその沿川地域を舞台とした多様な祭や交流の機会を創出することにより、多くの市民や観光客が集い、ふれあい、活動し、にぎわいを生み出すまちづくりを進めます。

指針6 堀川を軸とした交流拠点を形成する

国際コンベンションや各種イベントの開催を通して、市民はもとより国内外から多くの人々が集う、堀川を軸とした交流拠点の形成をめざします。

1) 国際コンベンションや本格的イベント開催の拠点化

堀川沿川の3会場（白鳥、名古屋城、名古屋港）を舞台に行われた世界デザイン博覧会の理念や成果を受け継ぎ、堀川を軸に3つの拠点が一体的につながった交流拠点の形成をめざします。

<取組事例・アイデア>

- ・ 世界デザイン博覧会やCOP10などの国際的なコンベンションや大規模イベントの理念や成果を継承したイベントを継続的に開催する。
- ・ イベント開催時には、来訪者が堀川の舟運を利用し楽しめるように、船着き場や沿岸の環境整備を図るとともに、定期船や観光船の就航を充実させる。



世界デザイン博覧会白鳥会場

2) サミット・シンポジウム等の開催

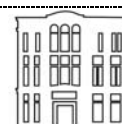
全国の河川や舟運に係る都市や市民団体等が集まり、交流や情報交換を行う機会を創出します。

<取組事例・アイデア>

- ・ 堀川サミットや河川舟運シンポジウムなどを開催する。
- ・ 水都をめざす全国各都市のネットワークに参加し、各都市の取り組みを学び合いながら、その魅力を互いに高め、それを広く発信していく。



堀川の水辺空間活用シンポジウム



指針7 堀川の歴史や特色を生かしたイベントを開催する

現在行われている行事・イベントなどの継続的な実施や充実を図るとともに、かつて行われていた伝統的な行事を発掘・復活し、堀川の歴史や特色を生かした魅力あるイベントを開催します。

1) 市民や沿川地域住民とともに創るイベントの開催

現在行われている祭やイベントを継続的に開催し、堀川での恒例行事として一層の定着化を図るとともに、市民の主体的な参画によって新たな祭やイベントを創造します。

<取組事例・アイデア>

- ・ 堀川まつりや堀川ウォーターマジックフェスティバル、堀川フラワーフェスティバルなどを継続的に開催する。
- ・ 堀川と周辺の歴史的界隈を巡る散策イベントなどを開催し、市民や観光客が堀川や沿川地域の歴史や文化に気軽にふれられる機会を創出する。
- ・ 水上アートフェスティバルや音楽祭など市民参加型の新たな祭やイベントを創造する。
- ・ 年に1回は、名古屋港から熱田・白鳥、納屋橋、四間道・円頓寺などを含めて、名古屋城まで堀川全体を舞台として、各会場を舟運で連絡する一体的なイベントを開催する。



堀川フラワーフェスティバル



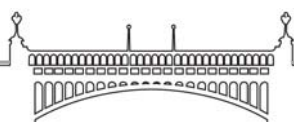
名城・堀川まきわら祭り

2) 船を使った伝統行事の復活・活用【再掲】

かつてのにぎわいを見せていた頃の堀川で行われていた、堀川の水面や船を使った歴史的・伝統的な行事を復活し、堀川の歴史を伝える新たな魅力として再生し活用します。

<取組事例・アイデア>

- ・ 月見船や花見船など御座船等の舟遊び、まきわら船、施餓鬼供養などの歴史的・伝統的な行事を復活させて、堀川の新たな魅力として再生する。
- ・ 歌舞伎役者の顔見せや船乗り込みを継続的に開催し、堀川の恒例行事として定着化を図る。
- ・ 堀川の水運を活かした伝統産業である木材産業の象徴として、筏の輸送や木挽きの実演などを体験できる筏を利用したイベントを開催する。
- ・ 東海道宿場町である宮の宿と桑名宿を結んでいた七里の渡しを再現した観光船を復活させる。



3) 市民に定着している祭などの堀川沿川での開催

市内で開催され、市民に定着している祭やイベントを堀川沿川も会場に加えて開催できるよう関係機関に働きかけます。

<取組事例・アイデア>

- ・ 名古屋まつりやにっぽんど真ん中祭りなどを、堀川沿川で開催できるようにする。
- ・ 愛知トリエンナーレの会場として堀川を活用する。



名古屋まつり

4) 分野や対象の枠組みを超えたコラボによるイベントの実施

祭やイベント等の実施にあたっては、ターゲット（子ども、若者、女性、ファミリー、高齢者など）やテーマ・ニーズ（歴史・文化、食、健康、自然・環境など）を踏まえ、多様な主体の連携と協働により魅力ある企画を展開します。

<取組事例・アイデア>

- ・ 堀川端商家の献立曆を復元し、女性などをターゲットに、堀川の歴史的な雰囲気の中で食事ができる機会を提供する。歴史に食を組み合わせることで、新たなターゲットに歴史を伝える機会を提供する。
- ・ 堀川の歴史をもとに妖怪地図を作成し、子ども向けに妖怪地図で歩く歴史探索の機会を提供する。
- ・ 堀川花盛の団扇絵をおみやげとして再生し、イベント時などに配布・販売する。



堀川エコロボットコンテスト



堀川いこまい祭



堀川アドベンチャークルーズ



テーマ4

船を活用する

堀川の各拠点間や他地域とを結ぶ航路を確立するとともに、船を利用しやすい環境整備を図り、船を積極的に活用したまちづくりを進めます。

指針8 舟運による交通軸を形成する

堀川の各拠点間や他地域とを連絡する定期・不定期の航路を確立し、堀川を通る舟運による交通軸を形成します。

1) 拠点を結ぶ定期船の運航

市民や観光客の日常的な移動手段となる、堀川上下流を連絡する定期船の就航をめざします。

<取組事例・アイデア>

- ・ 名古屋港ガーデンふ頭、宮の渡し、白鳥公園、松重閘門、納屋橋、四間道、名古屋城などを結ぶ定期的な航路を開設し、市民や観光客が日常的な移動手段として活用できる水上交通として、船便の増加や乗船サービスなど利便性の向上を図る。
- ・ バス交通（観光ルートバス・メーグル）や名チャリとの連携などによる名古屋の主要な観光コースへの組み込みを検討するなど、堀川舟運を名古屋の新たな観光ツールとして活用していく。



定期船運航の例（松江・堀川）

2) イベント時の観光船の運航

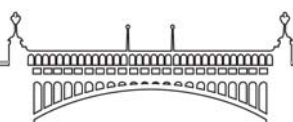
祭やイベント、国際コンベンションの開催などにあわせて、不定期の観光船の就航をめざします。

<取組事例・アイデア>

- ・ 観光船では、堀川と沿川地域の歴史や文化など魅力をわかりやすく案内するボランティアガイドを活用する。
- ・ 沿川施設との積極的な連携に取り組み、船プラスαの観光を推進する。



ナゴヤ堀川歴史観光クルーズ



3) 堀川と他地区を結ぶ定期船の運航

中川運河や名古屋港、桑名・木曾三川方面など他地域と堀川とを結ぶ定期的な航路の開設をめざして、他地域との連携を進め、堀川を拠点とした水辺の観光振興を図ります。

<取組事例・アイデア>

- ・ 中川運河や名古屋港との一体的な水上交通網を形成する。
- ・ 桑名や木曾三川方面との連絡船を就航する。
- ・ 東海道宿場町である宮の宿と桑名宿を結んでいた七里の渡しを街道観光として再現した観光船を復活させる。

指針9 舟運のための環境を整える

船着き場の整備・充実をはじめとして快適で安定した舟運の実現に向けた環境整備を進めます。

1) 船着き場・舟運拠点基地の整備

既設の船着き場の充実を図るとともに、主要な拠点での新たな船着き場の整備を進めます。

<取組事例・アイデア>

- ・ 納屋橋の船着き場は、堀川舟運の拠点基地として、既存施設を活用した乗船者待合所の拡充などの整備・充実を図る。
- ・ 名古屋港ガーデンふ頭、宮の渡し、白鳥公園、名古屋城に設けられた既設の船着き場においても、それぞれの立地上・空間上の条件を踏まえて、待合所や案内板の設置など乗船者の利便性の向上に資する環境整備を図る。
- ・ 松重閘門、四間道・円頓寺などにおいても新たな船着き場の整備を進める。
- ・ 観光バスによる旅行者が利用できるように、船着き場周辺に観光バス用駐車場を整備する。



納屋橋の船着き場



2) 舟運のための河川環境の整備改善

堀川口から名古屋城までを結ぶ航路の充実や中川運河との連携強化に向けて、河川環境の整備改善を図ります。

<取組事例・アイデア>

- ・ 船の運航に障壁となる橋の架け替えを図る。
- ・ 潮位の影響を受けずに船を安定運航できるように堰の設置などを検討する。
- ・ 堀川と中川運河、名古屋港との一体的な水上交通の運航に向けて、松重閘門の活用方法を検討する。

3) 船からみる景観の向上

快適で心地よい舟運の実現に向けて、乗船者の視点に立った魅力ある景観形成を進めます。

<取組事例・アイデア>

- ・ 船から見える橋面の修景や装飾を行う。
- ・ 川沿いは連続した緑や花によって魅力ある風景づくりを行う。
- ・ 沿川地区ごとの景観ガイドラインを作成する。
- ・ 船から橋の名前がわかるように表示板を設置する。



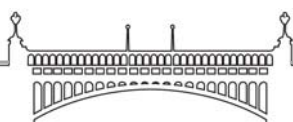
堀川フラワーフェスティバル

4) 舟運の多面的な活用

市民や観光客の日常的な移動手段としてだけでなく、平常時の物資の運搬、災害時の救援物資の搬送や避難手段としてなど、多面的な観点から舟運の有効活用を図ります。

<取組事例・アイデア>

- ・ 水上から沿川建物への物資の運搬ができるような環境整備を行う。
- ・ 災害時において広域的な人員及び物資等の輸送を行う水上輸送路として活用することを見据え、小型栈橋等の荷揚げ場・物揚げ場の活用や確保などを図る。



指針 10 船の利用機会をふやす

移動手段としてだけでなく、堀川の水面での船の多様な楽しみ方を提供します。

1) 船上での多様な活動機会の創出

船を活用した多様な楽しみ方を満喫することができるように、堀川に浮かべた船上での多様な活動機会を創出します。

<取組事例・アイデア>

- ・ レストラン船やカフェ船などを停泊する。
- ・ 水上マーケットや船上イベントなどを開催する。
- ・ かつての堀川で行われていた御座船などの歴史的・伝統的な行事の復活など、堀川の歴史や文化を活かして新たな魅力を創出・発信する各種企画を実施する。



レストラン・カフェ船の例
(オランダ・アムステルダム運河)

2) 水面を利用した多様な体験機会の創出

堀川の水面を利用して、様々な乗船体験を楽しむことができる機会を創出します。

<取組事例・アイデア>

- ・ Gondolaの運航を継続する。
- ・ 手こぎ・足こぎ船、カヤック・カヌーなどの乗船体験機会を創出する。
- ・ 堀川の水運を活かした伝統産業である木材産業の象徴として、筏の輸送や木挽きの実演などを体験できる筏を利用したイベントを開催する。
- ・ ゴムボート等での水上清掃活動を実施し、水辺の美化活動を推進する。



堀川ウォーターマジック
フェスティバル



テーマ5

堀川を活かした景観をつくる

名古屋の代表的な川として、市民が誇りと愛着をもち、観光客にも魅力を感じてもらえるよう、堀川の歴史・文化や自然環境を活かした魅力ある景観づくりを進めます。

指針 11 川沿いの風景を演出する

花や樹木による沿川景観の演出を図るとともに、効果的なライトアップなどにより魅力ある夜景を演出します。

1) 花・樹木などによる景観演出

沿川の樹木の連続化により緑のネットワークを形成するとともに、季節の花で沿川の景観を演出します。

<取組事例・アイデア>

- ・ プロムナードの形成にあわせて、桜並木など沿川の樹木の連続化を図る。
- ・ 日置橋周辺の桜並木を復活させて、かつての桜の名所として魅力を再生する。
- ・ 花壇やハンギングバスケットなどにより、季節の花で風景を演出する。
- ・ 沿川の駐車場や空地などのオープンスペースの緑化を進める。

2) ライトアップによる夜景の演出

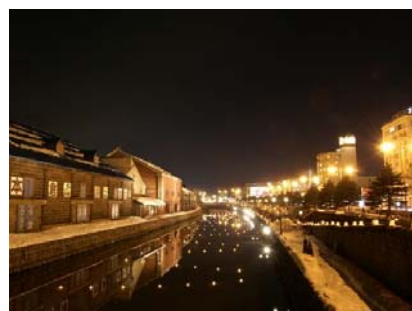
沿川の建物や樹木、橋などのライトアップを行い、魅力ある夜間景観を演出します。

<取組事例・アイデア>

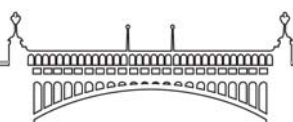
- ・ 沿川の建物や樹木、橋などをライトアップする。
- ・ プロムナード上に特色ある街灯や照明を設置する。
- ・ イベント開催時やクリスマスなどにイルミネーションを行う。



建物や樹木のライトアップの例
(サンアントニオ・リバーウォーク)



特色あるプロムナード灯の例
(北海道・小樽運河)



指針 12 景観形成のルールをつくる

民・産・学・官の連携と協働による沿川の魅力ある景観形成を進めるためのルールづくりを進めます。

1) 屋外広告物の規制・誘導

沿川の魅力ある景観形成に向けて、地域ごとに景観ガイドラインを作成するとともに、名古屋市屋外広告物条例に基づき、屋外広告物の規制・誘導を行います。

<取組事例・アイデア>

- ・ 地区を指定し、屋外広告物の規制や掲出にあたってのルールを定める。

2) 堀川らしい景観の誘導

沿川の一体的な魅力ある景観形成に向けて、名古屋市景観基本計画を踏まえ、堀川の魅力や特性を活かした景観誘導のための指針を作成します。

<取組事例・アイデア>

- ・ 堀川全体及びエリアごとの景観づくりの考え方や手法、建物や工作物など各景観要素のデザインの方向性などを整理したデザインガイドラインを策定する。
- ・ 沿川の景観にふさわしいイルミネーション計画を策定する。



テーマ6

水・緑・生物を育む

堀川の水辺と沿川の花や樹木、そこに生息する生物などが共生し、市民や観光客にうるおいややすらぎを与える、環境にやさしいまちづくりを進めます。

指針 13 水と緑のネットワークをつくる

沿川全域にわたる連続する樹木とオープンスペースの配置により、水と緑のネットワークを形成します。

1) 緑の連続化

沿川の樹木の連続化を図り、水と緑のネットワークを形成します。

<取組事例・アイデア>

- ・ プロムナードの形成にあわせて桜並木など沿川の樹木の連続化を図る。
- ・ 沿川の駐車場や空地などのオープンスペースの緑化を進める。



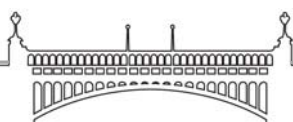
緑の樹木の連続化の例
(オランダ・アムステルダム運河)

2) 風を活かすオープンスペースの確保

風の道である堀川を通る冷涼な海風を周囲の市街地に拡散させ、ヒートアイランドの抑制効果を高めます。

<取組事例・アイデア>

- ・ 緑地・公園の整備を図るなど、沿川にバランスよく緑のオープンスペースを確保する。
- ・ 沿川のオープンスペースの緑化を進め、緑陰空間や風の通り道を確保する。
- ・ 川沿いの建物の高さや過密度を抑制する。



指針 14 水と水辺をきれいにする

堀川の水質浄化と環境美化を進めます。

1) 水質の調査・管理と浄化

水質の浄化と環境美化を進めるため、水質調査を継続的に実施するとともに、調査の結果を踏まえた各種水質浄化施策を講じます。

<取組事例・アイデア>

- ・ 水質の定点観測を定期的実施し、継続的に水質の把握と管理を行う。
- ・ 水の浄化を図るため、清掃船による定期管理を行う。
- ・ 新規水源の確保、ヘドロのしゅんせつ、汚濁負荷軽減、合流式下水道の改善、壁泉、ばっ気などの水質浄化施策を講じる。
- ・ 植生による水質改善として、市民参加による葦や空心菜などの植栽イベントを実施する。



清掃船による定期的管理の例
(サンアントニオ・リバーウォーク)



空心菜の栽培

2) 市民や沿岸地域参加の清掃活動

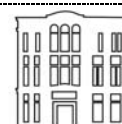
沿川各地域において、市民や地域の住民、学校、企業・事業所などとの協働による清掃活動を実践します。

<取組事例・アイデア>

- ・ 沿川各地域における清掃活動を随時開催する。
- ・ 沿川全域での一斉クリーンキャンペーンを定期的実施する。



堀川一斉清掃



指針 15 多様な生物をはぐくむ

生物多様性に配慮し、水生生物の調査・育成を行うとともに、生き物の生育に配慮した水辺環境の整備を図ります。

1) 生き物に配慮した水辺環境の整備

水生生物と共生する水辺環境の整備を進めます。

<取組事例・アイデア>

- ・ 河川改修や護岸整備などにおいて水生生物との共生に留意した整備を進める。
- ・ 沿川にビオトープを整備する。

2) 水生生物の調査・観察

河川環境の状況を把握するため、環境調査を定期的実施するとともに、市民や地域の住民との協働による観察会などを開催します。

<取組事例・アイデア>

- ・ 水生生物を指標とする環境調査を定期的実施する。
- ・ 環境調査の結果を公表し、生物多様性や環境保全の啓発に活用する。
- ・ 市民や沿川地域の住民、小中学校などとの協働による水生生物の観察会を実施する。
- ・ 外来生物の調査や駆除を定期的実施し、在来生態系の保全を図る。



黒川生き物観察会

3) 水生生物の育成

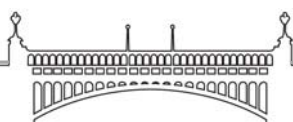
生物多様性の観点から、水生生物の保全・育成に努めます。

<取組事例・アイデア>

- ・ 水生生物の生息域に配慮した整備を行う。
- ・ 瀬・淵の形成によって水生生物の育成環境を整備する。
- ・ COP10の理念や活動を引き継ぎ、生物多様性センターとの連携を図る。



瀬・淵の形成



指針 16 環境学習を实践する

様々な環境啓発イベントや環境教育の实践などにより、堀川との関わりを通して、環境への関心や意識を醸成します。

1) 環境啓発イベントの開催

水質浄化実験や清掃活動、水質調査や生物観察、植樹や水生植物の栽培など、環境啓発に関わる各種の体験イベントを開催します。

<取組事例・アイデア>

- ・ 清掃活動や水質調査、生物観察、植樹や水生植物の栽培などの環境啓発に貢献する活動を継続的に実施する。
- ・ 環境教育の効果を高めるため、生物観察などの体験イベントの開催に合わせて事前・事後の学習会を実施するなど、開催方法を工夫する。
- ・ 堀川をテーマとした写真コンテストを開催するなど、市民や沿川地域住民が堀川の環境に関心を持てる機会を創出する。



水辺の清掃活動

2) 生涯学習や学校教育における環境教育の推進

市民が日頃から堀川的环境にふれ、学ぶことができるよう、生涯学習や学校教育を通じた環境教育を推進します。

<取組事例・アイデア>

- ・ 沿川の施設や学校などで堀川に関連する講座を開講する。
- ・ 講座の実施にあたっては、堀川で活動する市民団体などから講師を派遣する。
- ・ 学校教育との連携を図り、小中学校の総合的な学習の時間などを活用した、堀川に関する環境教育を实践する。

3) 生物観察施設等の整備

沿川において、堀川の水環境や水生生物に関する学習や観察、各種体験などができる場をつくります。

<取組事例・アイデア>

- ・ 堀川の水環境や水生生物の観察ができる施設の整備を検討する。

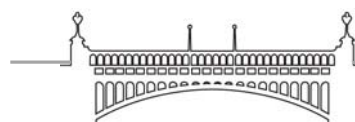
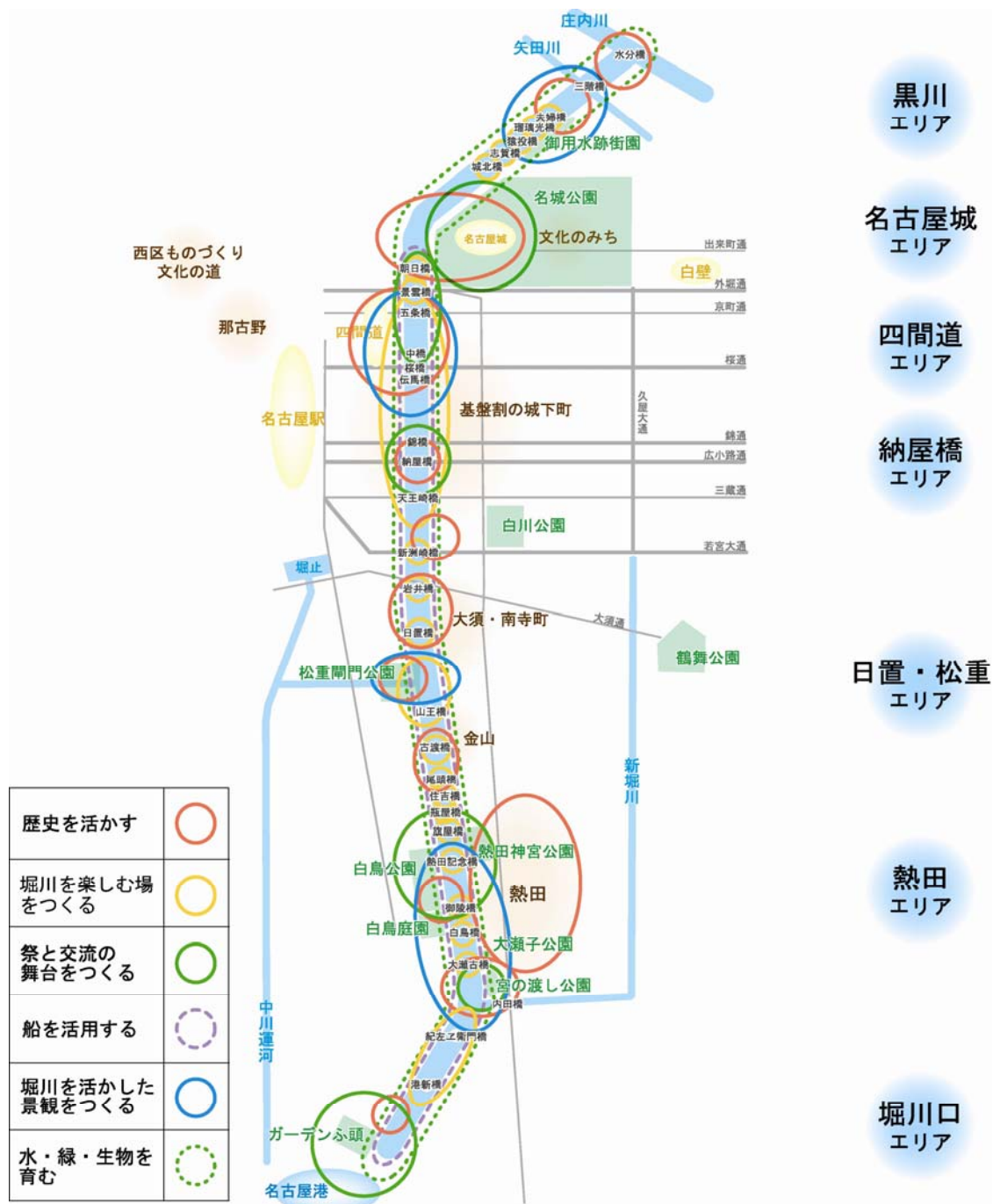


3. 拠点エリアの将来イメージ

堀川まちづくりの指針の実現には、事業展開の可能性の高いエリアにおいて、その特徴に応じた取り組みを進めることが効果的です。そこで、有効な資源をテーマごとに地図上に表し、資源が数多く存在し、事業展開の可能性が高い7つのエリアを「拠点エリア」としました。

また、それぞれの拠点エリアについて、これまでの経緯や現状、主な歴史・文化・観光資源、主なまちづくりの取り組み状況と、それぞれの特色を踏まえたまちづくりの方向性の将来イメージをまとめました。

※将来イメージのイラストは、特定の場所での実際の整備内容を示したのではなく、そのエリアでの実現が期待される取り組み・アイデアを1枚の絵にまとめたものです。



I 黒川エリア

特徴	<ul style="list-style-type: none">・豊かな自然が残る・黒川樋門など堀川の起点となる近代遺産が残る・友禅流しなど、川と関わる人々の営みが息づく
ビジョン	川・水を身近に感じふれあえる環境を伝える

① これまでの経緯や現状

- ・かつて名古屋城内堀へ水を取り入れるために造られた御用水路の跡地が街園として利用されており、豊かな自然が残る。
- ・堀川に生息する生き物をテーマとした環境学習や自然観察会、伝統工芸の再現である友禅流しなど川に入り水とふれあう機会が多い。
- ・名古屋市都市景観重要建築物等に指定されている黒川樋門など堀川の歴史が感じられる資源が残る。
- ・川沿いに、ソメイヨシノや八重桜、山桜などの桜並木があり、桜の名所となっている。
- ・志賀橋から田端橋まで、水面近くに遊歩道が整備されており、水辺散策を楽しむことができる。

② 主な歴史・文化・観光資源

天然プール かつては庄内用水、矢田川伏越、上飯田用水、志賀用水、黒川、御用水の合流点が天然プールとして子供達の遊び場であり、これを伝える石碑が設置されている。

黒川樋門 天然プールに貯めた水を黒川へ取り入れるための施設で、天然プールの埋め立てとともに取り壊されたが、昭和55年(1980年)に明治期の姿そのままに復元された。

八幡社 通称を稚児宮。末社の児子社は古来より虫封じの神として信仰が深い。代々尾張藩主も、幼少時に虫封じを授かったといわれる。

友禅流し 名古屋に息づく伝統工芸「名古屋友禅」の糊落としを再現。毎年、桜の季節に「堀川を清流に」の願いを込めて実施されている。

御用水跡 寛文3年(1663年)夏、庄内川の水を名古屋城内堀に引き入れる目的で開削された用水路で、辻村用水ともいった。その水路は、志賀・田幡村の南を経て御深井御庭の東北隅から城内に入り、さらに幅下、堀川に達していた。明治9年(1876年)この御用水に並行して黒川が切り開かれた。昭和47年(1972年)から埋め立てられ、同49年(1974年)に街園として整備された。

羊神社 本殿は慶長18年(1612年)に再建されたとある。その後、天保9年(1838年)尾張第十一代藩主、徳川斉温公の時代に改築された。昭和31年(1956年)、史蹟名勝箇所に指定されている。

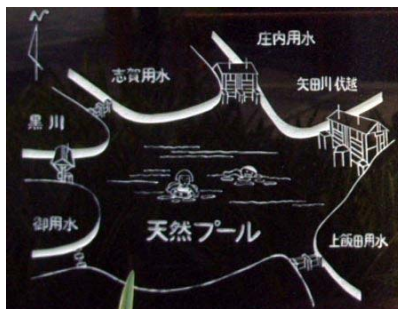


多奈波太神社 主祭神は天之棚機姫命あめのたなはたひめのみことで、古書にも「例祭 7月7日の夕は燈を掲げて諸人参詣す」とあり、大正頃までは七夕の短冊飾りも盛大で、技芸上達の祈願で雑踏した。藩政時代は東照宮の管轄で一般人は柵外よりの参詣で例祭日だけ垣内参拝を許された。

自然観察会 近隣の小学生を対象とした堀川に生息する生物観察会が、市民団体により実施されている。



黒川友禅流し



天然プールの紹介板



御用水跡街園



羊神社



八幡社



安栄寺

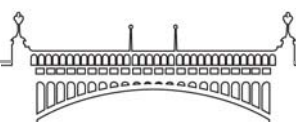


多奈波太神社

③ 主なまちづくりの取り組み

活動
 ・魅力ある黒川の再生
 ・黒川自然観察会
 ・黒川・桜のトンネルウォーク

堀川および
 堀川周辺の
 活動団体
 ・黒川ドリーム会
 ・御用水跡街園愛護会
 ・北区民まちづくり推進協議会
 ・ロマン黒川の会





④将来イメージ

- ・生物観察会など現在行われている活動を継続しつつ、周辺のまちとのつながりをつくる
- ・桜並木を守りつつ、より水に親しめる空間をつくる



II 名古屋城エリア

特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋を象徴する観光拠点・名古屋城を抱え、本丸御殿復元など、名古屋城の歴史を活かしたプロジェクトが進行する ・築城を支えた堀川開削からの歴史が残る ・市民の憩いの場である名城公園が隣接する
ビジョン	名古屋の象徴、名古屋城とそれを支えた堀川の歴史を伝える

① これまでの経緯や現状

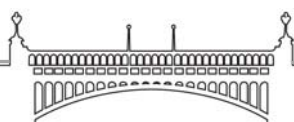
- ・名古屋を代表する観光地として多くの来訪者が訪れる名古屋城では、本丸御殿の復元が行われている。また、正門前には城下町を再現した観光施設の整備も検討されている。
- ・名古屋城南下御門枡形の北に外堀の水位を一定に保つため造られた辰之口水道大樋跡が残されているほか、朝日橋には「堀川堀留跡の碑」が設置されており、堀川開削からの歴史が残っている。
- ・名城公園が近接しており、面積 76.3 ヘクタールの敷地には豊かな自然に囲まれて愛知県体育館や名城公園野球場、蓮池、菖蒲池、名城プール等が立地している。
- ・名古屋城正門から 200 メートル程度に位置する朝日橋には、堀川を航行する船の船着き場が設置されている。
- ・名古屋市役所本庁舎や名古屋市市政資料館、愛知県庁本庁舎など、名古屋を代表する近代建築が立地する。

② 主な歴史・文化・観光資源

名古屋城 徳川家康の築城。慶長 15 年(1610 年)に縄張りを実施し、慶長 17 年(1612 年)に天守閣が完成した。その後約 250 年間、徳川御三家筆頭尾張公の居城として伝領され、明治 5 年(1872 年)に宮内省から名古屋市に下賜された。主要な建物は、戦災により焼失したが、昭和 34 年(1959 年)に近代工法により天守閣が再建された。表二之門(重要文化財)や東南隅櫓(重要文化財)、西南隅櫓(重要文化財)など貴重な伝統的建造物が残されている。毎年夏に名古屋城宵まつりがおこなわれる。

本丸御殿 近世城郭御殿の最高傑作と言われ国宝に指定されていた建物で、現在、国宝になっている京都二条城の二の丸御殿と並ぶ武家風書院造の双璧と言われていた。昭和 5 年(1930 年)に国宝に指定されたが、昭和 20 年(1945 年)5 月、空襲により天守閣とともに焼失した。江戸時代の文献のほか、多くの写真、実測図が残されており、現在復元工事が行われている。

瀬戸電堀川駅 かつて瀬戸で作られる陶器の輸送と陶器作りに必要な資材の運搬を主目的として瀬戸電(現 名鉄瀬戸線)が開通。堀川の水運を利用するため、名古屋城の外堀を通過して明治 44 年(1911 年)に堀川駅が開設された。昭和 51 年(1976 年)廃線。



辰之口水道大樋 かつて名古屋城のお堀の水位調整のため、余剰水を堀川に流していた樋管。現在はお堀に残る取水口が確認できるのみであり、詳細は不明である。

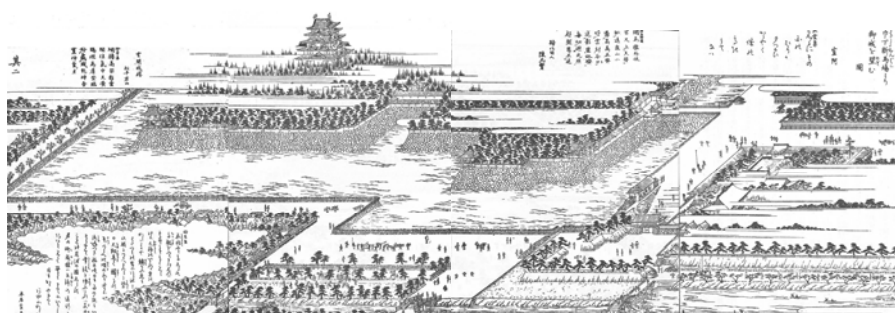
名城公園 名古屋城を中心に二之丸、三之丸、北園までにあるいくつかの公園の総称で、一般的にはお城の北の北園を指す。公園内には、せせらぎの流れる広々とした芝生広場を中心に御深井池、四季の園、名城公園フラワープラザなどがある。

名古屋市役所 本庁舎、東庁舎、西庁舎からなる。本庁舎（昭和8年(1933年)完成）は昭和天皇即位の記念事業であり、平林金吾の設計を基にした頂部に城郭風の屋根を乗せた帝冠様式の意匠が特徴的である。登録有形文化財になっている。

愛知県庁 本庁舎、西庁舎、自治センター、県議会議事堂からなる。本庁舎は、昭和13年(1938年)3月完成。西村好時と渡辺仁の基本設計による、頂部に城郭風の屋根を乗せた帝冠様式の意匠が特徴的である。



船着き場（朝日橋）



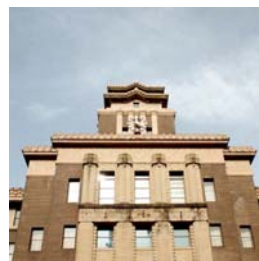
名古屋城のお堀と堀川（尾張名所図会）



名古屋城



辰之口水道大樋



名古屋市庁舎



堀留跡の碑

③ 主なまちづくりの取り組み

- 活動
- ・名古屋城宵まつり
 - ・名古屋城文化フォーラム

- 堀川および堀川周辺の活動団体
- ・名古屋かわを考える会
 - ・名古屋城外堀ヒメポタルを受け継ぐ者たち
 - ・清須越400年事業ネットワーク





④将来イメージ

- ・名古屋城や名城公園と連携させたにぎわいづくりを行う
- ・名古屋城から沿川観光地への舟運の利用促進を図る



Ⅲ 四間道エリア

特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・清須越以来の商人町「四間道」の町並みが残る ・円頓寺商店街ではまちの活性化のための取り組みが進んでいる ・屋根神様や美濃街道などの資源が多く存在する ・船着き場の設置など堀川とのかかわりをもつ施設の設置が望まれている
ビジョン	四間道の町並みに繋がる堀川舟運と荷揚場など、往時の堀川の姿を再生する

① これまでの経緯や現状

- ・堀川端、清須越以来の商人町・四間道は、戦災の被害が少なく戦災復興区画整理の区域外であったことから、土蔵群と町家が残り、名古屋市の「町並み保存地区」にも指定されている。
- ・四間道沿いに神社、町家、長屋等の歴史的建造物が多く、屋根神様が残る建物も見られる。
- ・町並み保存地区にある歴史的建造物の保存・活用が課題となっており、歴史的建造物を活用した店舗が増え始めている。
- ・町並み保存地区以外でも歴史的建造物が残されているが、近年減少しつつあり、駐車場や高層マンションが増加している。
- ・市民や歴史愛好家による勉強会、案内板の設置などが取り組まれている。
- ・円頓寺・四間道界隈でのまちづくり活動が進んでいる。
- ・かつて水運を利用していた商家や材木店等が減り、まちと堀川との関連がみられなくなっている。

② 主な歴史・文化・観光資源

五 条 橋 堀川にかかる橋で堀川七橋の一つ。もとは清須にあったものが清須越と共に名古屋に移された。名古屋市都市景観重要建築物等に指定されている。

円 頓 寺 普敬院日言上人が開山した日蓮宗の寺院で、創建当初は名古屋城天守閣の余材を拝領して建立された。本堂脇には藩祖義直の側室が寄進した鬼子母神像が安置されている。

伊 藤 家 「清須越」の商家。川岸に蔵を設け、道を隔てて主屋・土蔵が並んでいる。元禄時代より段階的に建築され、主屋・土蔵 4 棟が県指定文化財に指定されている。

浅 間 神 社 応永 5 年(1398 年)6 月に三谷源太夫により富士塚町に勤請され、慶長 15 年(1610 年)名古屋城築城工事のため現在地に移ったとされる。

屋 根 神 様 屋根の上にある小さな祠。通常は火伏の秋葉神社や厄除けの津島神社のほか熱田神宮から迎えてきたお札が祀られている。

美 濃 街 道 江戸時代に東海道・宮宿と中山道・垂井宿を結んだ脇街道。本町通りを伝馬町筋で西折れし、伝馬橋にて堀川を渡る。大船町通りを北上し五条橋西端を通り、枇杷島、清須、起を経て垂井へ至る。



慶栄寺 永正8年(1504年)、善正上人が春日井郡河原村に創建した寺院。大火により全焼した後、現在地に再建された。宝物として聖徳太子木像、阿弥陀如来像などがある。

真宗高田派 真宗高田派の寺院。創建当初は臨江山信行院と呼称したが、宝暦4年(1754年)名古屋別院に専修寺と改称、明暦2年(1656年)に現在地へ移り、元文4年(1739年)高田本坊と改称した。



四間道(尾張名所図会)



現在の四間道の町並み



五条橋



伊藤家



浅間神社



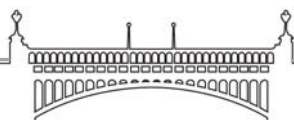
屋根神様

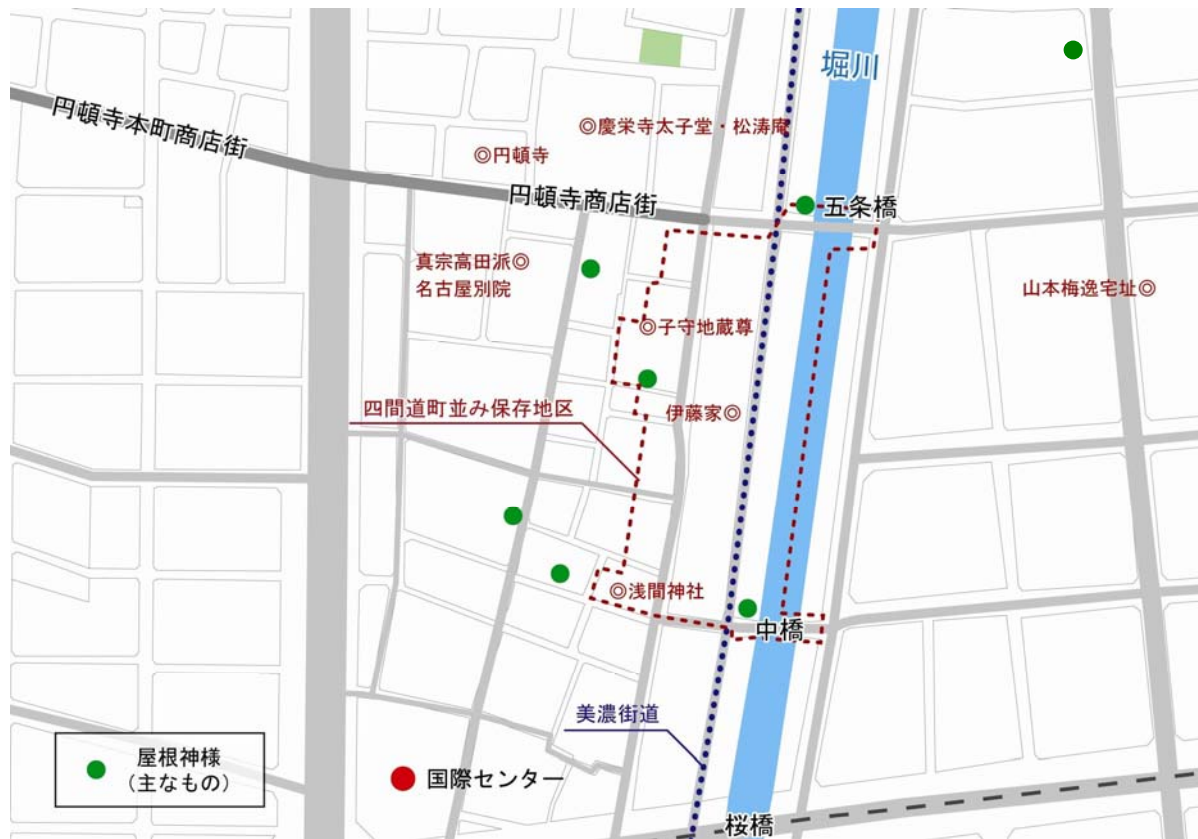
③ 主なまちづくりの取り組み

活動 ・四間道町並み保存地区〈昭和61年(1986年)指定〉
・円頓寺七夕まつり

堀川および
堀川周辺の
活動団体

- ・那古野下町衆
- ・ナゴノダナバンク
- ・那古野一丁目町づくり研究会
- ・美濃路まちづくり推進協議会
- ・商店街(円頓寺商店街振興組合、円頓寺本町商店街振興組合、西円頓寺発展会)
- ・縁側妄想会議編集室
- ・屋根神文化フォーラム
- ・「ものづくり文化の道」推進協議会





④将来イメージ

- ・ 周辺のまちづくり活動と堀川とのつながりをつくる
- ・ 歴史資産を活かしたまちづくり活動を推進する



IV 納屋橋エリア

特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・近代の目抜き通り広小路が通り、近代名古屋の歴史が残る ・河川敷地を活用したオープンカフェやイベントが実施されにぎわい拠点となっている
ビジョン	近代の目抜き通り広小路のにぎわいと近代名古屋の息吹を伝える

① これまでの経緯や現状

- ・堀川開削とともに架けられた「堀川七橋」の一つである納屋橋があり、開削を行ったとされる福島正則にちなみ福島家の家紋が施されている。
- ・納屋橋で広小路通と堀川が交差しており、昭和46年(1971年)までは橋上を市電が行き交うなど近代名古屋のメインストリートだった。
- ・旧城下町に近接しており、錦橋から洲崎橋までの地区には泥江縣神社や洲崎神社、八角堂などの神社仏閣や御船手役所址など史跡が多く残る。
- ・マイタウンマイリバー整備事業により川沿いに遊歩道が整備され、堀川納屋橋地区河川敷地活用事業として、オープンカフェやイベント空間として一定条件のもと使用することが可能となり、地域のにぎわい創出に役立てられている。
- ・堀川ギャラリーの入る旧加藤商会ビルや民間活力の導入による市有地の有効活用として整備したHOTORiS NAGOYA 納屋橋(ほとりす)などの施設がある。
- ・納屋橋の南には船着き場が整備されており、イベント時等には船が運行している。
- ・御園座が近接しており、船上から「興行地到着」の挨拶をするセレモニー「船乗り込み」が平成13年(2001年)と18年(2006年)に堀川で行われた。

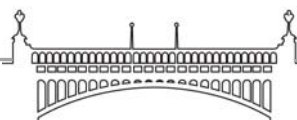
② 主な歴史・文化・観光資源

旧加藤商会ビル 名古屋に本拠を置き、主に外米などの輸入貿易を行っていた加藤商会の本社として堀川に面する納屋橋のたもとに建築された。現在の鉄筋コンクリート造のビルは昭和6年(1931年)に建て直されたもの。テラコッタや外壁のレンガ調タイルなどの近代建築の特徴を残しており、平成13年(2001年)に国の登録文化財となった。現在はレストランや、市民ギャラリーとして利用されている。

廣井官倉 尾張藩の藩倉。当初3棟の蔵があったことから領民が「三蔵」と呼ぶようになり三蔵通にその名を残す。幕末期には28棟の蔵があった。

御船手役所跡 かつて尾張藩の御船手役所が置かれていたところで尾張藩海軍の根拠地であった。弘化4年(1847年)の記録によれば、代々千賀氏が船奉行として藩の艦船を掌握し、尾張、三河、伊勢、志摩に到る海岸防衛に当たっていた。

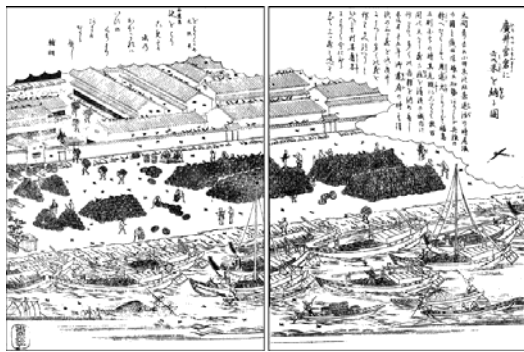
洲崎神社 社伝では貞観年間(860年頃)の創建で、広井天王、牛頭(ごず)天王社、天王崎神社などとも呼ばれた。古くはムク、エノキ、カシ、マツなどが密生した広大な境内だったが、堀川の開削により狭くなった。



泥江縣神社 清和天皇の貞観元年(859年)に筑前国宇佐の八幡宮の分霊として勧請したとされる。慶長の見地町割や維新の際などに社域を減じられた。この神様は耳が遠いので、社殿の裏手にまわって、小石かこぶして殿舎の腰板をたたいたのち、正面に戻って参拝せねば願いが聞かれぬ、との話も伝わる。

御園座 明治27年(1895年)に創立。翌年6月19日に、市川左團次一座の柿(こけら)落として開場した。毎年10月に吉例顔見世が行われる。現在、建て替え計画が進行中。

法蔵寺 初代尾張藩主徳川義直によって名古屋城二之丸御庭に学問所として建設された聖堂が(八角堂)法蔵寺の本堂として移築されており、以来、八角堂と呼ばれている。堂内には本尊の阿弥陀如来像が安置されている。



廣井官倉 (尾張名所図会)



現在の納屋橋



旧加藤商会ビル



泥江縣神社



洲崎神社



船乗り込み (平成18年)
(朝日新聞記事より)

③主なまちづくりの取り組み

- 活動
- ・なやばし夜イチ
 - ・堀川ウォーターマジックフェスティバル
 - ・堀川フラワーフェスティバル
 - ・堀川納屋橋地区河川敷地活用事業
 - ・ほりかわ楽市楽座
 - ・堀川エコロボットコンスト

- 堀川および堀川周辺の活動団体
- ・広小路セントラルエリア活性化協議会
 - ・鯨城・堀川と生活を考える会
 - ・堀川文化を伝える会
 - ・NPO 法人ゴンドラと堀川水辺を守る会





④将来イメージ

- ・多くの市民や観光客が訪れるよう、魅力的なイベントが開催される場とする
- ・沿川建物が川面に顔を向け、市民や観光客が堀川を楽しむ場をつくる



V 日置・松重エリア

特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・堀川花盛に描かれた船遊びと桜の名所 ・松重閘門など、産業都市名古屋の発展期を支えた遺産が残る
ビジョン	舟遊び、桜の名所など「堀川花盛」に描かれた庶民文化とにぎわいの歴史を伝える

① これまでの経緯や現状

- ・堀川開削当時に架けられた堀川七橋のうち日置橋、古渡橋、尾頭橋の3橋や、我が国に現存する鋼製アーチ橋として2番目に古い岩井橋など特徴ある橋梁がある。
- ・堀川と中川運河の水位差を調節し、船舶の航行を可能としていた松重閘門が、閘門としての機能は失われているがモニュメントとして残されている。
- ・松重閘門でつながる中川運河では、中川運河再生計画による再生が進められており、堀川との連携が課題の一つとして挙げられている。
- ・日置橋周辺は、かつては「堀川花盛」に描かれた花見の名所として茶屋などの建ち並ぶにぎわいの拠点であったことから、桜の名所の再生を目指して日置橋付近の護岸を整備し、桜を植樹する事業が進められている。
- ・日置橋のたもとには、「堀川日置橋より兩岸の桜花を望む図（尾張名所図会）」にも描かれる江戸時代から続く石屋が残る。
- ・尾頭橋はかつての佐屋街道として利用された。
- ・数が減ってはいるが、現在でも川沿いに多くの材木店があり、堀川から丸太を陸揚げするためのクレーンなどが見られる。

② 主な歴史・文化・観光資源

松 重 閘 門 中川運河と堀川を連絡する中川運河支線通船路にあり、昭和初期の中川運河の開通とともに築造された西洋風の閘門。両者にわたって航行する船は、水位が異なっているため、ここで水位調整を行い航行を続けた。陸上輸送の比重が大きくなり、昭和43年(1968年)に閉鎖されたが、名古屋の発展を記念する遺構として保存され、周囲は小公園になっている。市の指定文化財。

岩 井 橋 大正12年(1923年)9月竣工。我が国に現存する鋼製アーチ橋としては大阪の本町橋に次いで2番目に古く、唯一、戦前からの飾り板が残る。意匠は武田五一によるもの。

しおがほ 鹽 竈 神 社 付近に松平康久入道無三という武士がいたことから無三殿と呼ばれている。昔百姓が無三殿さまの前で倒れていた河童を介抱したところ、お礼に痔病を治してくれたという伝説から、お参りすると痔病が治ると言われている。また安産にもご利益があると言われている。



二葉亭四迷幼年時代住居跡 小説家として著名な二葉亭四迷は、尾張藩士の長谷川吉数の子として東京市ヶ谷で生まれ、明治元年(1868年)5歳の時に母に連れられ名古屋に移り、明治5年(1872年)までこの地で過ごした。

汗かき地藏 観永寺境内にある。昔、堀川の中に落ちている地藏を発見した百姓が、その地藏を拾い上げ観永寺に持っていき祀ってくれるようお願いしたところ、当時の住職諦善尼が快く引き受けた。その年、日照りと疫病が流行り、村人がその地藏さまに一心に祈ったところ、地藏の額から汗が流れ、空から雨が降り村が救われたという伝説がある。

ナゴヤ球場 中川区露橋二丁目にある野球場。平成8年(1996年)まで中日ドラゴンズの本拠地球場で、ナゴヤドーム完成に伴い、現在は中日ドラゴンズ二軍の本拠地になっている。



堀川日置橋より兩岸の桜花を望む図（尾張名所図会）



岩井橋



鹽竈(しおがま)神社



松重閘門

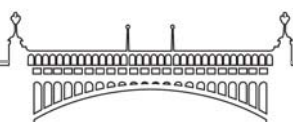


荷揚げ用クレーン

③ 主なまちづくりの取り組み

- 活 動
- ・松重閘門ライトアップ
 - ・桜の植樹事業
 - ・堀川のゴミ取り大作戦

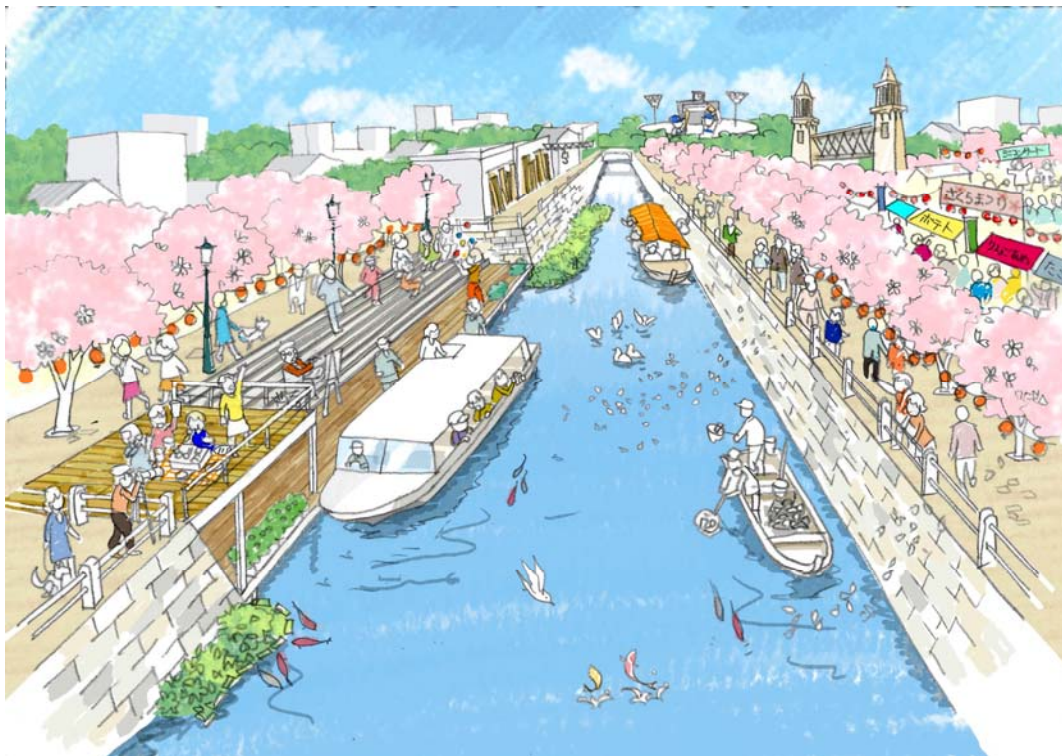
堀川および
堀川周辺の
活動団体





④将来イメージ

- ・松重開門や日置橋の桜並木など歴史を活かした堀川まちづくりの機運を高める



VI 熱田エリア

特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・熱田神宮や白鳥古墳に代表される悠久の歴史が残る ・宮の宿、熱田湊など尾張名古屋・東海道の歴史が残る ・交流拠点となる国際会議場が立地する
ビジョン	堀川誕生の起点、東海道宮の宿、熱田湊の歴史を伝える

① これまでの経緯や現状

- ・熱田神宮や断夫山古墳、白鳥古墳などが点在し、悠久の歴史を物語る。
- ・東海道の宮の渡し跡が復元され、かつて熱田神宮の門前町、湊町として栄え、東海道最大の宿場であった宮の宿の歴史を感じる歴史的建造物等が残っている。
- ・新堀川との合流点にあたり、開けた水面を望むことができる。
- ・護岸改修がほぼ完了しており、川沿いにはプロムナード（遊歩道）が整備されている。
- ・白鳥公園、宮の渡し公園には、船着き場が設置されており、イベント時等には名古屋城方面、名古屋港方面への船が運行している。
- ・平成元年(1989年)に、市制100周年記念事業「世界デザイン博覧会」のテーマ館として建設された名古屋国際会議場が隣接しており、約3,000名収容のセンチュリーホールなどがある。

② 主な歴史・文化・観光資源

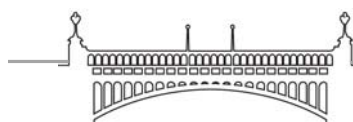
熱 田 神 宮 三種の神器の一つである草薙剣を神体とし、天照大神、素戔嗚尊、日本武尊、あまてらすおおみかみ すさのおのみこと やまとたけるのみこと宮貴媛命、みやきひめのみこと建稲種命たけいなねのみことを祀っている。平成25年(2013年)には創祀1900年の記念行事が予定されている。

断 夫 山 古 墳 東海地方最大の前円後円墳で6世紀初頭に築造されたと考えられている。熱田神宮公園の敷地も含めてかつては熱田神宮の管理下にあったが、第二次大戦後に名古屋市の戦災復興事業に伴い仮換地となり、昭和55年(1980年)に愛知県の所有となって現在に至る。昭和62年(1987年)7月9日に国の史跡に指定された。

白 鳥 古 墳 6世紀初め頃に造られたもので、尾張氏の墓であるという説が有力となっている。全長74メートルの前円後円墳だが、前方部全体と後円部の東部分が削られ原型は留めていない。

太 夫 堀
(白鳥貯木場跡) 名古屋城築城時に貯木場として掘られた。その後、木曾地域が尾張藩領となった時に白鳥材木役所がおかれた。寛永年間(1624～43年)に堀川左岸の法持寺西方に木曾材を揚げて売る材木場が設けられ、これに伴い堀川沿い(中区)に多くの材木屋が集中した。

宮 の 渡 し 東海道五十三次で知られる宮の宿から桑名宿(三重県桑名市)までの海上の渡しで、かつての官道。この渡しの宮の宿側、または、桑名宿側の渡船場のみを指して「七里の渡し」と呼ぶことも多い。



熱 田 荘 料亭「魚半」として建てられた。明治 29 年(1896 年)に竣工。木造二階建て、切妻造り、棧瓦葺平入りの建物で、戦時中は三菱重工業の社員寮として利用されていたが、現在は養護老人ホームとして使用されている。

丹 羽 家 木造 2 階建て、切妻造棧瓦葺。屋号を「伊勢久」と称し、幕末期には脇本陣格の旅籠を営み西国各藩の提灯箱などが残されている。市の指定文化財。

名古屋国際会議場 世界デザイン博覧会で建設された白鳥センチュリープラザを再利用して平成 2 年(1990 年)に設置された。客席数 3,000 席のセンチュリーホールのほかイベントホール、国際会議場、レストランを備える。平成 22 年(2010 年)には第 10 回生物多様性条約締約国会議(COP10)が開催された。



丹羽家



名古屋国際会議場



宮の渡し公園（常夜灯）



太夫堀（白鳥貯木場跡）



白鳥古墳



熱田神宮

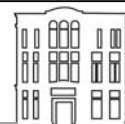


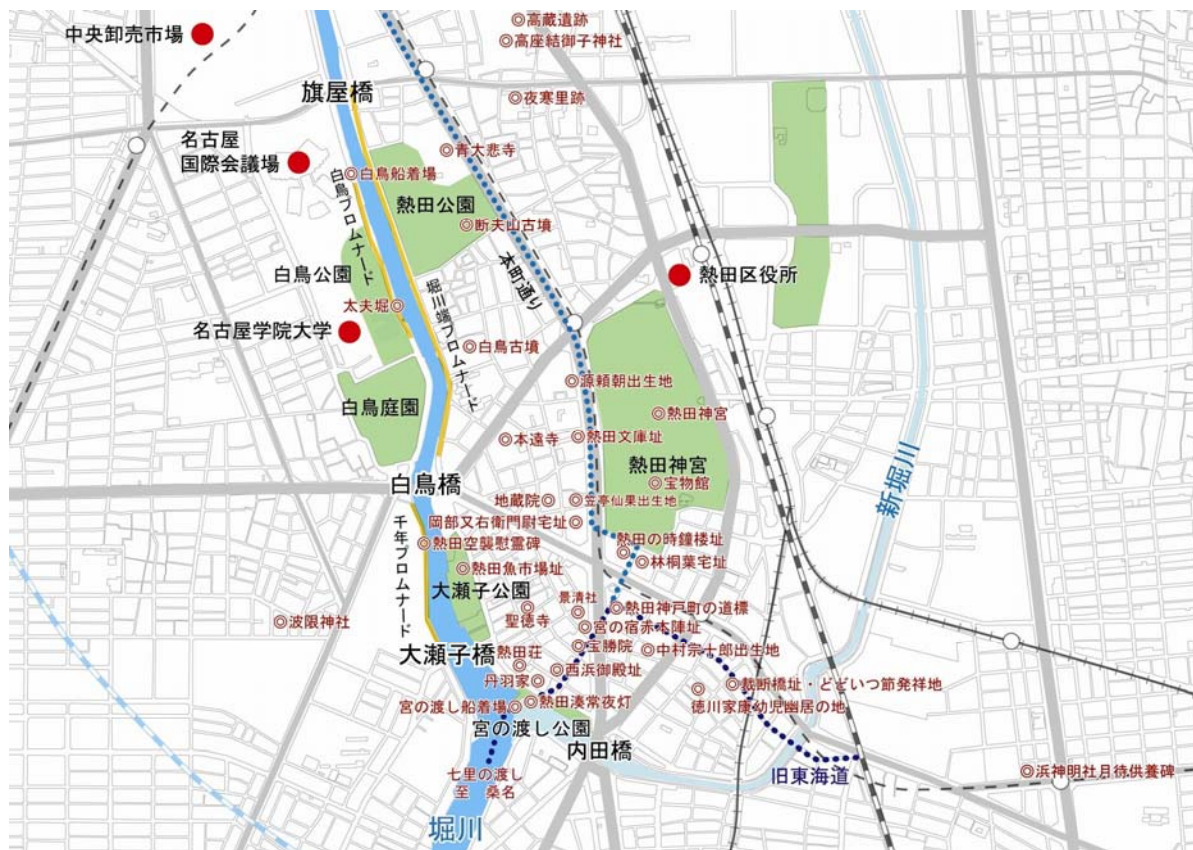
宮の渡し公園（時の鐘）

③主なまちづくりの取り組み

活 動 ・堀川まつり
・熱田区・名古屋学院大学との協働まちづくり

堀川および
堀川周辺の
活動団体 ・NPO 法人堀川まちネット
・熱田区まちづくり協議会
・堀川にぎわいづくり専門委員会
・あったか人まちづくり専門委員会





④将来イメージ

- ・ 熱田湊や宮の宿などの歴史資源を活かした堀川まちづくりの機運を高める
- ・ 国際会議場や熱田神宮などの集客施設との連携を深める



Ⅶ 堀川口エリア

特 徴

- ・近代名古屋の海の玄関と産業発展の礎となった港の歴史が残る
- ・ガーデンふ頭等の交流空間に近接する

ビジョン

近代名古屋の海の玄関と産業発展の礎となった港の歴史を伝える

① これまでの経緯や現状

- ・名古屋港ガーデンふ頭は「親しまれる港づくり」の中心拠点のひとつとして再開発等が進められ、にぎわいづくりが図られている。
- ・ガーデンふ頭には船着き場があり、堀川へとつながる船が運行されている。
- ・堀川の河口にあたる名古屋港築地ふ頭にはかつて名古屋港線の貨物駅「堀川口駅」があり、周囲の倉庫や工場からの貨物輸送を行っていた。堀川口駅は昭和29年(1954年)に移転。

② 主な歴史・文化・観光資源

名古屋港 跳上橋 堀川河口部の西側に位置し、旧1・2号地間運河に架設された鉄道用の跳上橋。可動橋の第一人者である山本卯太郎の設計。昭和62年(1987年)から可動部の桁を跳ね上げた状態で保存されている。平成11年(1999年)2月17日、国の登録有形文化財に登録される。さらに、平成21年(2009年)2月6日、経済産業省が認定する近代化産業遺産となる。

ガーデンふ頭 名古屋港水族館には世界最大級のプールがあり、イルカなどのパフォーマンスが楽しめる。また、ポートビルには名古屋海洋博物館や展望室(地上53メートル)が設けられており、その他、シートレインランドやJETTYなどの娯楽・商業施設もあるアミューズメントゾーンである。平成元年(1989年)の世界デザイン博覧会や平成17年(2005年)の愛・地球博ではイベント会場となった。毎年、海の日やクリスマスにもイベントが行われ、花火が打ち上げられている。



跳上橋



名古屋港ガーデンふ頭

③ 主なまちづくりの取り組み

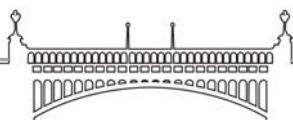
活 動 港まちづくり協議会





④将来イメージ

- ・ 都心と連携した観光拠点となるよう、堀川へつながる舟運を活かす
- ・ ガーデンふ頭のにぎわいとつながりをつくる



5章 実現に向けて

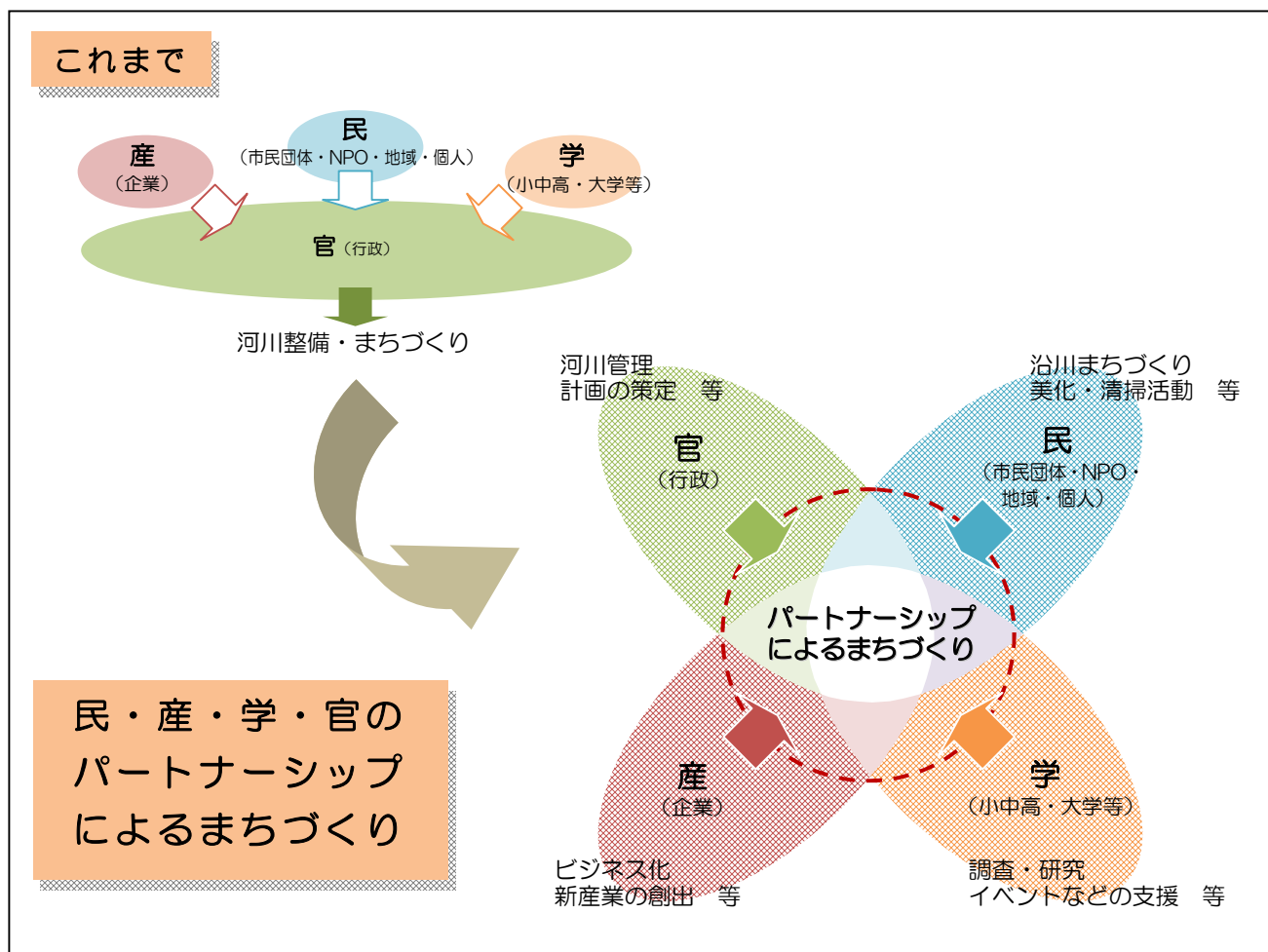


1. パートナーシップによるまちづくり

堀川では、これまでも、水質浄化・環境美化活動や歴史を活かした取り組み、祭りやイベントの開催など、多くの実施主体による活発なまちづくり活動が実践されており、堀川における市民活動の水準は既に高いレベルにあります。しかしながら、活動の多くが一部の団体に限られたものであり、団体相互の横のつながりも十分なものではありません。また、活動の舞台が河川であることから、河川整備はもとより堀川における多くのまちづくり活動が行政主導で取り組まれる傾向が強くなっています。

今後、堀川が市民の誇りとなる魅力ある川を目指すためには、堀川を舞台に多くの市民や企業、小中高・大学など、様々な実施主体が、親しみや愛着を持って活動できるような環境を整えることが必要です。市民（民・産・学）と行政（官）が、それぞれの自主性・自発性のもとに、相互の特性を認識・尊重しあいながら役割分担し、地域の魅力づくりと地域課題の解決に協力・協調して取り組むこと、すなわちパートナーシップのまちづくりを進めていかなければなりません。

従来の行政主導による仕組みではなく、市民と行政が、まちづくりにおける「目的・目標」を共有しながら、お互いの持つ強みを活かし合い、補い合うことができる仕組みを構築し、市民の意志や力をこれまで以上に活かしたまちづくりを進めます。



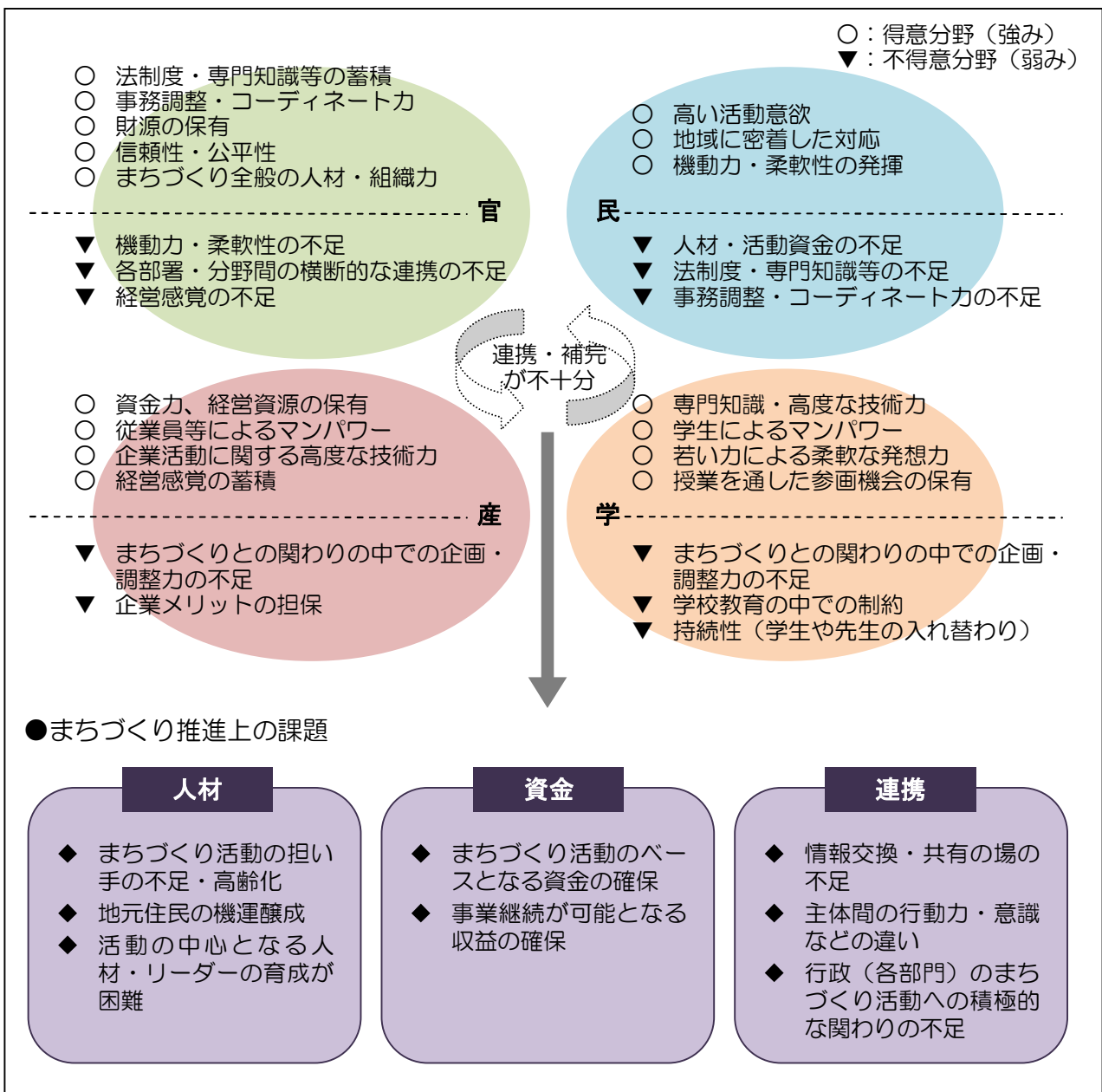
2. 構想実現に向けた道すじ

「民・産・学・官のパートナーシップによるまちづくり」を実践していくにあたって、民・産・学・官それぞれの主体が、各々の得意分野（強み）や不得意分野（弱み）を理解しあい、相互に補完しあいながら、密接な連携を図っていくことが重要です。

(1) まちづくり推進上の課題

現状のまちづくり活動においては、主体ごとの得意・不得意分野が十分に連携・補完されていないことによって、人材、資金、連携などの面において課題が生じています。

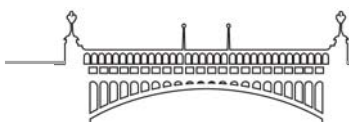
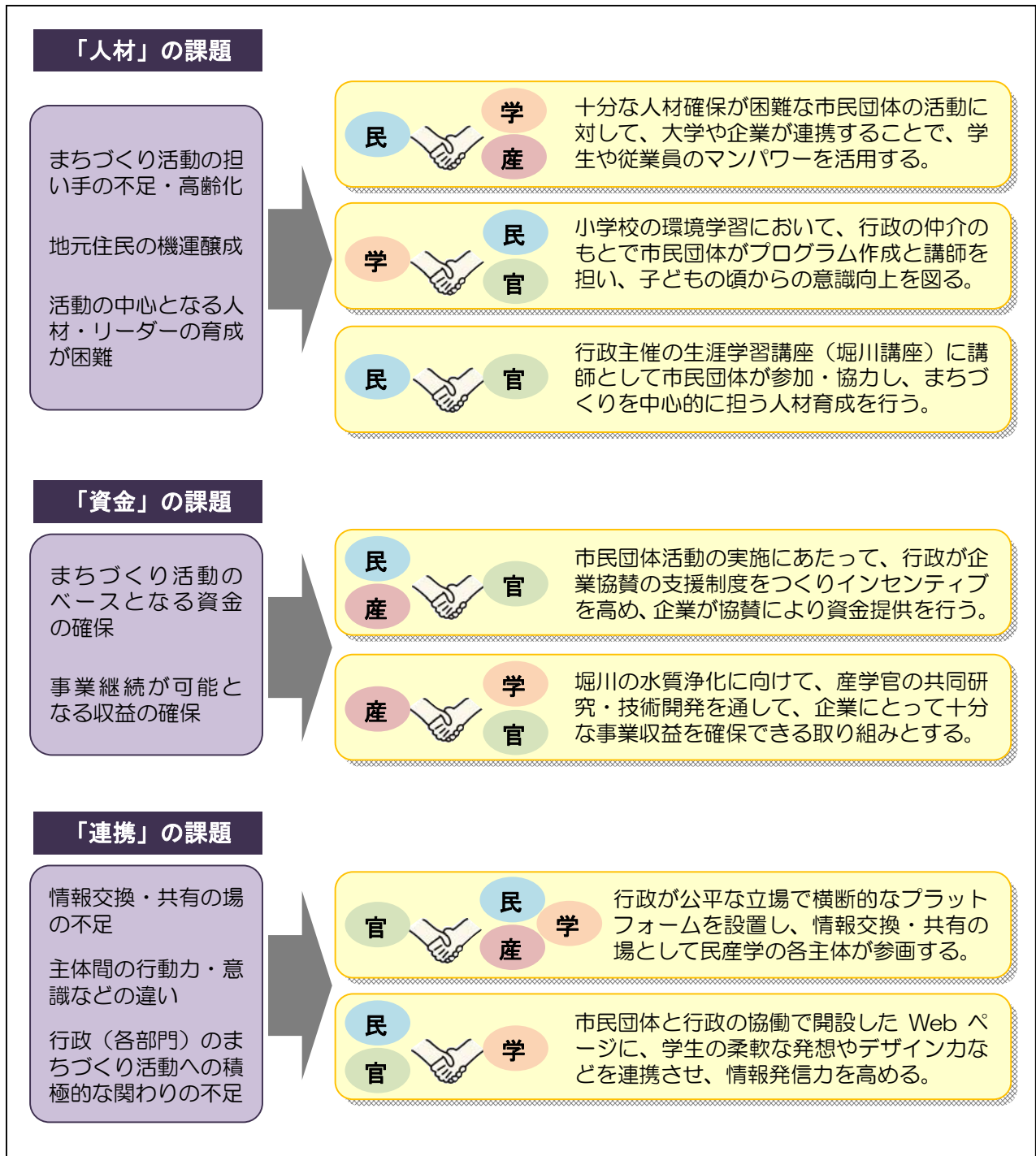
■主体ごとの得意・不得意分野とまちづくり推進上の課題



(2) 課題解決に向けた道すじ

4章で設定した堀川まちづくりの指針の実現をめざし、以下の例を参考にして、民・産・学・官それぞれの主体間のより密接な連携・協力により課題解決を図るまちづくりを進めます。

■まちづくり推進上の課題解決に向けた道すじ（例）



3. 推進方策

「市民の誇りとなる堀川」を実現するために、堀川力の向上に向けて掲げた「利活用」「まちとの一体性」「連携」の3つの視点を踏まえ、次の方策などに基づいて、まちづくり推進上の課題を解決し、民・産・学・官のパートナーシップによるまちづくりを実践していきます。

(1) 河川の利活用と人材育成等の支援

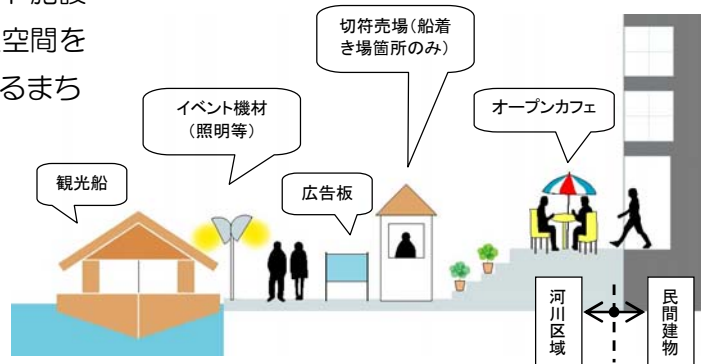
① 規制等の弾力的な運用による利活用の促進

現状では法規制などがネックとなり河川及び沿川の空間が十分に利活用されていない状況も見られるため、以下の例のように、障壁となっている規制などを弾力的に運用することで、河川及び沿川空間の一層の利活用を促していきます。

■ 規制等の弾力的な運用による河川空間の利活用方策（例）

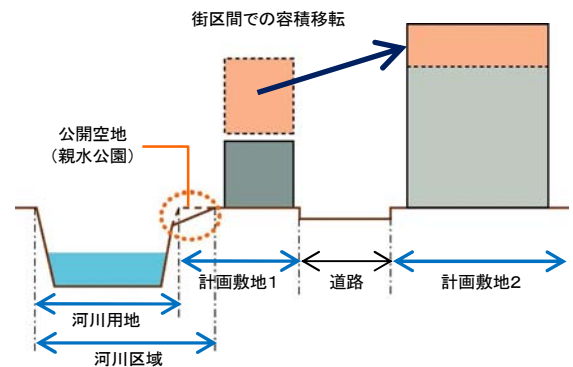
地域活性化のための河川敷地の占用に関する規制緩和

- 地域活性化等の観点から、イベント施設やオープンカフェの設置など水辺空間を活かしたにぎわいの創出や魅力あるまちづくりに向けて、地域のニーズに対応した河川敷地の多様な利用を可能とする。



複数敷地間の容積移転などによる沿川空間の有効活用

- 「特例容積率適用地区制度」(都市計画法第8条第3項第2号のホ)や一団地認定(建築基準法86条)などを活用し、複数敷地間で容積を移転することにより、河川沿いにオープンスペース(親水公園的空間)を生み出す。
- これにより、まとまった建築物の建築や良好な水辺空間の創造が可能となる。



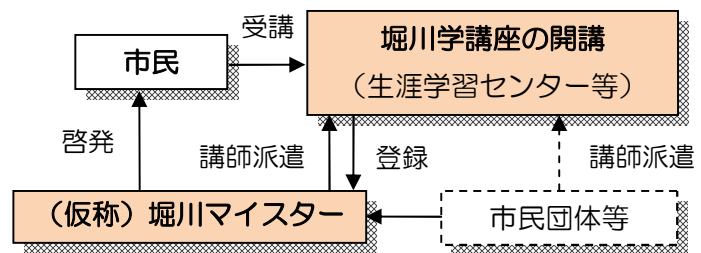
②まちづくり人材育成等の仕組みづくり支援

堀川では、これまで様々な団体・組織が活動を行ってきていますが、人材面、資金面などの制約によって、十分な活動を実践できていない実情も見られるため、以下の例のように、課題解決に向けた方策を講じることで、団体・組織が意欲や使命に応じて十分な活動を実践できるサポート環境を整えていきます。

■まちづくり活動を担う人材確保や資金調達を促す方策（例）

市民が市民を育てるまちづくり人材育成の仕組みづくり

- 「(仮称)堀川マイスター制度」を創設し、生涯学習センター等で実施する「堀川学講座」の受講者を堀川マイスターとして登録。
- 登録された堀川マイスターは、堀川学講座の講師としても活躍していただく。

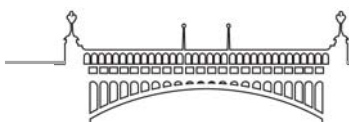


堀川に関心をもつ人を増やすための取り組み

- 堀川 1000 人調査隊が行っている「堀川応援隊」の取り組みを推進し、堀川に興味や関心をもつ人、堀川のまちづくり活動を応援する人の裾野を拡大する。登録された堀川応援隊には、随時情報発信を行い、堀川まちづくり活動への参加を啓発する。
- 堀川に関する総合的な情報提供を行うウェブサイト「(仮称)堀川ナビ」を開設するとともに、シンポジウムの開催や「(仮称)堀川まちづくりの会」による意見・提案窓口の設置など、様々なチャンネルを用いた情報の発信・共有の機会を拡充する。
- また、堀川に興味や関心をもって集まった人が、堀川まちづくりに継続して関わっていけるように、楽しみながら活動を続けられる工夫を講じる。

市民からの寄付金や企業からの協賛金をまちづくりに活かす仕組みづくり

- ふるさと納税制度の活用やコミュニティファンドの創設など、堀川のまちづくりを応援する市民からの寄付や企業からの協賛金をまちづくり活動に活用するための仕組みをつくる。
- スポンサー花壇の設置、桜並木や樹木などのオーナー制度などを活用し、市民や企業の参加と協働によるまちづくりを推進する。



(2) まちづくりと一体となった取り組みの推進

堀川では、これまでに民・産・学・官の様々な主体が、それぞれの分野や活動エリアで様々な活動を展開しています。しかし、それらの多くが、分野やエリアごとの活動であったり、また、川における活動として行われることが多く、他分野や周辺のまちと関わることで発展する余地を残しています。

今後、堀川における魅力あるまちづくりを一層進めていくため、分野やテーマを横断する取り組みを支援・推進するとともに、エリア間の連携や周辺のまちとの一体的な取り組みに向けた段階的なまちづくりを支援・推進します。

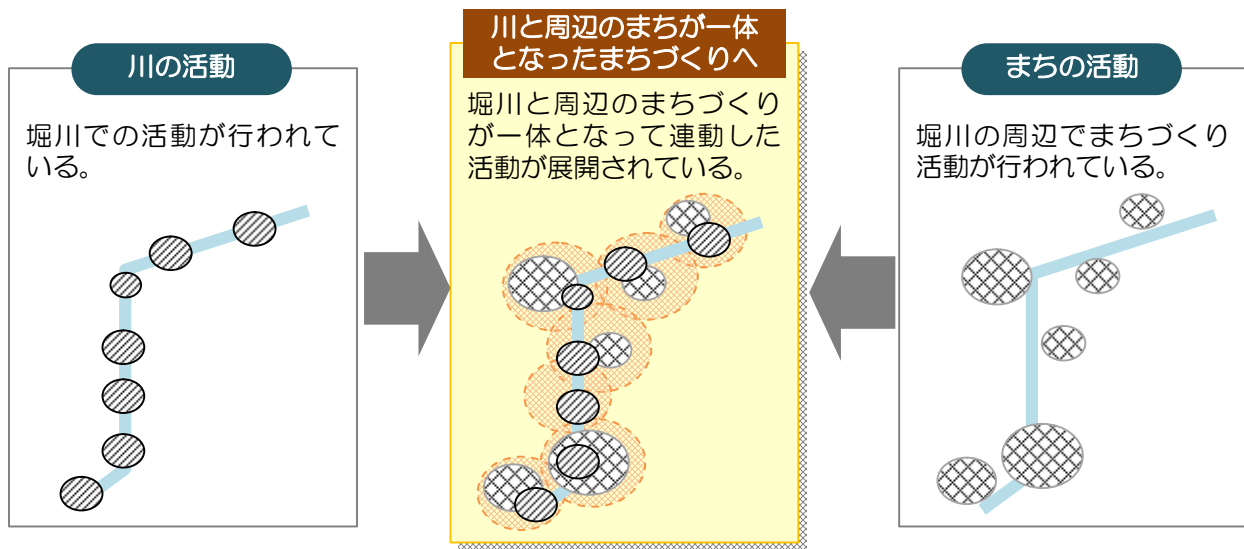
■まちづくりと一体となった取り組みを促す方策（例）

横断的なまちづくりの推進

- 河川区域に接する道路や公園などの公共用地については、用途は異なるものの同じ公共空間として、河川区域と一体となった土地利用が望まれます。沿川の土地利用の実情に合わせて、川と道路や公園をつないだ一体的な土地利用により、沿川の有効利用を図ります。
- 市民団体などにおいては、それぞれが環境美化、歴史、文化、緑化、舟運など様々なテーマで活動していますが、団体相互の連携を密にし、コラボレーションによる新たな魅力や価値を創造する取り組みを支援・推進します。
- 行政においては、河川のほか、道路、公園、市街地整備、観光、交通、環境、歴史まちづくりなどの組織間の連携を密にし、総合的な観点から堀川のまちづくりを推進します。

段階的なまちづくりの推進

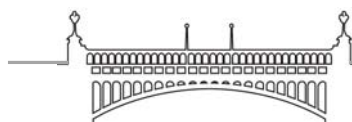
- エリアごとに活動の熟度は異なりますが、エリアの実情に合わせて、川と周辺のまちが一体となったまちづくりへと発展させていく段階的なまちづくりを支援・推進します。



■拠点エリアのまちづくり推進方策

7つの拠点エリアについて、堀川と周辺のまちが一体となった魅力あるまちづくりを展開するための考え方を示します。

エリア名	拠点エリアのまちづくり推進の考え方	
	現 状	展開例
I 黒川 エリア	遊歩道などの親水空間の整備が進められている。地域に根差した市民活動団体等により、地域住民や学校とともに自然観察会や清掃活動、友禅流しなどエリア内での活動が活発に実践されている。	今後も地域住民の参画を一層深めながら、他エリアとの連携も含めて沿川のまちづくりと一体となった取り組みをさらに推進し、堀川を中心として水と緑の自然ゆたかな地域づくりを進める。
II 名古屋城 エリア	護岸や船着き場等の整備が進んでおり、本丸御殿復元など名古屋城の歴史を活かしたプロジェクトが進められている。名古屋城や名城公園でイベントが開催されているが、堀川での市民や団体等による活動はあまり行われていない。	名古屋城や名城公園と連携させた市民や団体等によるエリア内の活動を活発化するとともに、朝日橋船着き場から名古屋城へのにぎわい創出を行い、舟運による他エリアとの連携強化や名古屋城を拠点とした沿川観光の活性化を図っていく。
III 四間道 エリア	周辺の町並み保存地区などでは地域住民や団体等による歴史を活かしたまちづくり活動が行われているが、堀川との関わりが薄い。護岸等の整備も未実施であり、沿川の建物や土地と川とのつながりも希薄である。	護岸や船着き場等の整備、沿川の建物や土地の親水性の向上などにより堀川としての魅力づくりを進めるとともに、舟運による他エリアとの連携強化や歴史資産を活かした周辺まちづくりとの連携を深める。
IV 納屋橋 エリア	護岸や船着き場等の整備がほぼ終わり、堀川のにぎわい創出の中心的なエリアとして、様々な団体・組織等によるイベントなどが活発に実践されている。また、イベント時には舟運による他エリアとの連携も図られている。	市街地再開発事業による施設整備を進めるなど、堀川舟運の基地として拠点性を高め、他エリアとの連携を強化するとともに、地域住民や企業等の参画を一層深めながら、沿川のまちづくりと一体となった取り組みをさらに推進し、堀川のにぎわいの中心として活気あふれる地域づくりを進める。



エリア名	拠点エリアのまちづくり推進の考え方	
	現 状	展開例
V 日置・松重 エリア	<p>松重閘門を拠点とした親水広場や護岸整備が計画されており、隣接する中川運河の再生計画も策定されたが、沿川や周辺における市民や団体等による活動はあまり行われていない。日置橋周辺ではかつての桜の名所の再生を目指して植樹事業が進められている。</p>	<p>護岸や親水広場、船着き場等の整備、桜の名所の再生などにより、松重閘門を拠点とした堀川の魅力づくりを進めるとともに、舟運による他エリアとの連携、中川運河との連携強化を図りつつ、堀川を活かしたまちづくりへの機運を高め、地域住民を巻き込んだまちづくり活動を展開していく。</p>
VI 熱 田 エリア	<p>護岸や船着き場等の整備が完了し、白鳥地区、宮の渡し地区において、団体や学生等によるまちづくり活動やイベントが実践されている。また、イベント時には舟運による他エリアとの連携も図られている。</p>	<p>これまでに整備された船着き場やプロムナードなどを有効利用し、団体や学生等によるまちづくり活動を一層活発化させるとともに、舟運による桑名方面など域外も含めた他エリアとの連携強化や熱田神宮、宿場町などの歴史資源を活かしたまちづくりへの機運を高め、地域住民を巻き込んだまちづくり活動を展開していく。</p>
VII 堀川口 エリア	<p>沿川には倉庫や工場が建ち並び、沿川での市民や団体等による活動はほとんど行われていない。名古屋港ガーデンふ頭では、にぎわいづくりの取り組みが進められているが、堀川との関わりは希薄である。</p>	<p>河口部の広い水面を有効利用するなど、堀川を活かした活動の機運を高め、堀川としての魅力づくりを進めるとともに、舟運による域外も含めた他エリアとの連携強化やガーデンふ頭および築地地区のまちづくり活動との連携強化を図り、地域住民を巻き込んだまちづくり活動を展開していく。</p>

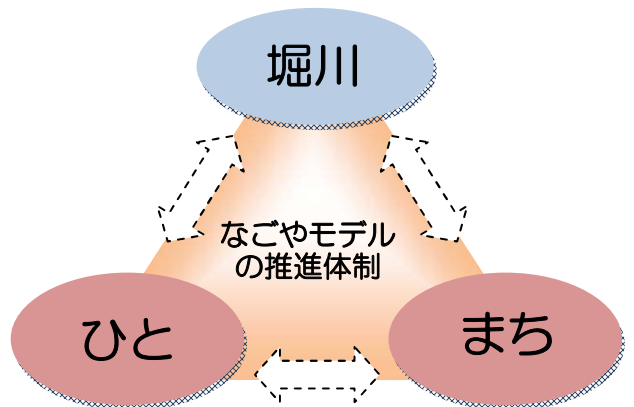


(3) 連携による推進体制の構築

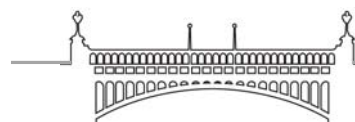
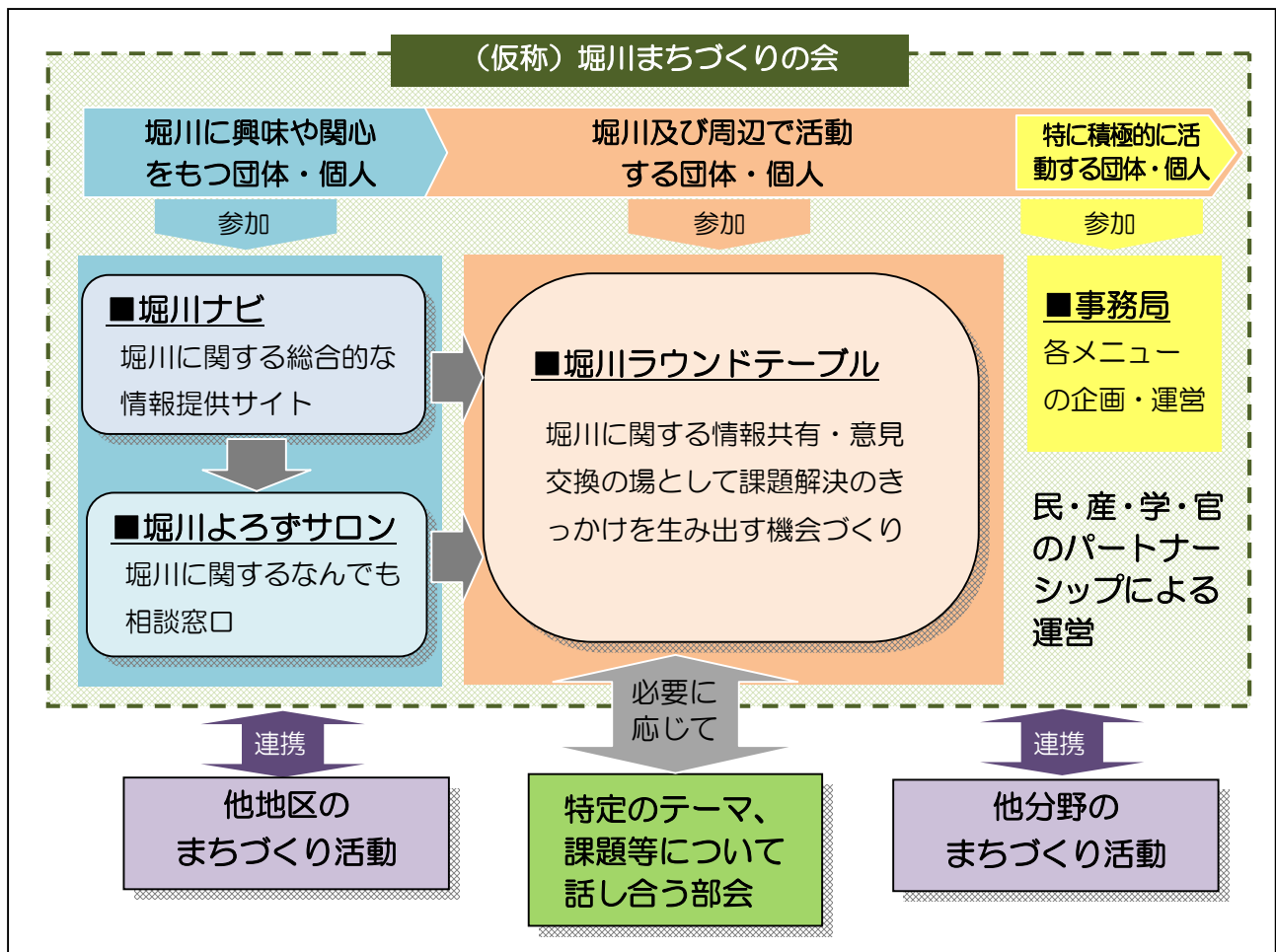
堀川での多くの活動実績を持つ民・産・学・官が、それぞれの得意分野を活かし不得意分野を補完しあうパートナーシップによるまちづくりを進める『なごやモデル』の推進体制の構築をめざしていきます。

堀川や周辺で活動する方たちによる情報共有と意見交換の場を創設し、イベントの共同開催やそれぞれがもつ課題解決のきっかけ作りを進めます。特定のテーマ、課題についての話し合いが必要な場合には、関係団体による部会の開催など、必要に応じてより深い協議が行えるしくみづくりを進めます。

また、新たに活動の提案や相談を受けとめる場として、相談窓口の設置や、情報共有・情報発信の場として、各団体の活動、イベント、窓口の案内などの情報を提供する専用ウェブサイトの設置など、堀川での活動のすそ野を広げるしくみづくりを進めていきます。



■なごやモデルの推進体制（例） ～（仮称）堀川まちづくりの会～







參考資料



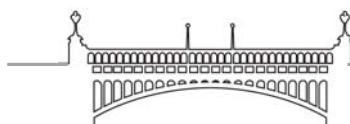
1. 策定経緯

「堀川まちづくり構想」の策定にあたっては、副市長を座長とした「堀川まちづくり協議会」を設置し協議を進めました。また「堀川まちづくり協議会」の下部組織として「堀川まちづくり協議会幹事会」を設置し協議事項についての調査検討を実施、さらに専門的な検討をするために「にぎわい部会」を開催し堀川に関わる多くの市民団体の意見を集約してきました。

また策定期間中に堀川に関するネットモニターアンケートや、シンポジウムを実施し、集約した市民意見も踏まえて構想を策定しました。

○ 堀川まちづくり協議会 委員名簿 () は前委員

役職	氏名	所属等
座長	入倉 憲二 (山田 雅雄)	名古屋市 副市長
委員	川口 正秀	クリーン堀川 会長
	服部 宏	堀川 1000 人調査隊 2010 実行委員会 事務局長
	内田 吉彦	名古屋商工会議所 理事 産業振興部長
	菅原 章文	社団法人中部経済連合会 常務理事
	松尾 直規	中部大学 工学部長
	森田 優己	桜花学園大学 学芸学部 教授
	秀島 栄三	名古屋工業大学大学院 工学研究科 教授
	小林 正典 (古川 陽)	国土交通省 中部地方整備局 建政部長
	五十嵐 崇博 (田村 秀夫) (山根 尚之)	国土交通省 中部地方整備局 河川部長
	守屋 正平 (春日井 康夫)	国土交通省 中部地方整備局 港湾空港部長
	吉永 隆博 (橋本 昌典) (森 勝彦)	国土交通省 中部運輸局 企画観光部長
	曾宮 和夫 (田村 省二)	環境省 中部環境事務所 統括自然保護企画官
	新開 輝夫 (鈴木 邦尚)	名古屋市 市民経済局長
	西川 敏 (長谷川 和司)	名古屋市 環境局長
	田宮 正道	名古屋市 住宅都市局長
	山本 秀隆 (村上 芳樹)	名古屋市 緑政土木局長
	長谷川 和司 (三宅 勝)	名古屋市 上下水道局長
	錦見 桂司 (鈴木 泰治)	名古屋港管理組合 企画調整室長
	羽根田 英樹	名古屋都市センター 上席調査研究統括官



○ 堀川まちづくり協議会幹事会 幹事名簿

() は前委員

役職	所属等	
会長	名古屋市	緑政土木局 河川部長 (緑政土木局参事【堀川総合整備】)
幹事	国土交通省中部地方整備局	建政部 都市整備課長
		河川部 地域河川課長
		港湾空港部 港湾計画課長
	国土交通省中部運輸局	企画観光部 観光地域振興課長
	環境省中部地方環境事務所	国立公園・保全整備課長
	名古屋市	市民経済局文化観光部観光推進室長
		環境局環境企画部環境企画課長 (環境局環境都市推進部生物多様性企画室長)
		環境局地域環境対策部地域環境対策課長
		住宅都市局都市計画部都市計画課長
		住宅都市局まちづくり企画部まちづくり企画課長
		住宅都市局まちづくり企画部臨海開発推進課長
		住宅都市局まちづくり企画部歴史まちづくり推進室長
		住宅都市局市街地整備部市街地整備課長
		緑政土木局主幹【企画】
		緑政土木局河川部河川管理課長
		緑政土木局河川部河川計画課長 (緑政土木局河川部堀川総合整備室長)
		緑政土木局河川部河川工務課長
		緑政土木局緑地部緑地計画課長 (緑政土木局緑地部緑化推進課長)
		上下水道局経営本部企画部経営企画課長
		上下水道局技術本部計画部下水道計画課長
	名古屋港管理組合	企画調整室計画担当課長
	名古屋都市センター	調査課長



《協議会の会議状況》



《幹事会の会議状況》



○ 堀川まちづくり協議会幹事会「にぎわい部会」 参加者名簿（開催当時）

役職	参加者	
部会長	秀島 栄三	名古屋工業大学大学院工学研究科 准教授
部会員	堀川まちづくり協議会幹事会 幹事	
	堀川に関する市民団体	堀川 400 年祭に関わった団体を中心に参加
	区役所まちづくり推進室	北・西・中・熱田の各区役所
	その他（関係回に参加）	市環境科学研究所、日本造園学会



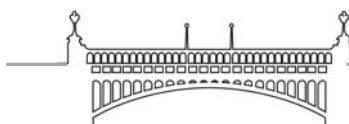
《にぎわい部会の会議状況》



《にぎわい部会でのワークショップの状況》

○ 堀川まちづくり協議会 開催経過

	開催年月日			事 項	
協議会	平成 22 年	8 月	26 日	第 1 回	堀川まちづくり協議会
	平成 23 年	6 月	21 日	第 2 回	堀川まちづくり協議会
	平成 24 年	2 月	14 日	第 3 回	堀川まちづくり協議会
	平成 24 年	8 月	28 日	第 4 回	堀川まちづくり協議会
幹事会	平成 22 年	11 月	30 日	第 1 回	堀川まちづくり協議会幹事会
	平成 23 年	2 月	3 日	第 2 回	堀川まちづくり協議会幹事会
		6 月	1 日	第 3 回	堀川まちづくり協議会幹事会
		12 月	20 日	第 4 回	堀川まちづくり協議会幹事会
	平成 24 年	1 月	24 日	第 5 回	堀川まちづくり協議会幹事会



○ 堀川まちづくり協議会幹事会「にぎわい部会」開催経過

	開催年月日	事 項
第1回	平成23年 9月 9日	テーマ「歴史・文化」 参加市民団体 4団体
第2回	9月 28日	テーマ「祭と交流の舞台・船の活用」 参加市民団体 8団体
第3回	10月 20日	テーマ「水・緑・生物を育む」 参加市民団体 5団体
第4回	11月 17日	テーマ「堀川を活かした景観・楽しむ場」 参加市民団体 3団体

○ パブリックコメント

実施期間	平成24年6月1日(金)～平成24年7月6日(金) (36日間)
提出状況	<ul style="list-style-type: none"> ・意見提出者数：34名 ・意見提出方法 <li style="padding-left: 20px;">郵 送： 6名 ファックス： 8名 <li style="padding-left: 20px;">電子メール：14名 持 参： 6名 ・意見総数：84建

○ その他

開催年月日	事 項
平成23年 8月 5日	堀川まちづくり協議会幹事会 現地見学会 開催
11月 4日 ～ 14日	ネット・モニターアンケート「堀川について」 実施
12月 10日	水辺×まちづくり 堀川の水辺空間活用シンポジウム 開催



《幹事会現地見学会》



2. にぎわいづくりのアイデアとヒント（にぎわい部会より）

堀川まちづくり協議会にぎわい部会では、堀川まちづくりの6つのテーマ毎ににぎわいづくりのためにこれまで取り組んできたことや、今後取り組んでみたいことを提案しあい、さらに、取り組み実現における課題と課題解決に向けたアイデアについても、意見を出し合いました。

そして、今後の堀川でのにぎわいづくりに活かせるよう、これらのアイデアをヒントペーパーとして取りまとめました。

堀川での取り組み

歴史・文化の掘り起こし

- 歴史散策ウォーキング、講演会、展示会の開催
- 語り部による座談会の開催
- ◎堀川にある歴史・文化施設の整理、案内
- ◎歴史的建造物を活用した周辺まちづくりとの連携

イベントの開催

- 川の中や船上からの生物観察会、魚の放流、外来種駆除
- 屋台の出店、楽器の演奏など人が集まるイベント
- 上流から下流までのいっせい清掃活動
- 水質浄化効果のある植物を植え、市民参加による収穫祭
- 写真コンテスト
- ◎5年くらい毎の大規模な名城・堀川まつりと花火大会
- ◎かつて堀川で行われていた伝統行事の発掘・復活
- ◎複数の地区を水上バスで繋いでの同時開催イベント
- ◎にっぽんど真ん中祭りのような市民参加型イベント
- ◎英傑行列、どまつりなど市民に定着している祭の堀川での開催
- ◎400年の歴史を子どもたちに伝えられるようなイベント
- ◎堀川で活動している人々が皆で一緒に取り組むイベント

その他

- イベントの際に上下流交流として岐阜・長野の特産物を販売
- 堀川ギャラリーの更なる活用

周知・案内

- 歴史散策ボランティアガイド・クルージングガイドの実施
- 拠点地区での観光・名物・飲食などを紹介する施設の設置
- ツイッター、ソーシャルネットなどITを活用した口コミ
- 船着き場を拠点とした歴史散策マップ、緑と花のマップの作成
- ◎官民一体となった事業やイベントの周知、宣伝

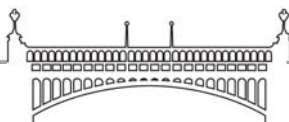
舟運の活用

- 貸切船・ゴンドラの運航
- 国際会議場やポートメッセでの催しに合わせて運航
- 堰により水位を一定にしてボート遊びを開催
- 花見船や月見船などイベント船の運航
- ◎水上バスの定期運航
- ◎七里の渡し（熱田―桑名）航路の復活

施設整備

- 護岸整備、ヘドロのしゅんせつ
- 桜の植樹による桜並木の復活
- 企業とタイアップした花壇づくり
- ◎散策道、休憩施設、船着き場を設置
- ◎堀川観察館の設置

- ：既の実施しているもの
- ：具体的な提案
- ◎：概略的な提案



課題

人材

- ・後継者不足
- ・かつてのにぎわいを知る人の高齢化
- ・取り組みの中心となる人材が限定、育成が必要
- ・地元ボランティアが不可欠
- ・納屋橋周辺は居住者が少なく、土日の地元ボランティアの確保が困難

資金

- ・事業継続が可能となる収益の確保
- ・ベースとなる資金の確保
- ・主に広報面での資金集め
- ・資金面や周囲の人々の行動力の欠如
- ・楽しいイベント時の販促の少なさ
- ・企業等からの協賛金の縮小

地域・行政などとの連携

- ・観光施策として観光部署の積極的な関わりが必要
- ・行政が引っ張り、市民団体が後押しする形が理想
- ・堀川沿いの企業によるコラボ
- ・にぎわいづくりに関して情報交換会の場がない
- ・地元住民の機運醸成が必要
- ・行動力、法規制、そして堀川に対する意識のちがいが
- ・他の団体のイベントに協力したくても情報がはいつてこない
- ・事務局は、公平な視点で全体を眺めて推進していける機関が担うべき

その他

- ・港湾区域での許認可手続きが煩雑
- ・残された歴史的建造物の保存・活用策
- ・臭い、汚いといった堀川のイメージ回復
- ・興味がある人が絶対に集まるという“コレ”が堀川にはない
- ・ビジネスチャンスとして入ってくる人がうまく融合できる受け皿が必要
- ・川に生き物が見られない

解決へのアイデア

人材育成・発掘

- ・生涯学習センター等で「堀川学」講座を開講し、受講生のOB会を組織
- ・堀川マイスター制度の創設
- ・市民団体からの堀川関連講座への講師の派遣
- ・小学校での堀川の歴史教育・環境教育
- ・学校が取り組みたくなる学習プログラムの確立
- ・段階的な参加の仕組みの構築（学ぶ・聴く・行動する）

資金調達

- ・柔軟な助成金制度の創設
- ・企業が協賛したくなるメニューの検討
- ・企業からの協賛金や市民からの寄付を受け入れる基金の創設

組織・情報発信

- ・多くの関係者が定期的に集まり情報共有を行う場の設置
- ・市民団体の団結による連合組織の結成
- ・若い力を発揮できる場の創出
- ・堀川関連の情報を網羅した専用ウェブサイトによる情報発信
- ・キラッと名古屋等アナログ媒体での情報発信

魅力発信

- ・堀川ブランドの確立
- ・まち歩き単体ではなく、食事など他のテーマとのコラボによるイベントの開催
- ・生き物がいることを見せるしかけづくり
- ・団扇絵など歴史資産を活用したグッズ製作
- ・堀川ではいつも何かが行われているというイメージづくり
- ・名古屋城とのコラボ
- ・市民が主体となる場というイメージづくり

その他

- ・イメージ回復のための水質浄化施策の推進

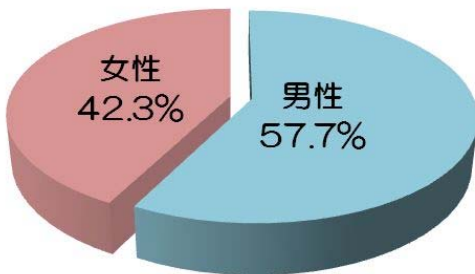


3. ネット・モニターアンケートの概要（抜粋）

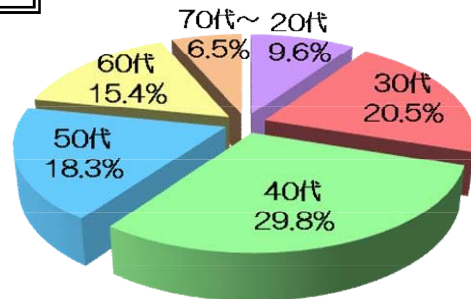
市民の皆様が堀川についてどのように感じ、何を求めているのかをおたずねし構想策定の参考とするためネット・モニターアンケートを実施しました。

調査テーマ	堀川について
アンケート実施期間	平成 23 年 11 月 4 日（金）から平成 23 年 11 月 14 日（月）まで
モニター数	499 人
アンケート回答数	449 人（有効回答率：90.0%）

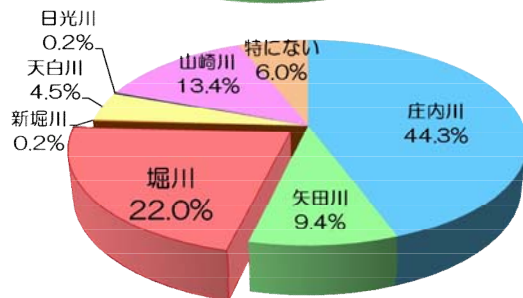
性別構成



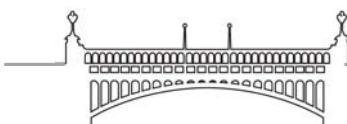
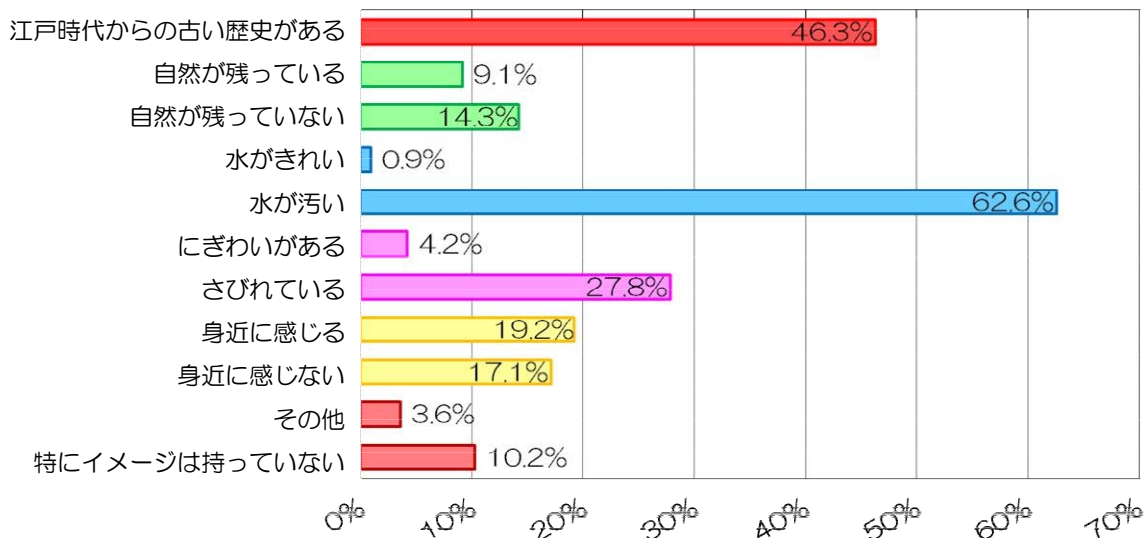
年代構成



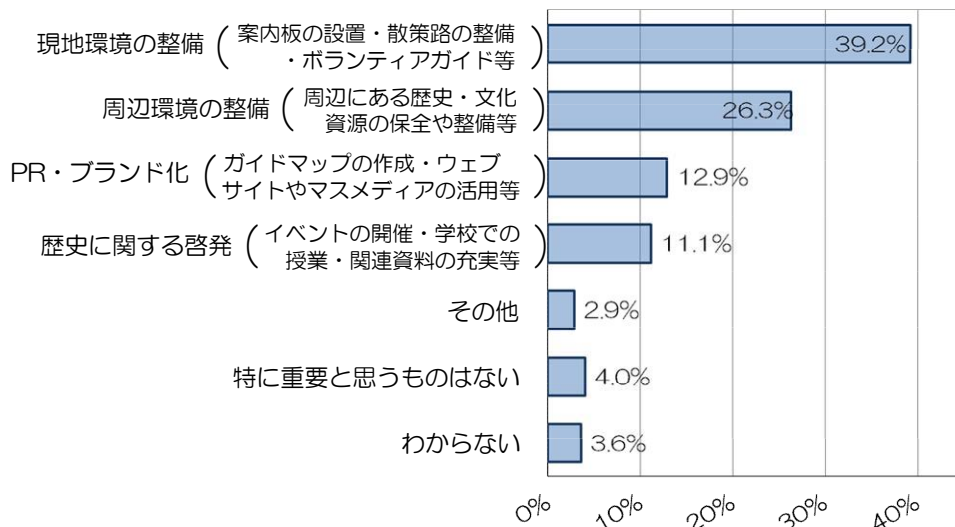
◆ あなたが名古屋を代表する川としてイメージするのはどれですか



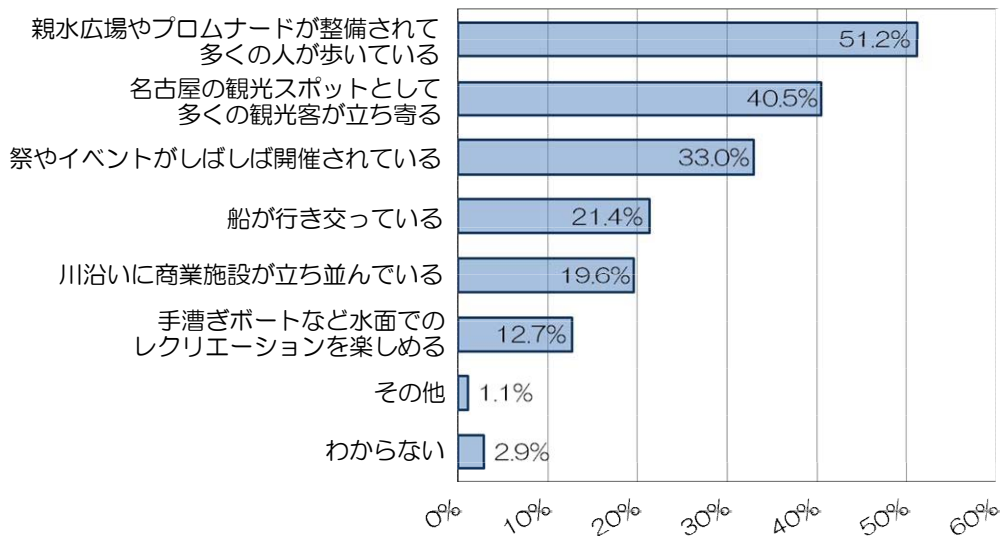
◆ あなたは堀川にどんなイメージを持っていますか（複数回答可）



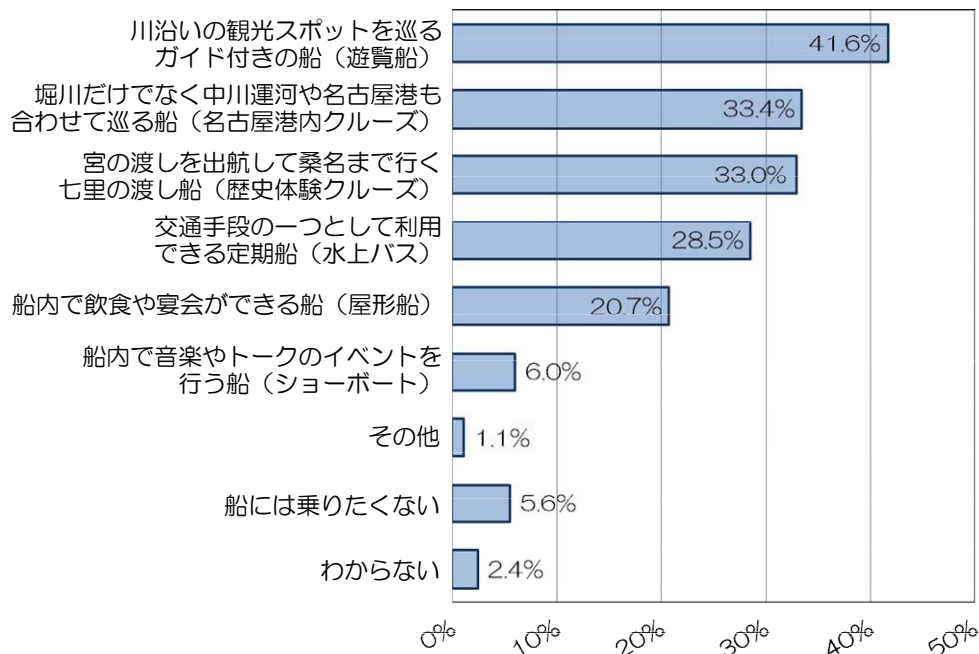
◆ 「堀川の歴史・文化を活かしたにぎわいづくり」で最も重要と思うのはどれですか



◆ 堀川の「にぎわい」とはどのようなものがふさわしいと思いますか（複数回答可）



◆ 堀川で船に乗れるとしたら、どんな船に乗ってみたいですか（複数回答可）



4. 堀川の水辺空間活用シンポジウム

水辺×まちづくり 堀川の水辺空間活用シンポジウム

日時 平成 23 年 12 月 10 日 (土) 17:00~19:30

場所 朝日ホール (朝日会館 15 階)

主催 堀川 1000 人調査隊 2010 実行委員会

堀川ウォーターマジックフェスティバル実行委員会

名古屋都市センター

名古屋市



概要

開催内容

第 1 部 各都市事例紹介・水辺とまちのつながり方

- 1 大阪の事例…NPO 法人水都 OSAKA 水辺のまち再生プロジェクト 理事 末村巧氏
- 2 広島の実例…水の都ひろしま推進協議会 事務局
広島市都市活性化局観光交流部交流課水の都担当 勢良寛氏
- 3 東京の事例…BOAT PEOPLE Association 山崎博史氏

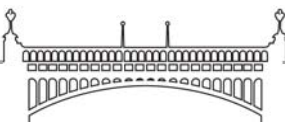
第 2 部 トークセッション・水辺空間の使い方

- 1 山崎亮氏 (Studio-L 代表、京都造形芸術大学教授) 講演
- 2 山崎亮さんと語る、堀川の水辺空間の使い方
パネリスト
○山崎亮氏 Studio-L 代表、京都造形芸術大学教授
○丹坂和弘氏 堀川ウォーターマジックフェスティバル実行委員会
○秀島栄三氏 名古屋工業大学大学院准教授、堀川まちづくり協議会委員
○羽根田英樹氏 名古屋都市センター上席調査研究統括監、堀川まちづくり協議会委員



総合司会 ○服部宏氏 堀川 1000 人調査隊 2010 実行委員会事務局長、堀川まちづくり協議会委員

●参加者数 約 150 名



開催記録

あいさつ（服部宏氏 堀川 1000 人調査隊 2010 実行委員会事務局長）

本日は、堀川 1000 人調査隊 2010 実行委員会、堀川ウォーターマジックフェスティバル実行委員会、名古屋都市センター、名古屋市の 4 団体の協働主催で開催いたしました。

シンポジウムのタイトルに、「堀川×（かける）まちづくり」とありますが、この“かける”というところに、本日のシンポジウムを開催するにあたっての、“思い”が込められています。皆さんは一生懸命堀川での活動に取り組んでいらっしゃいますが、もっともっと堀川を良くしていくために、様々な事例を聞いて、“気づき”を生み出していただくということが、本日の最大のテーマです。そして、気づいたことを“かける”ことで、より大きな成果にしていきたいです。

大阪や広島や東京から来ていただいている皆さんの中には、もうすでに今朝から堀川をずっと歩かれた方もいらっしゃいます。そういった方々の素晴らしい熱意を私たちも受け取り、シンポジウムを有意義なものにしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

第 1 部 各都市事例紹介・水辺とまちのつながり方

1 大阪の事例（NPO 法人水都 OSAKA 水辺のまち再生プロジェクト理事 末村巧氏）

北浜テラスの取り組みや、水辺ランチや水辺不動産、水辺 MAP の活動を通じた、市民や沿川地権者等への水辺のまちの魅力や情報発信の取り組みについて発表。



2 広島の事例（水の都ひろしま推進協議会事務局

広島市都市活性化局観光交流部交流課水の都担当 勢良寛氏）

河川河岸緑地のオープンカフェ、市民民間活動との連携、雁木等の親水空間を始めとした川面に向けたまちづくりの取り組みについて発表。



3 東京の事例（BOAT PEOPLE Association 山崎博史氏）

船×αの企画による新しい水辺の楽しみ方や、水面に触れる機会づくり、水辺とまちのつながり、水辺魅力の情報発信の取り組みについて発表。



第 2 部 トークセッション・水辺空間の使い方

1 山崎亮氏（Studio-L 代表、京都造形芸術大学教授）講演

使う人次第で都市基盤がいかに魅力的な空間になり得るか、また、そのために市民、市民団体、行政は、何を考えて行動しなければならないのかについて講演。



2 山崎亮さんと語る、堀川の水辺空間の使い方

●テーマ 1 「MOTTO!! イベント」

羽根田氏 3つのテーマに沿ってディスカッションを進めていきます。まず最初に、「イベント」というキーワードについて、堀川でもっとこのようなことができるのではないかと、「とがった気づき」を述べていただきたいと思います。



丹坂氏 堀川というすごい資産があるのに、なぜ使わないのかと切実に感じたことが、イベントを開催するきっかけとなりました。ウォーターマジックフェスティバルは、「堀川の持つ不思議な力」をコンセプトに、堀川が持っている可能性を引き出して行くことを目的としています。舟運の復活、水辺での文化芸術の発信、オープンカフェの実施などを通して、水辺の魅力を知っていただこうと思い、一生懸命取り組んでいます。



秀島氏 水辺からは新しいものが生まれやすく、際どいところ程わくわくするものが生まれてきます。そういったところから新しいものを生み出す人が出てくることを待ち望んでいます。

山崎氏 「水辺×まちづくり」の“かける”が大事だというお話がありましたが、水辺と関係ないと思うことでも、水辺にどう掛け合わせてみるかという発想が必要です。ユニークな食べ物の数々をみてもわかるように、名古屋の人は掛け合わせることが得意です。水辺と何かを掛け合わせ、常にフレキシブルに提案していくことが、少しずつ水辺の活動を認知してもらう、あるいは活動が定着していくことの大きな一歩になると思います。

●テーマ2 「MOTTO!! 活用」

羽根田氏 次のテーマは「活用」です。活用することで、イベントとは違い、長期間に渡る使い方が定着していきます。



秀島氏 船で見る視点は、いつもと違うものを感じさせます。舟運を活用することで、いつもと違った景色を感じさせる機会がもっと増えればよいと思います。

丹坂氏 堀川の活用という、やはり舟運の復活です。名古屋城と納屋橋をつなぐ航路の途中には、円頓寺商店街があり、四間道の古くて良い町並みがあります。川が活用される事により、その沿川の町もどんどん変わっていける可能性があります。色々な人に水面から町を眺めてもらうことで、水辺の使い方のアイデアが出てくるのではないのでしょうか。

また、水辺空間の活用を始めたいという方達に沢山集まっていた頂き、議論する場を作りたいと思っています。そういうところから、堀川を活用していきたいです。

山崎氏 活用には、非日常の活用と日常の活用との2種類がありますが、非日常の回数を増やせば、日常になるということではなく、それらは別のものとして考えていかなければいけません。

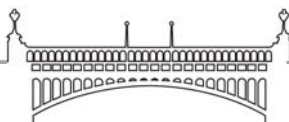
日常的に格好よくおしゃれに川を使いこなしている人をどんどん知ること、そして、そういう人達と一緒にイベントを行うことで、日常としても非日常としても、こういう風に水辺を使えるんだという感覚を伝え、広めていくことが大事だと思います。

●テーマ3 「MOTTO!! 協働」

羽根田氏 最後のテーマは「協働」です。現在堀川には、地元の方や行政が入った、すごい協議会ができています。そのなかでは、どのような仕組みや、協働の形があったら良いと思われませんか。

丹坂氏 ある程度行政に方向性を出してもらった方が、市民としてのまとまりが良いと感じています。名古屋の人は、発想はあっても前にも進めないところがあります。自由な発想がもう少し表に出て、うまく回る仕組み作りができないかなと思います。

秀島氏 今まで産学官民の役割や責任などの話し合いをしてきましたが、今日一番強く感じた事は、誰がやっても良く、やれる人がやるのが一番良いということです。活動している人が集まっているのは、それだけでも非常に楽しいので、義務感でやるのではなく、楽しくやるのが1番だと強く思いました。



山崎氏 水辺で活動する、水辺で色々な人達とつながっていくということは、もちろん楽しいからやるという事がスタートラインだと思います。この、楽しいからやるということが段々と広がり、それで食っていくことにつながっていく可能性も十分にあると思います。



この種の活動をする時に、大事なことが3つあります。1つ目は、楽しいと覚えること、あるいは自分がやってみたいと思うこと。2つ目は、意志。しかし、意志だけでは難しいので、やりたい事とできる事のバランスをとって、活動を進める事が必要です。3つ目は、社会が求めること。つまり、やりたいこと、できること、社会から求められていること、この3つのバランスをとりながら、水辺で活動をしていけば、活動が続いていくし、楽しいし、皆からも感謝されます。この3点を組み合わせて活動することが大事ですし、協働の仕組みを作る時は、この3点をうまくバランスさせるような仕組みが必要です。

羽根田氏 堀川は非常に大事な時期に来ています。ここで頑張ると、ブレイクスルーするチャンスが必ず来ると思っています。皆さんと一緒に、もっともっと前に進んでいきたいと思っています。

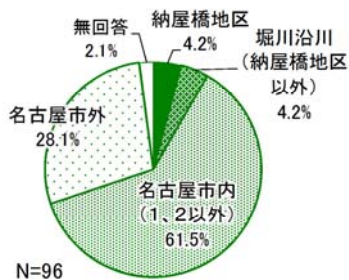
あいさつ（服部宏氏 堀川 1000 人調査隊 2010 実行委員会事務局長）

「堀川×まちづくり」として、ここにお集まりの 150 名一人ひとりが、本日の“気づき”を掛け算して、堀川に関わっていくと、ものすごい成果が出ると思います。本日は、誠にありがとうございました。

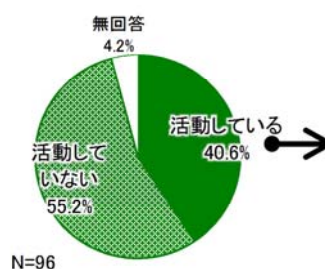


アンケート結果（回答者：96 人）

○お住まいはどちらですか



○堀川での活動をしていますか



活動の種類

- ・市民団体 19 人 (48.7%)
- ・企業 5 人 (12.8%)
- ・学校 1 人 (2.6%)
- ・その他 12 人 (30.8%)

○堀川の魅力をさらに高めていくため、誰が、何をする必要がありますか。 ※主な意見を抜粋

- ・ 1 にも 2 にも水質の改善。水辺に人は集まります。美しい水辺であれば。
- ・ 新たなコミュニティの形成。新しい発想を持った企画、まちづくり、活動する人の集まる仕掛け。関心を持つ人、関係者が常に集まり、意見の出せる場所（行政のサポート）。
- ・ 周辺企業をもっと巻き込む必要がある。
- ・ 活動があまり知られていない。地道な活動も必要だが、もっと情報を伝える工夫がいるのでは。
- ・ 多くの市民がとにかく何かに関わることだと思う。





堀川のイメージキャラクター
「ホリゴン」

堀川まちづくり構想

～ “うるおいと活気の都市軸・堀川” を再び～

堀川 × ひと × まち

名古屋市 緑政土木局 河川部 河川計画課
〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電話番号：052-972-2891（堀川ダイヤル）
FAX：052-972-4193
電子メール：a2881@ryokuseidoboku.city.nagoya.lg.jp